

付 日蘭会商*

317 昭和9年1月9日

在オランダ斎藤公使より
広田外務大臣宛(電報)

蘭印と日本の全般的通商關係調整のための会議開催などに関するオランダ外務大臣書簡につき外務次官に問合せについて

別 電 一月十日発在オランダ斎藤公使より広田外務大臣宛第五号

右オランダ外務大臣書簡訳文

ハーベ 1月9日後発

本 省 1月10日前着

第四號 往電第三號ニ關シ

本九日外務大臣ヨリ別電第五號ノ如キ來信アリタル處右ハ從來ノ話ト相違スル點アルニ付一應和蘭側ノ意嚮ヲ確メ置クコト必要ニシテ往電第三號ノ筋合ニテ交渉ヲ進ムルコト能ハスト思考シ外相不在ナリシ爲外務次官ニ面會ノ上

(一)、外務大臣來翰ハ蘭印政府カ割當實施ヲ行ハントスルノ

ハ全ク新シキ話ニテ從來斯ル話ナカリシコト

四、⁽¹⁾ 蘭印ト日本ノ全般的通商關係調整ノ爲ノ商議ニ關シテモ今回カ最初ノ提案ニテ日本側カ「バタヴィア」ヲ希望スト云フカ如キモ綿布問題ノミニ關シ日本又ハ爪哇ト云フ如キ話アリタルモノニシテ事ノ是非ハ別トシ此ノ點ニモ多少誤解アルコト等ヲ指摘シタル處次官ハ自分ハ本問題ヲ熟知セサルニ依り大臣トモ協議ノ上何分ノ回答ヲ致スヘシト答へ又本使ヨリ從來「コ」首相ノ希望ニ依リ直接自分ト首相トノ間ニ會談

シ居リ其ノ都度其ノ内容ヲ外務省側ニモ御傳ヘシ居リタルモノナルカ今回ノ公文ニ接シ今後ノ交渉ハ如何爲スヘキヤ躊躇セサルヲ得サルニ依リ御意見ヲ承知シ度シト述ヘタル處次官ハ此ノ點モ大臣ト協議ノ上回答スヘシト答ヘタリ

別電來翰カ植民省側ノ案ニ對シ外務省側カ手ヲ加ヘ通告ノ如キ形式ヲ採リタルニハ先方ニ種々事情モ有之可キモ之カ對策ニハ慎重考慮ヲ要ス可ク今後我方ノ探ル可キ態度トシテ思付ノ儘ヲ述レハ

(二)十個月間ノ假措置ヲ出來得ル限り我方ニ有利ナラシム可

ク品種ヲ「ホワイト、キヤンブリック」ニ限定シ且數量モ能フ限リ有利ナルモノトス可ク努力スルコト

(三)他ノ品種カ問題トナル以前ニ會商ヲ⁽²⁾瓜⁽³⁾哇ニ行ヒ蘭印側ノ利益ヲ強調シ有利ナル展開ヲ計ルコト

(四)全般的通商關係整調ノ爲ニハ蘭印物資中可能ノモノノ買付ヲ考慮シ今ヨリ各方面ニ亘リ準備ヲ進メ置クコト等ナルカ本件ハ我國ノ經濟發展上重大ナル問題ナルヲ以テ今後ノ方針ニ付何分ノ儀御回訓相成様致度シ

英、「バタヴィア」へ轉電セリ

豫告ニテ右實施ニ關シ我方ト協議スル爲ノ具体案ニ非サルコト

(一)、品種ニ關シ「キヤンブリック」ト了解シ居タルニ晒綿布全体ト爲シ居ルコト(其ノ後電話ニテ次官ヨリ「ヘル

デレン」(殖民省側)ニ問合セタル處 Cotonnades blanches⁽⁴⁾ハ「ホワイト、キヤンブリック」ト全然同意

義ナルコトヲ確メタル趣申越シタリ但シ「キヤンブリック」ノ定義ハ尙問題トナル餘地アルカ如ク思考セラル)

(二)、他ノ品種ニ依リ制限セラレタル品カ代用セラレ其ノ輸入カ增加スル場合ニ何等措置ヲ採ルコトアルヘシト云フハ全ク新シキ話ニテ從來斯ル話ナカリシコト

(三)、蘭印ト日本ノ全般的通商關係調整ノ爲ノ商議ニ關シテモ今回カ最初ノ提案ニテ日本側カ「バタヴィア」ヲ希望スト云フカ如キモ綿布問題ノミニ關シ日本又ハ爪哇ト云フ如キ話アリタルモノニシテ事ノ是非ハ別トシ此ノ點ニモ多少誤解アルコト

(四)、⁽¹⁾ 蘭印ト日本ノ全般的通商關係調整ノ爲ノ商議ニ關シテモ今回カ最初ノ提案ニテ日本側カ「バタヴィア」ヲ希望スト云フカ如キモ綿布問題ノミニ關シ日本又ハ爪哇ト云フ如キ話アリタルモノニシテ事ノ是非ハ別トシ此ノ點ニモ多少誤解アルコト

等ヲ指摘シタル處次官ハ自分ハ本問題ヲ熟知セサルニ依リ

大臣トモ協議ノ上何分ノ回答ヲ致スヘシト答へ又本使ヨリ

從來「コ」首相ノ希望ニ依リ直接自分ト首相トノ間ニ會談

本件割當實施ノ結果若シ晒綿布ノ輸入カ他ノ綿布ノ輸入ニ依リ代ヘラルルノ傾向アル場合蘭印政府ハ假ニ他ノ綿布ヲモ制限スルノ必要ニ迫ラル事アルヘシ

上記ノ點ヲ閣下ニ傳達スルト共ニ余ハ和蘭政府ハ近來蘭印ト日本トノ貿易「バランス」カ passif の性質ヲ有スルコトヲ認メ居ルコトヲ附加致度シ

此ノ passif の傾向ヲ改善スル爲ニ努力スルノ必要ヲ認メ和蘭政府ハ日本政府トノ間ニ一九一二年ノ通商條約ヲ補足スル協定ノ締結ニ依リ現状改善ノ可能性ヲ考慮スルヲ得ハ

之ヲ非常ニ歓迎スルモノナリ閣下カ上記ノ點ヲ日本政府ニ取次カレ且ツ和蘭政府ハ右ニ關スル商議カ速ニ開始セラルルコトヲ大ニ徳トスヘキコトヲ附加セラルレハ感謝ニ堪ヘサルヘシ

日本政府カ商議ノ地トシテ「バタヴィア」ヲ可トセラルヘシト聞キ及ヒ居ルニ依リ余ハ閣下ニ和蘭政府カ同地ノ選擇ニ何等異議ナキコトヲ傳達ス云々

英、「バタヴィア」ヘ轉電セリ

「最近蘭印ノ邦品輸入防止ノ對抗策トシテハ累次ノ貴電御來示ノ通蘭印產品買付促進ノ外ナク假令直チニ會商ヲ開始スルトスルモ第一ニ本問題ニ逢着スルハ明白ナルヲ以テ充分見込アル具体案ヲ準備シ置クノ要アリト信スルニ付豫テヨリ關係省其他ト協議中ナルカ御承知ノ通り取引組織内地需要他市場トノ比較關係等ニテ種々困難アリ相當時日ヲ要スヘキ處此際出先即蘭印各地ニ於テモ本邦商社代表者等ニモ諮詢シ我方買付可能ノ品種供給可能ノ程度競争國品トノ值鞘有利買付方法等ニ關シ實際的ナル具体的研究ヲ進メ其ノ結果大要電報委細郵報アリ度シ

318 昭和9年3月3日 広田外務大臣より
在バタヴィア越田(佐一郎)總領事宛(電報)

日蘭会商応諾に關し關係各省と協議中につき
現地の事情など查報方訓令

付記 作成日不明

「日蘭片貿易調整ニ關スル打合會(第一回)」

本省 3月3日後9時30分発

第二八號

貴電第三八號ニ關シ

「人ハ利益ノ存スル所ニ從ヒ甲品ヨリ乙品甲仕入先ヨリ乙仕入先ニ轉々スルヲ常トスルヤニ思考セラレ從テ此點ヲ理由トシ外商ヲ排斥スルヲ得サルヘク貴電第四九號第五〇號及在スラバヤ發本大臣宛電報第一六號ノ次第ハアルモ所謂「リブ・エンド・レット・リブ」ノ趣旨ニテ適當ナル協和點ナキヤ御考案アリ度シ

三、和蘭本國及蘭印政府ノ目標トスル所ハ自國產業保護前項蘭印物資輸出増進ノ外自國商人ノ保護ニ存スルハ明カナルモ「サロン」ノ輸入制限ノ如キ在留邦商ノ取扱資格ヲ奪ヒ更ニ貴電第四五號ノ營業制限令ノ實施ヲ見ルカ如キコトアランカ今後邦商ハ全蘭印領内ヨリ放逐セラルニ至ルヘク右ノ如キ辛辣ナル手段ハ從來ノ和蘭政府ノ穩健公正ナル精神ト根本的ニ違背シ居ルヲ以テ極力之カ抗議反省ヲ求ムルノ要アルモ他方「日本品ハ日本人ニ依ル」ノ主義ヲ極端ニ固執スルハ少クトモ我方ニ有利ナル片貿易ノ程度著シキ蘭印ノ場合ニ於テハ事實困難ナルヘク寧ロ蘭印商人ニモ一部ノ利益ヲ分チ日本商品進出ニ對シ共同ノ利害關係ヲ有セシムルヲ得策トスヘク勿論彼等ヲシテ日本品輸入ヲ獨占セシムルカ如キハ容認シ難キモ當方トシテモ冷靜ニ大局ヨリ利害ヲ打算スルノ要アルヘク此點ニ關スル現地ノ事情殊ニ華僑トノ關係及御意見承知致度シ蘭商ハ歐洲品ヲ捨テ一時日本品ヲ取扱ハントスルモノニシテ永遠ニ本邦品ノ進出ヲ計ル誠意ナシトノ議論アルモ右ハ各國ニ於ケル商業上通有ノ事態ニシテ現ニ日本人同士ノ間ニ於テスラ輸出商人力其取扱商品製造家ノ永遠ノ利益ヲ顧念シ居ルヤ否ヤ疑ハシク華

(付記)

日蘭片貿易調整ニ關スル打合會(第一回)

一場所 外務省通商局

一開會日時 昭和九年三月二日午後一時半

一、出席者

外務、大藏、農林、商工、拓務、遞信各省關
係官(尾關事務官、栗山技師出席)

二、協議要領

來栖通商局長ヨリ日本ト蘭領印度トノ貿易状態ヲ説明シ最近彼我ノ間著シキ片貿易トナリ約三對一ノ程度トナリ此ノ儘ニスルトキハ將來益本邦ノ輸出貿易ニ對シ蘭印側ニ於テ何等カノ措置ヲ講スル虞明瞭ナルヲ以テ出來得ル限り早日本邦側ヨリ何等カ蘭印產ノ輸出品ヲ買増スル方法等ヲ研究シ以テ蘭印側ト會商スル要アリ仍テ本日各省ノ關係官ノ協議ヲ催シタル次第ナリ向詳悉ノ點ハ若松書記官ヨリ説明アルヘシト述べ

若松書記官ヨリハ昨昭和八年五月和蘭本國ニ於テ現内閣成立シ「コライン」氏首相トナリシ以後比較的親日態度ヲ以テ彼我兩國ノ間ニ蘭印ニ於ケル貿易ニ關シ協議シ來レルカ昨年九月五日非常時輸入制限令發布セラレ尙其ノ以前ニ本邦產「セメント」三對シ輸入ノ制限ヲ見ルニ至リ次テ同月十六日ニハ非常時輸入制限令ヲ發布シ以後麥酒、「サロン」、晒綿布等ニ輸入制限ヲ加エラル等漸次各種ノ措置ヲ講ズルニ至リタルハ別冊^(省略)ノ通リナリ依テ彼我ノ間ニ何等カノ協

付記 作成日不明

「日蘭印貿易調査ニ關スル打合セ會(第二回)」

本省 3月13日後5時30分発

第二〇號

貴電第三九號ニ關シ

在「バタヴィア」發本大臣宛電報第六六號ノ新制限令發布ニ關スル新聞報道ノ著シク我蘭印感情ヲ刺戟シ日蘭會商促進ニ支障ヲ來タス虞アルニ鑑ミ在京和蘭公使ニ本件ニ關スル我方ノ態度ヲ知悉セシムル同時ニ同公使ヲシテ側面ヨリ差當リ是以上邦品ノ輸入ヲ制限セシメサル様蘭本國及蘭印政府ヲ動カス必要アリト認メラレタルニ付十日通商局長ヲシテ「パブスト」公使ヲ往訪セシメ同局長ヨリ(蘭印側カ客年「ビール」輸入制限實施以來瀕々ト本邦品ニ對シ制限措置ヲ採り來リ且ツ輸入特許制度ニヨリ本邦商人ノ取引ヲ阻害シ來レル爲本邦當業者側ハ蘭印政府カ今後更ニ各商品ニ亘リ全般的ニ同様ノ措置ヲ講スルカ如キコトナキヤヲ危惧シ頗ル昂憤シ居ルハ新聞記事等ニテ御承知ノ通リナルカ前記「バタヴィア」來電ノ次第モアリ萬一事實トセハ事

態益々悪化ノ惧アリ政府トシテモ差當リ目下樞密院ニ於テ

(付記)

調ヲ圖ル爲會商ヲ行ヒ以テ本邦ノ輸出貿易ヲ維持スルノ要

アリ依テ同會商ニ資スル爲蘭印ヨリノ輸入品ニ付研究ヲ行ヒ主トシテ左記ノ三點ニ關シ具體的意見又ハ方法ヲ定ムル

ノ要アリ各省ノ研究ヲ希望ス尙彼我ノ間ノ重要品ノ輸出入額等ニ關シテハ大藏省ヨリ説明アリタシト述ブ

二、蘭印ヨリノ如何ナル品物ヲ買増シ得ルカ

二、買増ヲナス爲ニハ如何ナル方法ニテ行フカ最モ有效ナ

ルヤ

三、如何ナル組織ノ下ニ其ノ方法ヲ行フヘキヤ

大藏省側ヨリハ別紙「蘭領印度ヨリノ主要輸入品國別表」及「蘭領印度ヨリノ主要輸入品順位表」ヲ提出シ之ニ付品別ニ説明ヲ爲シ次テ今後各省ニ於テ夫々各品ニ付研究ヲ行フコトトシテ散會シタリ

319 昭和9年3月13日 広田外務大臣より
在オランダ武富公使宛(電報)

蘭印における本邦品輸入制限の是正および日
蘭会商應諾の遲延事情などにつき通商局長よ
リオランダ公使に申入れについて

審議中ノ仲裁々判條約ニ關シテモ自然種々質問等ヲ惹起シ甚夕厄介ナル立場ニ陥ルヘク既ニ今日迄ノ蘭印政府ノ措置ニ付テモ強固ナル反対意見アリ之カ鎮靜ニ苦心シ居ル折柄同政府力は以上新ニ輸入制限ヲ設ケ我方ノ感情ヲ刺戟シ問題ノ範圍ヲ擴大スルカ如キ方法ニ出ツルコトハ極力避ケラル様縷々申述ヘ更ニ()日蘭會商ニ對スル我方回答ノ遲延ハ恐ラク會商ノ劈頭ニ於テ問題トナルヘキ蘭印產品買付増加ニ付石油砂糖護謨等何レモ種々困難ナル事情アリ曰下之カ調整方ニ付關係省及當業者等ト折角協議中ナル爲ナルコトヲ説明シ()J、C、J、Lトノ海運交渉ハ國內會社ノ積荷割當問題ニテ今日迄行惱ミタル次第ナルモ漸ク落着シタルヲ以テJ社トノ正式交渉モ早晚成立ヲ見ルニ至ルヘシト信スル旨ヲ述ヘ右()ノ點ヲ他諸點ト共ニ本國政府及蘭印政府ニ傳達方依頼セシメタル處「パ」公使モ充分之ヲ諒解シ早速本國政府ニ電報セル趣ナリ御参考迄「バタヴィア」ニ轉電シ「バタヴィア」ヨリ「スラバヤ」及「メダン」ニ暗送セシメラレタシ

◇蘭印貿易調整ニ關スル打合セ會(第一回)

一、場所 外務省通商局第二會議室

二、日時 昭和九年三月九日午後一時半開會

一、出席者 外務、大藏、農林、商工、拓務各省ノ關係官

(山本鑑査官出席)

打合セ會開會ノ劈頭通商局長代理トシテ若松事務官ヨリ拶挨アリ其ノ要領左ノ如シ

先日日蘭印貿易ニ關係アル當業者ト當局トノ間ニ於テ最近惡化ノ徵アル日蘭印貿易ノ調整方ニ關シ意見ノ交換ヲ行ヒ

タルカ別段取纏メタル意見ナカリキ、當局トシテハ本邦力

蘭印ニ對シ昭和七年ニ一億餘圓、同八年ニ一億五千萬餘圓ノ輸出ヲ爲シ居ルニ對シ同國ヨリノ輸入ハ昭和七年四千餘

萬圓同八年五千五百餘萬圓ニ過キサル狀況ナルニ鑑ミ真ニ

同國ハ本邦ニトリ大ナル得意先ナリト信シ居レリ、然ル

ニ彼ハ今尙金本位ヲ維持シ居リ之カ爲貿易上ノ不利モ尠カ

ラサルヲ以テ此ノ際本邦輸出品ニ對シ何等カノ措置ヲ執ラントスルニ至レリ、是レ近ク彼我ノ間ニ會商ヲ遂クルコト

トナリタル所以ナリ

在蘭印領事ニ對シ蘭印當局ハ若シ日本ニシテ砂糖ヲ二十五

萬廷(註昭和八年本邦輸入額ハ約十三萬廻)位置ヒ吳レルナラハ對日措置モ執ラスシテ濟ムモノト思フトノ意ヲ洩シタルコトアリタリト云フ、之ニ依テ見レハ兩國會商ニ際シテハ先ツ砂糖カ問題トナルラシク思ハル
要スルニ本邦對蘭印トノ通商ハ從來トモ圓滿ニ進メ度キヲ以テ此ノ際本邦ニ於テ彼ヨリ買ヒ増シヲ爲シ得ル商品アラハ其ノ商品ヲ指摘シ其ノ買増ヲ爲シ得ヘキ數量並ニ買増シノ方法等ヲ研究シテ「メモ」程度ノ書面ニ認メテ御提出相成度シ
尚會議ヲ進ムル便宜ノ爲過般配付シタル「蘭領印度ヨリノ主要輸入品順位表(昭和七年、同八年分)」ニ掲記セル品目ニ付テ大體ノ意嚮ヲ聞キ得レハ幸ナリトテ品目ノ研究ニ入レリ

(一) 挥發油、原油及重油並ニ燈油

商工省側ノ意見

本邦燃料國策ヨリ見テ揮發油、燈油ノ如キ製品ヲ輸入スルコトハ歡仰シ難ク寧ロ遠慮シテ欲シキ位ナルヲ以テ此等物品ノ買増ハ不可ナルヘシ、蘭印ハ國ノ方針トシテ成ルヘク製品ノ輸出ニ力ヲ加ヘ居ルカ如シ、從テ原料タル

重油ハ目下相當量ノ輸入アル筈ナルカ之ハ需要カ増スナラハ買増モ可能ナランカ

(二) 生インディアラッパー類
拓務省側ノ意見
本品ハ南洋諸島及海峽殖民地等ニ產スルモノナルカ其ノ取引ハ主トシテ新嘉坡ニ於テ行ハル、即チ新嘉坡仕出ノモノ必スシモ海峽殖民地產ニアラス、蘭印產ノモノモ新嘉坡ニ出廻ルコト尠カラス、故ニ統計ニ現ハレタル數字以上ニ蘭印產ノモノカ輸入セラレ居ルモノト認メラル、本品ハ何處ノ產モ品質上別段ノ差異ナキヲ以テ海峽殖民地產品ノ購入ヲ中止シテ之ヲ蘭印產ニ振り替フルモ我國「ゴム」工業上ニハ何等ノ不便モナシト考ヘラル、然レトモ前述ノ如ク新嘉坡ニ根據ヲ定メ居ル取扱人力俄カニ

蘭印ニ移ルコトハ却々困難ナル問題タルヘシ、尙本邦力生「ゴム」類ノ供給ヲ主トシテ蘭印ニ仰グトシタル場合海峽殖民地ニ於ケル邦人業者ハ困難ニ陥ルヘシト憂フルモノアランモ、夫ハ杞憂ニ過キサルヘシ、蓋シ蘭印產ノモノカ本邦ニ輸入セラルコトトナラハ從來日本以外ノ國ニシテ蘭印產ノモノヲ買ヒ居タルモノハ海峽殖民地產品ニ移ルコトナルヲ以テ其ノ間別段ノ支障ナカルヘシト認メラルルヲ以テナリ

(三) 砂糖

拓務省側ノ意見

本品ハ内地消費用ノモノトシテハ殆ント自給自足ノ狀態ニ在リ、輸入糖ハ殆ント全部精糖トシテ輸出セラルルモノナルヲ以テ將來輸出ノ旺盛トナル道ノ拓ケサル限り本品ノ買増ハ困難ナルヘシ
四玉蜀黍等ノ農產物
農林省
此等農產物ハ滿洲ニモ之ヲ產ス、若シ滿洲ヨリノ輸入ヲ阻止シテ可ナリトセハ之ニ代リテ蘭印產ノモノヲ買増シスルモ可ナルヘシ、唯滿洲產ノモノヲ阻止シテ可ナリヤ

ト云フ點ニナレハ之ハ大問題ナルヘク、結局ハ蘭印產品ノ買増シハ困難ナルヘシ

若松事務官

第七一號

日本會商に対する我が方対策につき意見眞申
バタヴィア 発
本省 3月13日後着

スクノ如ク觀シ來レハ何レノ物品モ蘭印ヨリ買ヒ增シヲ爲スコト困難ナルカ如シ、併シ前述ノ通蘭印ハ實ニ棄テ難キ得意先ナリト思ハル、印度ハ三億五千萬ノ人口ヲ以テ二億圓位ノ物品シカ本邦ヨリ買ヒ居ラサルニ對シ、蘭印ハ八千萬ノ人口ヲ以テ實ニ一億五千萬圓ノ物資ヲ本邦ニ求メツツアリ、此ノ事情ヲ篤ト考慮シ何等カノ良法ヲ見出シタシト考フルヲ以テ

イ 將來買増シヲ爲シ得ヘキモノハ何品ナリヤ
ロ 右ノ品ノ買増豫定年額ハ何程ナリヤ

ハ 右買増ヲ爲ス爲ノ實行方法如何

等ヲ「メモ」程度ノ書類トシテ御差シ出シヲ願フト希望シ

午後四時半散會セリ

320 昭和9年3月13日 在バタヴィア越田総領事より
廣田外務大臣宛(電報)

日本ノ買付カ五割以上トナリタル時ハ其ノ超過額ニ對スル代價ヲ求ムルカ又ハ其ノ儘トスルカ或ハ翌年分ニ繰リ入ルルカハ別ニ考慮ヲナスコト

同一年中ニ五割ノ買付出來得サル時ハ其ノ殘額ハ翌年

ニ

ニ繰リ越スコト(此ノ條件ハ最小限五割買付ヲ無意味

トスルノ嫌アリ先方ノ肯セサル處ナルヘ^(キ)サモ一應研究ノコト)

三、日蘭商人間ノ競争ヲ避ケ共存共榮ノ爲日本積各種商品ニ付テハ格ヲ定メ行惱ノ値段ヲ一定スルコト從テ蘭商カ日本内地ニ於テ買付ヲナスト爪哇ニ於テ日本商社ヲ經テ買付ヲナストニヨリ利益ニ差異ナカラシムルモノトス

三、⁽²⁾日蘭印貿易會社ヲ組織シ同會社ニ於テ日蘭印間輸出入

貿易ヲ專ラ統轄調整セシムルコト大臣宛在「スラバヤ」領事發電報第七號ニ大体準據シテ適當ノ修正ヲ加フル

コト同會社ノ株主中ニハ日本ノ製糖業者ヲモ加ヘ尙輸出入業者ノ參加資格ニ付テハ一九三三年ノ取扱高ヲ基礎トシ又蘭人其ノ他ノ外國人ヲモ參加セシムルコトハ利益ヲ共通ナラシムルト同時ニ將來漁業其ノ他ノ事業ニ關シ日蘭合辦ノ前例トモナリ望マシキコトナリ

四、滿洲支那等向ノ全部及内地消費向一部ノ原料^(マ)据ヲ爪哇ヨリ買取ルコトトシ必要ナラハ臺灣ニ減反ヲ行ハシムルコト右ニ依リ生スルコトアルヘキ損失ハ製糖會社ノ

負擔又ハ輸入稅ノ減免ニ依ルコト
從來製糖業ハ特別ノ保護ヲ受ケ且ツ莫大ノ利益ヲ上ケ居ル一方ニ於テハ對蘭印片貿易ノ情勢激化ノ原因カ砂糖買付ノ激減ニアル處大ナルニ鑑ミ製糖業者モ多少ノ犠牲ヲ拂フコト必要カト思考セラル

乙、蘭印側へ提議事項

前記甲ノ方針ヲ基礎トシ蘭印側ノ考慮ヲ要求スヘキモノニ變更スルコト

(和蘭本國ノ欲スル郵船割當量ハ大体之ヲ認ムルノ外無カルヘキモ必要アラハ多少變更ヲ求ムルコト)

二、輸入資格ニ關スル制度(「ライセンス」)ノ基礎モ同シク三三年ニ變更シ何等ノ條件(即チ輸入數量以外ノ標準例ヘハ協會又ハ組合會員タルヲ輸入資格條件トスルカ如シ)ヲ附帶セサルコト

三、日本ノ保障スル金額ニ達スル迄ノ買付價格ニ付テハ世界重要市場ニ於ケル最低値段ヲ蘭印側ニ於テ保障スルコト(若シ先方カ之ヲ肯セサル時ハ解決ヨリ生スルコトアルヘキ損失ハ第四項ノ會社ノ負擔トスルコト即チ

輸出貿易ニ依リ得ラルヘキ利益中ヨリ填補スルコト)

四、日蘭印貿易會社ニ依ル通商統制ヲ承認セシムルコト

五、蘭印ト第三國トノ「バーター」又ハ其他ノ互惠協定成

立ノ結果自由割當量カ減少シタル時ハ日本ノ物産買付

額ハ當然之ヲ減少スルコト(日本ヨリノ輸出高ニ比例シテ買付高増減スルモノナレハ此條件ハ必要ナラサル

カ如キモ成ル可ク第三國トノ互惠ヲ爲サシメスシテ自

由割當量ヲ確保シ置カンカ爲ニハ一應研究ノ要アルヘ

シ)

丙⁽⁴⁾、希望條項及補足協定關係事項

本項中ニハ先方ヲシテ承諾セシムルコト困難ト思ハルルモ一應主張ヲ試ミルヘキモノ及通商條約ノ補足的事項ヲ含ム

一、發令シタルモノ以外ニ新ニ禁止、制限又ハ拘束ヲ爲サ

サルコト(若シ之ヲ肯セサル時ハ制限ノ場合ノ數量及輸入者資格等ニ付テハ乙ノ一及二ニ依ルコト)

二、「セメント」、「麥酒」、「サロン」及其ノ他ノ織物ニ關スル現行制限令ニ關シ乙ノ一及二以外ニ我必要トスル

變更

三、輸出制限特ニ規那及特殊會社ノ砂糖輸出制限ニ關スル

緩和(武田ノ規那及大日本製糖ノ爪哇糖輸出特許)

四、企業營業等ニ關シ實質上本邦人ヲ區別待遇スルニ至ル

カ如キ法令ヲ設ケサラシムルコト

五、海運ニ關シテハ輸出入ノ各總額ニ對シ蘭印三、日本七

ノ割合トスルコト、比率ノ範圍内ニ於テハ汽船會社ノ數ヲ問ハサルコト、一般又ハ特定貨物ノ運搬比率ニ關シ命令等ヲ取消シ且ツスル命令等ヲ發セサルコト(「セメント」積込命令ノ如シ)

六、入國稅ヲ減額セシムルコト、蘭印入國稅(時價三百圓以上)ノ如キモノ日本ニ無ク甚タ不利ナルニ付相互主義ノ下ニ同額ノ入國稅ヲ課シ得ルノ法律ヲ設ケ之ニ依リ蘭印ノ入國稅ノ減額ヲ要求スルコト

七、課稅其ノ他ノ詳細ノ點ニ關シテハ研究ノ上追報スヘシ追テ以上ハ單ニ思付ノ儘ヲ記述シタルモノナレハ大イニ取捨ノ要アルヘシト思考ス又貴電第二八號中他ノ諸項ニ關シテハ追電スヘシ

321 昭和9年3月22日 在オランダ武富公使より
広田外務大臣宛(電報)

「バタビヤ」ヨリ「スーラバヤ」「メダン」へ轉電アリタシ

322 昭和9年4月4日 広田外務大臣より
在オランダ武富公使宛(電報)

会商終結まで新措置を執らないことを条件に

日蘭會商開催に同意の旨回答方訓令

別電 四月四日発広田外務大臣より在オランダ武富公使宛第三二号

右回答覺書趣旨

本省 4月4日発

第三〇號(至急)
貴電第四八號ニ關シ

一、日蘭會商開催ニ關シテハ累次電報ノ通り事實問題トシテ種々困難ナル事情伏在シ旁々議會中ハ關係省トノ協議モ

指摘シ來リタルハ最近ノ三社對J社交渉、涉々シカラサルニ刺戟セラレタル結果ナルヘク何レニシテモ此ノ上回答ノ遲延ハ面白カラサルニ付往電第三四號ノ四ニ對スル回答方

至急御決定ノ上御回電ヲ請フ
「バタビヤ」へ轉電セリ

ナルニ付テハ我方ヨリハ長岡大使ヲ特派スルコトニ内定シ居ル次第ナルカ果シテ「コ」ノ出張ハ御來示ノ通五月

(別電)

本省 4月4日発

上旬實現シ得ルモノナリヤ當方トシテハ會商ノ當初即チ

少クトモ大綱決定ニ際シテハ「コライン」ノ在印ヲ切望スル次第ニ付「コ」ニ於テ五月末カ六月初ニ蘭印ニ到着

スルコトヲ得ル様取計ラヒ得ハ誠ニ好都合ト存スル處右

我方ノ希望ニ應シ得ル見込アリヤ御聞質ノ上結果電報アリ度シ

三、前項ノ趣旨ニ依リ我方トシテハ大使ヲ代表トセントスル次第ニ付蘭印側トシテ主席代表任命ニ付テハ之ニ對應スル爲適當考慮アリ度旨「バタヴィア」發本大臣宛電報第六七號ノ事情ヲモ御含ノ上可然申入レラレ相成度同電及在蘭印領事累次ノ電報ニテ御承知ノ如ク「ウ」經濟長官ノ遣リ口ハ頗ル辛辣ニテ今後トモ果シテ如何ナル態度ニ出テクルヤ計リ難ク事態如何ニ依リテハ會商ノ開催スラ困難トナルナキヤヲ懸念シ居ル次第ニ付別電三ノ點ニツキテハ特ト念ヲ押シ置カレ度シ

本電別電ト共ニ「バタヴィア」、「スラバヤ」ニ轉電シ「バタヴィア」ヨリ「メダン」ニ暗送セシメラレ度シ

一、帝國政府ハ日本及蘭領東印度間ニ永年存續シ來レル通商關係ヲ一層緊密ナル地歩ニ置クノ兩國親善ノ爲最モ望マシキ次第ニ鑑ミ蘭國政府カ其ノ一月八日附公文ヲ以テ提起セラレタル「バタヴィア」ニ於ケル日蘭兩國政府會商ノ開催ニ同意ス

右會商ニ參列スヘキ帝國政府代表ノ氏名ハ追テ通知スヘク會商開始期日ハ兩國間ノ商議ニ依リ之ヲ決定シタシ

三、抑々一九三三年非常時輸入制限令及非常時輸出制限令ノ實施以來蘭印政府ノ執り來リタル輸入及輸出制限措置ハ我對蘭印貿易ニ影響スル所大ナルニ鑑ミ帝國政府ハ其ノ都度和蘭政府及蘭印政府ニ對シ之カ是正方申入ルコトアリ蘭國政府ニ於テモ二月二十八日附和蘭外務大臣來翰(貴電第三四號)三、ニ於テ右制限措置ハ兩國間會議ニ於テ友好的ニ解決スヘキコトヲ豫想シ純然タル假措置ノ性質ヲ與ヘタル趣ナルニ付テハ帝國政府ハ今次會商ニ於テ蘭印側ノ執レル各種制限措置ニ關シ圓滿ナル解決ヲ與ヘ

日本及蘭印間ノ通商關係ヲ一層緊密ナラシムルコトヲ會商ノ目的トナスモノト了解ス

三、尙前顯外務大臣來翰ノ四ノ所述ハ最モ友好的ナル精神ノ下ニ本件會商ノ近ク開催セラルヘキニ鑑ミ和蘭政府及蘭印政府カ今後會商ノ歸結ヲ見ルニ至ル迄蘭印ニ於テ現行

制限以上本邦ニ影響アルカ如キ一切ノ新措置ヲ執ラサルコトヲ表明セラレタルモノト了解ス

~~~~~

323 昭和9年4月11日 在オランダ武富公使宛(電報)  
広田外務大臣より

日蘭會商開催受諾の我が方覚書に対するオラ

ンダ側回答振り通報並びにコライン首相の訪

蘭印日時繰下げ交渉方訓令

付記 作成日不明

〔日蘭會商ニ關スル協議會(第三回)〕

本省 4月11日発

貴電第五號ニ關シ

第三四號

一、既ニ覺書モ交付セラレタルコトト存シ居ル處右貴電ノ趣

合セ得ル見込アルニ付御來示ノ次第ハアルモ右ノ事情御含ノ上「コ」氏ノ蘭印出發ヲ一週間丈ヶ繰下方再應御交渉相成結果電報アリ度シ

「バタヴィア」、「スラバヤ」ニ轉電シ「バタヴィア」

ヨリ「メダン」ニ暗送セシメラレ度シ

(付記)

○日蘭會商ニ關スル協議會(第三回)

一場所 外務省通商局第二會議室

一開會日時 昭和九年四月九日午後二時

一出席者 外務、大藏、商工、農林、拓務、遞信各省關

係官(尾關事務官、栗山技師出席)

一、協議要領

若松事務官

日蘭會商ニ關シテハ曩ニ二回各省關係官ノ打合會ヲ催シ協議シタルカ和蘭首相「コライン」氏他用ニテ五月三日「バタビア」ニ飛來スル由ナレハ其ノ機會ニ會同スルヲ便宜ナリト考ヘ其ノ準備ノ爲自分限リノ私案ヲ別紙「日蘭會商ニ關スル對策案(未定稿)<sup>(原註ラズ)</sup>」ノ通り作成シ置キタルヲ以テ本日ハ之ニ基キ打合セ致シ度本案ハ外務省上司ニモ經伺セサルモノナルヲ以テ何等變更セラルモ可ナリト述ヘ右對策案ニ付第一、我方ヨリ要求スヘキ事項ヲ説明シ次テ第二、右要求ノ代償トシテ考慮スヘキ事項トシテ蘭印特產物ノ買付保障ニ關シ説明アリ元來蘭印ヨリ最モ多額ニ輸入セラルル石油ニ關シテハ其ノ價格米油ニ比シ不利ナルノミナラス該

地ニ於ケル石油ハ英人系ノ手ニ屬シ居リ從テ石油類ヲ買増スルコトハ蘭系商人ニハ大ナル利益ナク蘭印側トシテ寧ロ希望シ居ラサル模様ナレハ問題ハ主シテ瓜哇糖<sup>(爪哇)</sup>ノ買付數量ヲ增加スル點ニアリ先方ノ意嚮トシテモ過剩瓜哇糖ノ相當量ヲ日本ニテ處分シ現在三對一ノ貿易狀態ヲ一程度ニセントノ希望モアリ旁々本邦側要求ノ代償トシテハ殆ド砂糖ノ問題ニ限定セラルル如ク假リニ二十五萬屯程度買付クル案トシテ置キタリ之ニ付各省ノ意見ヲ承知シタン。次ニ通商局長ヨリ日蘭會商ニ關シテハ去ル五日附ヲ以テ武官公使ヨリ「バタビア」ニテ開催スルコトヲ申入レ代表トシテハ種々考慮シタル上大使級ノ人ヲ派遣スルコトニ決定シタリ尚會商ニ關シ若松事務官説明シタル他注意スヘキ點ハ蘭印側ニ於テ希望シツツアルハ邦人ノ營業ニ或種ノ制限ヲ加エントシツツアリ此ノ傾向ヲ生スルニ至リシ主ナル理由ハ

(一)最近特ニ昨年ニ於テ本邦ヨリ蘭人カ買付タルモノノ價格以下ニ日本商人カ安賣ヲナシ爲ニ蘭人ハ非常ナル損失ヲ蒙リタルコト

(二)邦人力最近非常ナル勢ヲ以テ蘭印ニ進出シ最近迄四、五

○○人ナリシモノノ現在ニテハ七、○○○人ニ激増シ將來

該地ニ於ケル商權ヲ獨占セントスル虞アルコト

(三)邦人ノ「日本品ハ日本人ノ手ニテ」ナル「スローガン」

力強ク蘭人ノ神經ヲ刺激シタルコト

等ニシテ從テ今次ノ會商ニ於テ蘭系商人ト邦人トノ間ニ何

等カノ割當ニ關シ申出ヲナスナラント察セラル此ノ點モ留意ヲ要スヘシ

尙首相「コライン」氏ハ來ル五月三日飛行機ニテ「バタビア」ニ來リ五月二十六日歸蘭スル豫定ナレハ氏ノ滯在中ニ會同スルヲ便宜ナリトシ從テ本邦側代表ノ出發モ差迫リ居ル關係上砂糖ノ問題ニ關シテハ外務、大藏、商工、農林、拓務ノ各省關係官ト更ニ十二日ニ協議ヲ進メタク輸入取扱業者ノ制限等ニ關シテハ外務、商工兩省間ニテ協議スルコトトシ度シトノコトニテ散會セリ

~~~~~

ランダ側回答について

ハーフ 4月21日後発

本省 4月22日前着

第六三號

往電第五六號ニ關シ

二十一日外務大臣ヨリ四月五日附覺書(貴電第三一號)ニ對

スル回答文送附越シタルカ其ノ要領左ノ通

(一)和蘭政府ハ日蘭會商開始ヲ日本政府ニ於テ受諾セラレタルコトヲ了承セリ會商開始期日ニ付テハ和蘭側ヨリ會商ノ爲「バタヴィア」ニ赴ク委員カ六月四日以前ニ同地ニ到着スルコト不可能ナル事情アルニ付和蘭政府ハ日本政府カ六月四日ヲ以テ會商開始期日ト爲スニ同意セラレンコトヲ切望ス和蘭側代表ノ氏名ハ成ルヘク速ニ御通知スヘシ

(二)非常時輸出制限令ノ實施カ日本ノ對外貿易ニ大ナル影響アリタリトハ未タ同令ニ依リ禁止セラレタル輸出無キニ鑑ミ了解シ難キ所ナルカ輸入制限措置ノ日本ノ對蘭印輸出ニ與ヘタル影響ニ付テハ會商ニ於テ討議スルヲ得ヘシ

(三)日本側覺書第三項ニ鑑ミ和蘭政府ハ日本政府ニ對シ蘭印政府ハ差當リ日本ノ貿易ヲ害スルカ如キ新措置ヲ執ラサ

ルヘキコトヲ通知ス營業取締及輸入業者特許制ニ關スル二

新措置實施ノ準備ハ既ニ進行中ナリシモ蘭印政府ハ會商ノ

結果ヲ見ル迄之ヲ行ハサルニ決シタリ然レトモ會商ニ於テ

圓滿ナル解決ヲ見サル場合ハ是等ノ措置モ更ニ考慮セラル

ヘシ

尙日本政府ハ會商ノ開始ニ先立チ日蘭兩國政府間ニ會商ノ

主ナル諸點ニ付豫メ協議スルヲ希望セラルルヤ否ヤ承知シ

度シ

「バタヴィア」ニ轉電セリ

「バタヴィア」ヨリ「スラバヤ」「メダン」ニ轉報アリ度

シ

325 昭和九年4月25日 広田外務大臣より
在オランダ武富公使宛(電報)

日蘭會商六月四日開始に異議なき旨の覺書を

オランダ側に提示方訓令

付記 四月十七日付

「日蘭會商ニ關スル協議會(第四回)」

本省 4月25日発

第三九號

貴電第六三號ニ關シ

一、我方ハ日蘭會商開始期日ヲ六月四日トスルニ異議ナシ

二、非常時輸出制限令ノ下ニ三月一日ヨリ實施セラレタル蘭

印規那輸出總督令ニヨリ規那皮ノ對本邦輸出ハ一般的ニ

制限セラルルコトトナリ居リ只既約品ノ一部ニ付緩和方

法ヲ講シ居ルモ往電第一八號ニノ事情ニ依リ年額六百噸

ノ輸出ニ支障ヲ生スル次第ナリ(「バタヴィア」總領事

發本大臣宛電報第七號參照)

三、我方ハ本件會商ハ現行日蘭通商條約ヲ尊重シ同條約ノ下

ニ於テ日本及蘭印間ノ經濟關係ヲ一層緊密ナラシムルコ

トヲ目的トシ折角準備ヲ進メ居ル次第ナルカ和蘭政府ニ

於テ會商ニ對スル大体ノ方針及ビ協議ヲ希望セラルル事

項決定シ居ラハ其ノ内容承知致度シ

右諸點ノ趣旨ヲ覺書トシ貴任國政府へ回答シ置カレ度シ

尙右一、期日ニ間ニ合ハスル様長岡大使一行ハ五月十九日

神戸發「サントス」丸ニテ出發ノ豫定ナリ

「バタヴィア」ニ轉電シ「バタヴィア」ヨリ「スラバヤ」

「メダン」ヘ轉報セシメラレ度シ

(付記)

日蘭會商ニ關スル協議會(第四回)

本邦代表ノ出發モ差迫リ居レハ可成夫レ迄ニ大綱ニテモ定メタク其ノ後各省ニテ協議セラレタル事項ヲ承知シタシ

遞信省小野管理課長

一、開會日時 昭和九年四月十四日午前十一時
一場所 外務省通商局第二會議室
一出席者 外務、大藏、商工、農林、拓務、遞信各省關係官(谷口關稅課長、松隈事務官、栗山大藏
技師出席)

一、協議要領

外務省井上第一課長
「バタビア」總領事ヨリノ電報ニ依レハ「コライン」首

相ハ五月上旬飛行機ニテ蘭印ニ到著ノ豫定ナリシ處其ノ後武富公使ヨリノ電報ニ依レハ「コライン」氏用務ノ爲

或ハ蘭印行ヲ中止スルヤモ知レス又蘭印ニ行クトスルモ五月二十六日迄ニハ是非蘭本國ニ歸來スル要務アリトノコトナレハ氏ノ出發延期ヲ希望スルコトハ不可能ナリ尙

和蘭側代表トシテハ「サンガン」氏病氣ノ爲評議會副議長「メールランネスト」氏トナルヤモ知レス又駐日和蘭

公使「バビスト」氏モ參加スルヤモ知レストノ情報アリ就テハ會期ヲ延期セシムルコト困難ナリト認メラレ從テ

答スヘシトノコトナリ尙其ノ際本邦側貿易業者ノ手ニテ

瓜哇糖ヲ直接蘭印ヨリ第三國ニ販賣スル方法ヲモ考慮セラレタシトノコトナレハ三井ノ意見ヲモ聽取シタルカ瓜哇糖ノ市場トシテハ東洋市場ヨリ他ニ見込ナク東洋市場トセハ本邦糖業者ノ輸出先ト同一トナリ困難ナルヘシ其ノ他ノ品目ニ關シテハ關係官ヨリ説明スヘシ

錫

錫ニ付テハ年額千屯位ハ大體輸入シ得ラル見込アリ今迄ハ約三、四百屯ナルモ葉鐵ノ生産カ今後増産ノ計畫ニ

シテ大體年額八萬屯程度ノ生産トナル見込ナルヲ以テ葉鐵一萬屯ニ對シ錫ハ約二、五「パーセント」ヲ要ストシテ八萬屯ニ對シ約二千屯ヲ要スヘク從來ノ輸入額ヲ差引クモ年額千五、六百屯ハ必要トナルヘク依テ千屯程度ノ買付ヲ約スルモ可ナルヘシ

ゴム

「ゴム」ハ本邦側ノ需要年々増加シ昨年ハ六萬九千屯輸入アリタルモ最近値上等ノ爲今後ハ消費額減少セサルヤヲ虞レツツアリ、而シテ蘭印ヨリノ輸入ハ約一萬五千屯程度ナリ其ノ品質ハ所謂「スタンダード」級ノ良質ノモノニシテ從テ「シンガポール」產ノ中級品「エフ、エー、

キュー」ニ比シ値段高シ尚「シンガポール」產ノ内ニハ「ブランケット」ト稱スル裾物アリ、コレハ土人產ノモノヲ集メ Remill シタルモノニシテ中級品ノ代用トナル蘭印ニハ此ノ Remill ノ工場ナク從テ値段ノ上ヨリ蘭印產ノモノヲ買増スルコトハ困難ナルモ何等カノ方法ニ依リ運賃等ニテモ安クセハ多少蘭印產ノモノノ買付ヲ增加スルコトヲ得ヘシ

石油

本邦石油精製業者ハ今迄該地ノ原油ヲ輸入シ居ラサルヲ以テ該地產原油ノ性質不明ナリ從テ之力買付ニ關シテハ見込立タスト云フ精製油ニ關シテハ石油業者間ニ市場ノ協定アル如ク從テ之カ買付増加ハ困難ナリト云フ

大藏省谷口關稅課長

蘭印ヨリノ輸入額ニ關シテ本邦ニテ保稅工場ヲ經テ輸入セラルルモノハ原產地ノ統計ニ算入セラレ居ラサル事情アリ從テ玉蜀黍ノ如キ事實蘭印ヨリ相當多量ニ輸入セラルモ保稅工場ニ入レ飼料トンテ輸入セラルモノハ蘭印ヨリノ輸入統計ニ計上セラレ居ラス依テ單ニ本邦ノ貿易統計上ヨリシテ其ノ輸出入額ヲ比較スルコトハ不可ナ

リ此等ノ事情ヲモ考慮スルヲ要ス、玉蜀黍ニ關シテハ目下此等ノ統計ヲ調査シツツアリ

農林省小山田事務官

玉蜀黍ニ關シテ當業者ノ言ニ依レハ蘭印產玉蜀黍ノ九割以上目下本邦ニテ買付ケツツアルヲ以テ今後コレ以上買付クル餘地ハナカルヘシト云フモ詳悉ノ點ハ不明ナリ

外務省井上第一課長

今日ハ此ノ程度ニテ止メ尙砂糖ノ問題ニ關シテハ關係省ニテ協力セラレ何等カノ方法ヲ決定セラレタシ(午後二時散會)



326

昭和9年5月9日 広田外務大臣より

在バタヴィア越田總領事宛(電報)

海運問題は他国への影響大につき政府間会商

の議題としない方針で対応方訓令

本省 5月9日後発
バタヴィア 5月10日前着

第六二號

在蘭公使宛電報第四三號

キ會商ノ問題トナサントシ最近神戸交渉ニ於テ我當業者側カ從來ノ積荷實績ヲ考慮シ且妥協的精神ニ依リ三十一

%迄ハ讓歩スヘキ意嚮ヲ仄カセルニ對シJ社側カ本件ハ

既ニ政府ノ後援ヲ依頼セリトテ非妥協的態度ニ出テ居ル

コトハ先方ノ誠意モ疑ハル、次第ナルモ我當業者トシテ

ハ神戸交渉ハ多少手間取ルトスルモ結局ハ纏ルヘシトノ

鑑ミ當業者間ニ相談出來得ヘキモノト思考セラル、ニ付

テハ蘭國政府ニ對シテモ此ノ際寧ロJ社側ヲ說得シテ神

戸交渉ヲ妥結ニ導ク様盡力方申入レラル、様致度

「バタヴィア」ヘ轉電アリタシ

「スラバヤ」「メダン」ヘ「バタヴィア」ヨリ暗送アリタ

シ
昭和九年五月二十五日
長岡(春一)日蘭會商代表宛(電報)

日蘭會商六日開会日程につき通報について

付記一 作成日不明

「日蘭會商打合會(第五回)」

本 省 5月25日後発

サントス丸 5月25日後着

「ランネフト」發本大臣宛電報第一六九號左ノ通り轉電ス

貴代表ヨリ可然御回答相成度

二十三日「ランネフト」來館會場ハ美術協會ニ決定セルコト及ヒ五、六日頃開會シ度キ旨申出テタルニ付大使一行三

日着トシ四日午前總督謁見午後「ランネフト」氏邸茶會、五日午後本官邸茶會、六日開會ト大体豫定シ大使ノ都合ヲ

問合スヘキ旨ヲ答ヘ置キタリ御同意ナラハ手配スヘキニ付御回電ヲ請フ又「ラ」氏ハ開會當日又ハ可成速ニ我方具体案ノ提示ヲ望ム旨ヲ述ヘタルニ付帝國政府ノ訓令ハ同大使

力受ケ居ルニ依リ右様傳フヘキ旨ヲ答ヘ置キタリ

尙開會式用大使ノ儀禮的朗讀文及ヒ到着ノ際新聞記者ニ交

二 作成日不明

「日蘭會商打合會(第六回)」

三 作成日不明

「日蘭會商打合會(第七回)」

四 四月十一日付

「日蘭會商訓令閣議案」

付スヘキ「メッセイジ」英文ニテ御作製置キヲ請フ

經濟長官ハ二十三日出發「ヘルデレン」及「スペニヤール」

ハ二十四日到着ノ筈

長岡大使ヘ轉電アリタシ

蘭、「スラバヤ」ニ轉電シ「メタン」ヘ暗送セリ

(付記一)

○蘭會商打合會(第五回)

一場所 外務次官官邸

二、開會日時 昭和九年五月四日午後三時半

一、出席者 外務省

重光外務次官、來栖通商局長、井上通商局

第一課長、若松事務官、早間事務官等

大藏省

中島主税局長、尾關事務官

商工省

吉野商工次官、寺尾貿易局長、大島通報課

長、新井事務官等

拓務省

北島殖產局長、增本事務官等
民間側

臺灣製糖 武智社長、益田專務

明治製糖 相馬取締役

日本製糖 藤山社長(父)、藤山取締役(子)

東洋紡 阿部、庄司

日本紡 小寺

鐘 紡 津田

輸出代表者 山崎一保(東洋棉花)、伊藤竹

之助(伊藤忠商店)、阿部藤造

雜貨方面代表者

安宅彌吉、高柳大阪商工會議所

理事、加藤源次郎、福本神戶商

工會議所理事、與田日本商工會議所

議所主事、木村東京商工會議所

理事

山中、三井物産スラバヤ支店長

一、來栖局長ヨリ日蘭會商ヲ開會セザルベカラザルニ至リン

事情及日本ニ於テ蘭印ヨリノ輸入ヲ増加セザルベカラザル事情等ニツキ説明セリ

一、山中氏ヨリ蘭印ノ事情ヲ説明ス

一、安宅、山中兩氏ノ間ニ質問應答アリタリ

一、益田氏ヨリ爪哇糖輸入増加ノ困難ナル旨縷々説明アリタリ

一、本會合ニ於テハ何等纏ル所ナカリシニ因リ商工省等ニ於テ各營業者ノ代表者ト後日打合スコトナリ散會ス

一、出席者

（付記二）
日蘭會商打合會（第六回）

一、場 所 外務省通商局第一會議室

一、開會日時 昭和九年五月八日午後二時

一、出席者

外務省　來栖局長、井上課長、若松事務官、早間
事務官等

大藏省　中島主稅局長、尾關事務官

商工省　寺尾貿易局長、大島通報課長等

拓務省　北島殖產局長、塚本事務官
糖業者　灣糖　武智直道、益田太郎
明糖　原邦造
日糖　藤山愛一郎
輸出業者　三井物産　田島（常務）、村上、櫻井
三菱商事　加藤（常務）、田中

一、田島氏ヨリ開會ノ挨拶アリ

一、來栖局長ヨリ開會ノ挨拶アリ

一、田島氏ヨリ

(イ)砂糖ヨリ酒精ヲ製シ「ガソリン」ニ混入スルコトヲ考慮シテハ如何現ニ獨逸ニ於テハ一割ノ混入ヲ爲シ居レリ、其ノ他ノ國ニ於テモ混入セルモノアリ（因ニ砂糖一擔ヨリ酒精一斗五升ヲ製造スルヲ得）
(ロ)砂糖ヲ支那方面ニ輸出スル方法ヲ考慮シテハ如何
(ハ)砂糖以外ニ於テモ石油等ヲ買増シ得サルカニツキ研究スヘキニアラスヤ

一、櫻井氏ヨリ

砂糖十萬噸以上ノ輸出ハ困難ナリ、砂糖ハ主トシテ支那ニ輸出シ居レルカ支那ハ關稅ヲ引上ケ輸入ヲ阻止シ居レリ、現在ニ於テハ密輸出ニヨルモノ相當多キモ元來カ密

輸出ナルニ依リ將來ノ增加高豫測スルヲ得ス

（付記三）
日蘭會商打合會（第七回）

一、場 所 外務省通商局長室

一、開會日時 昭和九年五月九日午前十時

一、出席者

外務省　長岡大使、來栖局長、井上課長、若松事務官、早間事務官

大藏省　中島局長、谷口課長、尾關事務官、伊藤技師

商工省　寺尾局長、大島課長

顧問　木村元亞細亞局長

一、武智氏
砂糖ヲ酒精トスルハ其ノ製品カ假令高價トスルモ陸海軍ニ於テ引受ケテ買入レルト云フニアラサレハ到底製造シ得サルヘシ

一、尙ホ此ノ外種々議論アリタルカ結局砂糖ノ買入ヲ増加スル件ニツキテハ糖業者ニ於テ相談ヲ纏メ外務省ニ回答スル旨原邦造氏ヨリ發言シ散會セリ

昭和九年五月九日

日蘭會商交涉方針案

（付記三）

第一、今次會商ハ現行日蘭通商條約ノ條章及精神ニ則リ折衝

セラルベク從テ現行條約ニ變改ヲ加フルカ如キ提議ニハ
一切應セサルヘキハ勿論會商ノ結果ヲ成文化スル場合ニ
モ右條約トハ獨立シタル形式ヲ採ルコト

貿易調整ノ具体的措置ニ關スル約定ノ如キハ確定シタル
期間(例ヘハ三ヶ年)ニ局限スルコト

第六、客年九月以降蘭印ニ於テ實施セル輸入制限制度ニ對シ
テハ其ノ廢止又ハ改正ヲ要求スルコト(要求細目別紙甲
號ノ通り)

右ノ爲必要アルニ於テハ政府ハ本邦關係業者ニ統制ヲ加
フルコト

第三、日蘭印間ノ貿易改善ニ關スル和蘭側ノ提案ニ對シテハ
左記ニ依リ措置スルコト尙之カ爲必要アラハ政府ハ本邦
關係業者ノ統制又ハ關稅引下等ノ措置ニ依リ共力スルコ
ト

(一)蘭印側ニ最モ歡迎セラルル品目例ヘハ砂糖、生ゴム等
ヲ可及的大量ニ買付方當業者ヲシテ約セシメ之カ爲必
要アラハ本邦關係輸出業者ヲシテ損失ノ一部ヲ負擔セ
シムルカ如キ方法ヲ講セシムルコト(詳細ハ別紙乙號

「参考」参照)

(二)從來蘭印產品ニシテ「シンガポール」等經由本邦へ輸
入セラレ居ルモノヲ直接蘭印ヨリ購入ヲ圖ラシムルコ
ト

(三)蘭印產品對本邦品輸出入ノ比率設定ニハ極力反対スル
コト

四萬一蘭印側ニ於テ前項比率設定ヲ固執シ右カ會議ノ成
否ニ關係スル場合ハ請訓スルコト

尤モ蘭印側ニ於テ金本位ヲ離脱スルカ又ハ右買付增加案
ノ實行ヲ困難ナラシムルカ如キ事態生シタル場合ハ直ニ
商議ヲ開始シ其何等妥結ヲ見ル迄右買付ヲ停止スルコト

第四、和蘭側ヲシテ協定中ニ左記ノ保障ヲ爲サンムルコト
(尙本交涉繼續中ハ右同様ノ趣旨ヲ議事錄中ニ保障セシ
ニ付了解ヲ取付ケ置クコト)

一、新ニ邦品又ハ邦人ノ利益ヲ害スルカ如キ輸出入制限制
度ヲ設ケサルコト

二、事實上主トシテ本邦品ヲ目標トスルカ如キ輸入稅及輸
出稅(附加稅、其他一切ノ課金ヲ含ム)ノ引上又ハ新設
ムルコト)

第六、蘭印側ノ設定スヘキ輸入數量割當ニ對スル方針左ノ通
リ

三、企業營業等ニ關シ邦人ノ既得權ヲ尊重シ事實上邦人ヲ
差別待遇スルカ如キ法令ヲ設ケサルコト

右一、二、ニ付テハ萬一和蘭側カ右ノ保障ヲ峻拒スル
場合ハ第五ノ規定ヲ設定スルコトシ差支ナキモ三、
ニ付テハ第五ノ規定ト別箇ニ特ニ保障ヲ要求スルコト

第七、日蘭印間貿易保持ニ關スル規定
蘭印側ニ於テ輸出入關稅又ハ輸出入禁止制限ノ設定ニ依
リ事實上特ニ本邦品ニ惡影響ヲ及ホスカ如キ措置ニ出ツ
ルコトヲ避ケル爲今次日印條約ノ例ニ倣ヒ「日本及蘭印
兩國ノ何レカノ一方カ將來輸出稅ヲ課シ又ハ輸入關稅率
若ハ課稅標準ノ變更ヲ爲シ又ハ輸出入ノ禁止及制限ヲ爲
スニ當リテハ相手國ノ貿易ニ甚シキ影響ヲ與ヘサラムコ
トニ考慮スヘク若シ右等措置ニ依リ相手國ノ貿易ニ著シ
キ惡影響ヲ及ホスノ結果トナル場合ハ兩國政府ハ惡影響
ヲ蒙リタル國ノ政府ノ要求ニ基キ出來得ル限り速ニ兩國
間貿易上ノ利益ヲ調整スル爲直ニ商議ヲ開クヘキ」趣旨
ノ約定ヲ爲スニ努ムヘキコト

(四)若シ右カ不可能ナル場合ハ出來得ル限り公正且妥當
ナル數量ノ割當ヲ要求スルコト此ノ爲必要アルニ於
テハ政府ハ本邦關係業者ニ統制ヲ加フルコト

第五、和蘭ト蘭印トノ特惠關稅設定ノ申出テアル場合ハ我方
トシテハ之ヲ認メサルコト若シと蘭側カ右特惠ノ設定ヲ
固執スル場合ハ右ヲ認ムル代リニ我方トシテハ接壤國產
品ニ與フル關稅上ノ殊遇及關稅同盟ニ基ク特典ニ付和蘭
側ヲシテ認メンムルコト(別紙丙號一八二四年ノ倫敦條
約、一八七一年スマトラ條約參照)

第六、圓對盾爲替比價變動ニ依ル影響ヲ是正スヘキ措置

蘭印側ヨリ本邦圓價下落ノ理由ニ依リ本邦生産品ニ對シ
差別的關稅率ヲ賦課シ又ハ其ノ他差別的取扱ヲ與フルコ
トヲ提議シ來ル場合ハ右ノ提議ヲ拒絕スルコト

第九目下神戸ニ於テ日蘭關係船舶業者間ニ進行中ノ「ブー
ル」問題ハ何處迄モ日蘭當業者ノ交渉ニ委ヌルコトシ

極力今次會商ノ議題タラシメサルコト

第六、蘭印ニ於ケル商議終了ヨリ和蘭ニ於ケル正式手續完了
シ效力發生スル迄ノ暫行措置

蘭印ニ於ケル商議ノ結果日蘭間ニ合意成立シタルトキハ
和蘭ニ於テ右合意ヲ取極等ノ形式トシ效力ノ發生ヲ見ル
ニ至ル迄ノ期間日蘭印双方トモ直ニ實行シ得ヘキモノハ
合意成立ト同時ニ之ヲ事實上實行スルコトニ今次會商ニ
於テ話合ヲ遂クルコト

別紙甲號（蘭印側ニ於テ實施セル輸入制限制度ノ廢止又
ハ改正）

現行制度中本邦ニ影響アルモノハ輸入ニ於テ「セメント」、
麥酒、「サロン」及晒綿布ナリ

B、若シ右不可能ノ場合ハ

(1)一九三〇年ヲ基礎トセル輸入資格ヲ一九三三年又
ハ一九三二年ノ基礎ニ置カシムルコト

(2)成ルヘク

(イ)輸入數量ノ基礎ヲ有利ニ改正セシムルコト（註、
一九三三年ノ基礎ニ置クコト有利ナリ）

(ロ)和蘭ヘノ優先割當數量改正方協議スルコト

(二)晒綿布

A、現行制度ノ廢止ヲ要求ス

B、若シ右不可能ノ場合ハ

(1)輸入數量ヲ出來得ル限り一九三三年ノ基礎ニ置カ
シムルコト

(2)成ルヘク

(イ)現行ノ輸入資格ヲ一九三三年ニ輸入シ居リタル
者ト變更セシムルコト

(ロ)邦商ノ負擔スル蘭品輸入義務ヲ免除セシムルコ
ト

(ハ)和蘭ヘノ優先割當數量改正方協議スルコト

別紙乙號（蘭印產品買付ニ依ル損害填補ノ措置）

(一)對蘭印重要輸出品各別ノ輸出組合ノ急設

最近三ヶ年平均年額約五十萬圓以上ニ達スル對蘭印重要
輸出商品（十六種）各別ノ輸出組合ヲ組織セシメ右組合ヲ

シテ砂糖、生ゴム等ノ蘭印產品增加買付又ハ其ノ再輸出
ニ依ル損失ヲ填補セシムル爲左記（二）ノ措置ヲ採ラシムル
コト

(二)(イ)砂糖、生ゴム等ノ增加買付金額三ヶ年平均約千萬圓ニ
對スル一〇%ニ相當スル金額百萬圓迄填補スルコト

(ロ)右填補資金百萬圓ハ最近三ヶ年平均對蘭印總輸出價額
約一億圓（實數ハ一億九百十二萬六百圓）ノ一%ニ相當

シ居リ本邦關係輸出業者ニ於テ之ヲ負擔ス即左記ノ表
ニ別記セル各品目別ニ組織セル輸出組合間ニ於テ右金
額ヲ分配負擔ス

織物 織物 及人造織 物	對蘭印 重要輸出品 額	金	
		三ヶ年平均輸 出價額概數	額
五千二百二十萬圓	一千三百	一千三百	一千三百
一割五分	六割二分	六十二萬	六十二萬
十五萬	圓圓	圓圓	圓圓

(イ)「セメント」

本邦當業者ト蘭印輸入業者並ニ本邦當業者ト蘭印セメ
ント會社トノ協定ニ基キ輸入制限令ヲ發布セルモノナ
レハ之カ改廢ヲ求ムル要ナシ

(ロ)麥酒

A、現行制限制度ノ廢止ヲ要求スルコト

B、若シ右不可能ノ場合ハ

(1)國別割當ヲ廢止セシムルコト

尤モ此ノ場合蘭印側ヨリ和蘭本國ニ對スル優先割

當ヲ提議シタル場合ハ之ヲ容認シ差支ナシ

(2)成ルヘク現行制限令ニ依ル輸入數量及輸入資格ノ
基礎ヲ有利ニ改正セシムルコト

（註、現行制限令ニ依レハ輸入數量ハ一九三二年
ヲ基礎トセルヲ以テ之ヲ一九三三年又ハ一九三二
年ノ基礎ニ置カシムルコト致度シ）

(ハ)サロン

A、現行制度ノ廢止ヲ要求ス

(イ)セメント

（註、現行制限令ニ依レハ輸入數量ハ一九三二年
ヲ基礎トセルヲ以テ之ヲ一九三三年又ハ一九三二
年ノ基礎ニ置カシムルコト致度シ）

「メリヤス」製品	二百七十萬圓	三分一厘	三萬二千圓
鐵器	二百六十萬圓	三萬一千圓	三萬二千圓
磁器	二百五十萬圓	二萬四千圓	二萬四千圓
陶器	二百四十萬圓	二萬三千圓	二萬三千圓
「セメント」	一百六十萬圓	一萬七千圓	一萬七千圓
「ゴムタイヤー」	一百四十萬圓	一萬三千圓	一萬三千圓
硝子及同製品	一百六十萬圓	一萬二千圓	一萬二千圓
木玩	一百六十萬圓	五千圓	五千圓
綿帽	一百六十萬圓	五百圓	五百圓
綿品	一百六十萬圓	五百圓	五百圓
「タオル」	一百六十萬圓	五百圓	五百圓
類	一百六十萬圓	五百圓	五百圓
右十六種品目合計八千四百八十萬圓	六十四萬圓	六厘	六厘
計十割	六十四萬圓	五厘	五厘
合計百萬圓	六十四萬圓	九厘	九厘
規那皮	六十四萬圓	八厘	八厘
六百噸	六十四萬圓	七厘	七厘
百二十萬圓	六十四萬圓	六厘	六厘
錫	六十四萬圓	五厘	五厘

(二) 蘭印物品輸入組合ノ急設

四、蘭印特產ノ買付

(イ) 砂糖 年額 二十五萬噸 千八百七十五萬圓

(最近三ヶ年平均 (最近三ヶ年平均價額
數量ヨリ約十三 ヨリ約八百二十五萬
萬噸ノ增加買付) 圓ノ增加買付)

生ゴム 二萬噸 八百六十萬圓

(最近三ヶ年平均 (最近三ヶ年平均價額
數量ヨリ約十三 ヨリ約八百二十五萬
萬噸ノ增加買付) 圓ノ增加買付)

生ゴム

四、蘭印特產ノ買付

(最近三ヶ年平均價額ヨリ三十
萬圓ノ增加買付)

トナル

右ニ依レバ砂糖ハ約八百二十五萬圓、生ゴムハ三百
四十五萬圓合計約千萬圓(實數ハ千二百七十萬圓)ノ
ミガ本邦糖業政策上又ハ國內消費上輸入困難ノ狀態
ニ在ルニ不拘強テ之ヲ買付クルモノナルヲ以テ此結

- 果輸入業者ニ何等損失ヲ及ホセル場合ハ右金額ノ約
一割即チ百萬圓ヲ限度トシテ損失ヲ填補スルコト
(ロ) 右以外ノ蘭印產品鑽油、珈琲、煙草、故鐵等ニ關シ
テモ極力買付增加ニ努力スルコト
(イ) 「ゲダレン」ノ大日本製糖株式會社生産ノ砂糖ニ付
テハ成ルヘク其ノ全量輸出ヲ承認セシムルコト

(付記四)

○蘭會商訓令閣議案

(九、四、一一)

328 昭和9年6月3日

長岡日蘭會商代表より
廣田外務大臣宛(電報)全權一行三日バタヴィア到着日蘭會商代表部
事務所の開設について

バタヴィア 6月3日後4時発

本省 着

第一號

二、出來得ル限り蘭印產品ノ本邦輸入増加ヲ策スルコト

右ハ成ルヘク當業者ノ自發的行爲ニ依ラシムルモ必要ア
ラハ帝國政府トシテモ本邦關係業者ニ對スル統制又ハ關
稅引下等ノ措置ニヨリ共力スルコト三、蘭印ニ於テ和蘭國ニ對スル優先割當ヲ設定スルコトハ認
ムルモ兩者間ニ於ケル特惠關稅ノ設定ハ認メサル様努ム右ハ成ルヘク當業者ノ自發的行爲ニ依ラシムルモ必要ア
ラハ帝國政府トシテモ本邦關係業者ニ對スル統制又ハ關
稅引下等ノ措置ニヨリ共力スルコト右ノ為必要アラハ帝國政府ニ於テ適宜本邦關係業者ヲ統
制スルコト

送セリ

蘭印總督およびランネフト首席代表に会商に
対する我が方意向および声明案提示について

別電一 六月七日発長岡日蘭会商代表より広田外務大臣宛第一号

会商に対する我が方意向

二 六月七日発長岡日蘭会商代表より広田外務大臣宛第一二号

右声明案

バタヴィア 6月6日後12時発
本省 着

第一〇號
往電第六號末尾ニ關シ

五日朝總督府ヨリ六日午前十一時面談シ度キ旨電話アリタルニ付同時刻出向タル處「ランネフト」既ニ來着直ニ會談ニ入レリ其ノ要領左ノ通り
本使ヨリ別電第一一號ノ趣旨ノ陳述ヲ爲シタル後別電第一二號ノ聲明案ヲ前記兩人ニ交付セル處總督ハ右聲明案ハ條

約ノ性質ヲ帶ヒ純然タル外交的ノモノナレハ自分トシテ唯
今何トモ即答スルノ權限ヲ有セサルヲ以テ早速本國政府ニ
電報シ其ノ意見ヲ徵シタル上何分ノ回答ニ及フヘキ旨述ヘ
タルニ付本使ハ右案ハ當方カ當然ト認ムル諸原則ヲ羅列セ
ルニ過キサルモノナレハ和蘭政府ニ於テモ左シタル異存ア
リトハ思考セラレサルモ若シ同國政府ニ於テ之カ修正ヲ必
要トスルニ於テハ當方ニ於テモ亦右ニ付十分ノ考慮ヲ加フ
ヘル又別電第一一號陳述ノ如ク日本及日本人ニ關シ我々ノ
少シモ考ヘ居ラサル事ニ付危惧ノ念和蘭側ニ存在シ居ルカ
如ク思ハル節多々アルニ付テハ若シ貴方ヲ安堵セシメ得
ル何等カノ途ヲ當方ニ於テ講シテ貰度意向アルニ於テハ之
亦考慮スルニ吝カナラス而シテ前記提案ハ純經濟的原則ニ
過キサルカ之ニ關聯スル諸問題ヲモ一括清算シ度キ趣旨ニ
テ特ニ貴總督トノ會見ヲ希望セル次第ナリト縷々説明セル
處「ラ」ハ側ヨリ言ヲ挿ミ此ノ提案ハ貴見ノ通り純經濟問
題ナレハ是コソ日蘭會商ノ討議事項ニシテ態々本國政府ヲ
煩ハス迄モナク自分等ニ於テ研究シ得ヘク今右案文ヲ瞥見
シタル所ニテハ第三及第四項ニ付テハ相當議論アリ得ヘシ
ト述ヘタリ總督ハ兩人ノ間ニ挾マリ頗ル當惑ノ体ニテ然ラ

ハ自分カ此ノ案ヲ受取リ之ヲ「ラ」ニ研究セシメタル上何
分ノ回答ヲ本使ニ取次クコト、シテハ如何ト申出タルニ付
本使ハ當方ノ提案ニハ蘭國政府ノ考如何ニ依リテハ政治條
項ヲモ附隨シ得ル可能性アリ本使トシテハ貴方カ如何ナル
權限ヲ有セラルヤ勿論不明ナルモ惟フニ純通商事項ニ限
局セラレ居ルヘク本使ノ有スル權限トハ大ナル開キアル様
思考セラル例へハ若シ貴代表團カ此ノ提案ヲ取扱ハルトシ
テ唯今例示セラレタル第四項ニ付之カ承諾ヲ困難ナリト申
出テラル場合其ノ理由ニ遡リ困難トスル内容ヲ消散セシ
ムル爲當方ヨリ蘭印不可侵ノ約束ヲナサンコトヲ申入ルル
トセハ貴代表團ハ果シテ之ニ應對シ得ル充分ノ權限ヲ有セ
ラルヤト質問セル處「ラ」ハ勿論斯ノ如キ權限ナシト答
ヘタルヲ以テ本使ハ是即チ本使カ貴官ヲ加ヘ總督ト談合セ
ント欲スル所以ナリト述ヘタリ總督ハ日本側ニ於テ斯ノ如
キ廣汎ナル會商ヲ爲ス意思ヲ有セラレシニ於テハ豫メ蘭國
政府ニ「ヒント」ヲ與ヘ置カレシナラハ好都合ナリシナル
ヘシト云ヘルヲ以テ本使ハサレハコソ曩ニ在蘭公使ヨリ外
務大臣ニ對シ本使屢々總督ト會見スルコトアルヘキ旨ヲ通
告シ同大臣ニ於テモ之ヲ諾シ貴總督ニ通知スヘキ旨約シタ

ル次第ナリ從テ當方ニ於テハ日本側ニ意ノアル處ハ既ニ充
分貴總督モ諒解濟ノコト、思考シ居タル次第ナリト述ヘタ
ルニ對シ總督ハ孰レニセヨ日本ニ對シ危惧スルト云フカ如
キ念ハ毫モ無之ト答ヘタルヲ以テ本使ハ果シテ然ラハ至極
結構ノコトナリ御承知ノ通り嘗テ華府會議ニ於テ四國條約
締結ノ際「ファン・カルヌベッグ」外相ヨリ右條約以前ニ
蘭葡兩國ヲ加ヘタル六國間ニ同様ノ條約締結方希望ノ申出
アリタルモ會議ノ容ル、所トナラサリシ爲同外相ヨリセメ
テ蘭印尊重ノ宣言ヲ得度キ旨申出テ其ノ結果一九二三年二
月駐蘭日本公使ヲシテ希望通リノ宣言ヲ蘭國政府ニ對シ爲
サシメタル次第ナルカ軍籍ニ在ル本邦人軍艦特務艦ノ蘭印
來訪ノ都度種々好マシカラサル報道ニ接スルハ我國トシテ
心外ニ堪ヘスト率直ニ披^(鑑)セル處總督及「ラ」ハ交互ニ右
ハ全ク日本側ノ誤解ナル旨極力辯解ニ力ムルト共ニ今回
ノ制限令ニ付テモ決シテ日本ノミヲ曰標トセルモノニ非サ
ル旨力説セリ依テ本使ハ立法者ノ意思假令斯ノ如シトスル
モ之カ爲ニ迫害セラル客体カ日本ナルニ於テハ結果ニ於
テ其間選フ所ナシ現ニ兩三日前海牙ニ於ケル「インターヴュー

ナル」云々ヲ弄セシ人アリトノコトナルカ數十萬ノ支那人カ瓜哇^(アガ)ニ於テ何等注視ノ目標トナラス平穩ニ其ノ業務ヲ繼続シツヽアルニ不拘僅カ七千人ノ日本人ニ付脅威ヲ感スルト云フカ如キコトハ我々トシテ到底了解シ難キ所ナルト共ニ斯ノ如キ考ヲ有スル人力蘭國代表團々員トシテ存在スル以上先ツ其ノ蒙ヲ啓クノ必要ヲ痛切ニ感セサルヲ得ス昨年本邦ト和蘭トノ間ニ義務的仲裁條約締結セラレタルカ右條約ハ實ハ本使カ海牙ニ駐劄ノ際日蘭兩國間ノ親交ヲ増進セシメ以テ日本ニ對スル和蘭ノ危惧ヲ消散セシメント思考シ日本政府ニ其ノ締結方ヲ建議セシニ端ヲ發スルモノニテ之カ調印ニ付テ日本ニ對スル和蘭國政府ニ於テ「ベラーツ」外相ノ希望ニ依リ特ニ日本ニ電報シ斡旋シタル次第ニシテ其ノ後事態ノ變化ニ依リ我樞密院側ニ於テモ之カ御批准奏請ニ付難色アル模様ナル旨ヲ述ヘタル處總督ハヨク諒解セル旨即答セリ次テ「ラ」ハ日本ノ提案ハ之ヲ考慮スルトシ會商ハ右ト無關係ニ一日モ速ニ開會シ度キ旨申述ヘタルニ付本使ハ制限令ニ依リ苦痛ヲ感スルハ獨リ日本ナリ又遠ク當地ニ出張シ一日モ速ニ會商ノ妥結ヲ希望スル日本代表團ヲ待タシ居ルニ不拘急ク必要少ナキ貴方ヨリ會商ノ急速開會ヲ要求ス

(別電一)

バタヴィア 6月7日前2時発
本省 着

第一號

一昨日申シタル通り日本ノ輿論ハ最近六ヶ月來閣下ノ想像以上ニ激昂シ居リ右ハ日本カ鎖國時代ニ於テスラ和蘭ニ對シ寛大ニ通商ヲ許可シ且蘭印ハ三世紀以上ニ亘リ日本ニ對シ輸出超過ヲ示シ居ルヲ以テ假令何等カノ事情ニ依リ兩國間ノ貿易關係カ日本ニ有利トナルコトアリタル場合ニモ和蘭ハ從來日本カ有セント同様ノ心情ヲ以テ事ニ處スヘキモノト確信シ居タルカ爲ニ他ナラス此ノ如キ見解ハ日本人ノ道義觀念ニ基クモノニシテ和蘭人ノ觀念ト無關係ナルヤハ知ラサルモ然シ現在日本ニ此ノ種ノ感情存在シ此事實ハ無視スルヲ得ス又之ハ單ナル巧言又ハ議論ヲ以テシテハ到底解消スルコトヲ得ス從テ本使カ今回ノ使命ヲ受諾スルニ當リ先ツ第一ニ達成セサル可ラサル任務ハ閣下ノ好意的協力ヲ以テ何トカシテ此ノ國民的激昂ヲ緩和スルニアリト認メ

タリ若シ從來兩國間ニ存在シタル友好的雰圍氣ヲ再現スヘキ何等カノ方法ヲ發見セサル限り會商ハ到底雙方ノ希望ス

ルハ些カ諒解ニ苦シム所ナリト述ヘシ處「ラ」ハ或ハ然ラニサリナカラ自分側ニ於テモ既ニ陣容整ヒ居ルニ付速ニ開會シ度ク前記ノ提案ハ提案トシ差當リ會商ヲ開クコトニ付異存アルヤト反問セルニ付本使ハ右提案ハ日本側ヨリ觀レハ當然ノコトヲ約束スルニ過キス從テ此ノ原則ヲ基本トシ會商ヲ進メ度ク若シ蘭國政府ニ於テ右原則スラモ受諾不可能ナルニ於テハ細目ノ會商ニ入ルトモ無意味ナリト思ヘハソ前記我方提案ニ對スル何分ノ回答アル迄開會ヲ延ハシ度キ譯ニテ貴方代表團ニ對シ何等他意アル次第ニ非サル點ニ付篤ト誤解ナキ様申入レタル處「ラ」ハ執拗ニ會商開期ノ決定ヲ要望セルニ付本使ハ然ラハ互讓ノ精神ニ依リ明後八日朝十一時ニ開會スルコトトシ差支ナキモ右ハ純然タル開會式ニ止メ實質的ノ會議ハ前記別電ノ我提案ニ對スル和蘭政府ノ回答ヲ得之カ經マル迄開カサルコトノ了解ニテ右開會提議ニ應スヘキ旨答ヘタルカ前記總督ト「ラ」トノ關係ニ鑑ミ萬一行キ違アランコトヲ惧レ總督ニ對シ重テ和蘭政府ヨリ回答アリ次第通知アリ度キ旨ヲ申入レ引取りタリ別電ト共ニ蘭ヘ轉電セリ

(別電二)

ルカ如キ満足ナル結果ニ到達スルコト困難ナルヘシ故ニ本使ハ會商ノ開始ニ先チ篤ト閣下トノ意見ノ交換ヲ提議シタル處幸閣下ノ承諾ヲ得タルニヨリ專門的討議ノ基礎トナルヘキ公正ナル一般原則ヲ起草セリ閣下ニ於テモ之ニ對シ好意的研究ヲ遂ケラレンコトヲ希望ス右提議ハ經濟的範囲ヲ出ツルモノニ非スシテ「グラーフ」外相カ在蘭帝國公使ニ言及セラレタルカ如ク一九一二年ノ日蘭通商條約ノ補足的協定トシテ作成セルモノナリ

終リニ日本ハ一九一二年二月和蘭政府ニ對シ嚴肅ナル保証ヲ與ヘタルニモ拘ハラス其後モ尙日本カ未夕會テ有シタルコトナキ意圖ヲ日本カ有スルカ如キ感情ノ屢々貴國人間ニ存在セルコトヲ聞キ甚々遺憾ニ感シタリ本使ハ兩國間ニ存在スル友好關係ヲ更ニ緊密ナラシメンカ爲且兩國民間ノ輯睦ヲ阻害スルカ如キ一切ノ誤解ヲ一掃センカ爲閣下ヨリ本使ニ提出セラルヘキ一切ノ提案又ハ提言ニ對シテハ喜ンテ同様ノ好意ヲ以テ研究スルノ用意アリ

據 111號

The Undersigned, considering that in order to strengthen the relations of amity and good neighbourhood that have long existed between Japan and the Netherlands it is essential to make closer the economic connections between Japan and the Netherlands Indies,

do hereby make, on behalf of their respective Governments of Japan and the Netherlands, the following declarations to supplement the provisions of the Treaty of Commerce and Navigation concluded between Japan and the Netherlands in 1912:-

1. Though the Netherlands are entitled to reserve the Netherlands Indies for the importation thereto of goods produced or manufactured in the Netherlands or to take necessary steps for the protection of industries of the Netherlands Indies, it is agreed that in the execution of that right full consideration should be

(co-operation⁹⁾) co-operation in commerce, navigation, and manufacturing and aquatic industries, etc., according to the principle of the freedom of enterprise and within the scope of the laws and regulations.

~~~~~

330 昭和9年6月11日 岩田外務大臣宛(電報)

田蘭会商に關するハハハタ側大綱の提示ノハシテ

別電 大正十一日岩田長岡田蘭会商代表より岩田外務

大臣宛第一回印

右大綱趣意はハコト

バタガヤ 6月11日後8時発

本 省 着

第111號

往電第一七號ハ關ハ

曰蘭會商開會式後「ハ」ハ本使ニ對シ大要別電第一回號ノ如キ趣意ノ長文ハ口上書ハ手交ヤル處右ハ七日開會式等ハ關スル打合ヤハ鶴「ハ」ハ會見ヤル際ノ詰合ヨリ基クモノナリ即チ右會見ニ於テ「ハ」ハ本使ニ對シ大田總督臨ニハ

given to all relevant facts and reasonable and fair measures be taken.

2. With a view to promoting the economic relations between Japan and the Netherlands Indies it is deemed necessary to make efforts, as far as possible, for the sound development, growth and adjustment of the trade between them and to regulate and protect in a fair manner the interests of the parties concerned in Japan and the Netherlands Indies, and for the arrangement of measures to be taken for such purposes views should be exchanged from time to time.

3. Either of the two countries, Japan and the Netherlands, shall not, directly or indirectly, impose on the other in matters of commerce, industry, navigation or taxation any condition which is heavier in effect than that imposed on a third country.
4. Japan and the Netherlands Indies, with a view to strengthening the economic connections between them, shall frankly exchange views as to the method of

取引タル日本提案ニ對スル由分等ハ意見ハ追テ通知ハキヤ由分等ヤ亦大綱ニ關スル提案ヲ有スルニ付之ヲ交付ハル爲開會式ニテ「蘭國代表團ハ昨日本ノ提案ヲ受取レリ蘭國ハ提案ハ是ナリ」トハ趣意ヲ述く其ノ提案ヲ御渡シ度シト述くタルヲ以テ本使ハ貴方ニテ公關ハ席上昨日ハ我提案リ附及セラルニ於テハ當方トシテハ一般訓諭機關ニ對スル義務トシテ直ニ其ノ内容ヲ公表スルロハ口マヲ得サルハシト存スル處一國カ他ノ一國ニ對シ或提議ヲ爲シ其ノ回答ヲ待タスシテ該提案ヲ公表スルロハ國際慣例ニ悖リ非禮ノハコレム思考スルヤ唯今ノ如キ態様ニテ事ニ處セラルルニ於テハ之亦已ムラ得サル仕儀ナルベク之ニ關スル苦情ヲ當方ハ受ケサルコト承知セラレ度ク然シ何モ斯ノ如ク角立テル形式ニテ貴方ノ提案ヲ公表セラルニモ及ハサルベシト思考スルカ如何ト述くタルニ「ハ」ハ然ラハ閉會後本使ニ内密ニ自分側ノ提案ヲ手交スルロムト述く本使ハニ對シ當方ニ於テモ充分研究シ置クキ並約シ引取リタル經緯アルニ付右御印ニ置キヲ請フ由當方ノ考リテハ我提案ニ關シ何等田鼻付ク迄右回答ハナク發セサル積リナリ別電ト共ニ蘭く轉電アリ度

バタヴィア 6月11日後8時発  
本省 着

## 第二四號

國際貿易ノ正常狀態ナリシ時ニ於テハ蘭印ハ貿易檣壁<sup>橋壁</sup>及地方的保護既ニ存在シタルニ不拘主要工業國ニ於テ需要セラル原料品食料品ヨリナル蘭印產物ニ對スル世界的市場ヲ獲得セル處他面一切ノ諸外國ハ他ノ如何ナル國ニ於ケルヨリモ自由ナル條件ノ下ニ當國天然資源ノ踏查開發ニ參與スルコトヲ許サレ多種多様ノ外國商社並ニ漸次增加スル移民(右ノ内日本人ハ絶ヘス增加シタリ)ハ現存ノ機會ヲ充分且有利ニ利用シタリ大戰後殊ニ一九二九年ニ始マレル經濟不況以後此ノ一般的狀態ハ全然變化シ國際的市場ハ全ク數個ノ政府ノ權力内ニ屬スル閉鎖的國內市場ニ分割セラレ右等政府ハ國內生產保護又ハ對外輸出助長ノ爲其ノ輸入ニ手加減ヲ加ヘントスルニ至レリ此ノ新貿易政策ノ結果ハ一切ノ蘭印輸出ニトリ一大脅威ヲ形成シ右脅威タルヤ實ニ當國ノ重大利益ニ對スル危險ナリ今ヤ全世界ニ急速ニ漫延シツツアル補償又ハ物々交換ノ原則ハ從來蘭印ヨリ輸出シタ

ル一切ノ國ヲシテ其ノ輸入ヲ先ツ自國工業品ニ市場ヲ供給スルコトヲ得ル國ノ爲ニ保留スルコトニ努ムルノ輸入政策ヲ採ルヲ餘儀ナクセシメタリ故ニ日本品カ激烈ナル競爭ニ依リ他ノ外國品ヲ蘭印市場ヨリ驅逐シツツアル事實ハ右市場ヨリ驅逐セラレタル商品ノ生產國ニ對シ賣ラサルヘカラサル蘭印一切ノ輸出品ニ對スル大ナル危險ヲ釀成セリ茲ニ於テ蘭印政府ハ不本意乍ラ此ノ最近ノ輸入ノ危險ナル傾向カ此ノ上トモ進展スルコトヲ阻止スヘキ對策ヲ採ラサルヲ得ス茲ニ於テ政府ノ干渉ニ依リ諸國ノ輸入利益ヲ蘭印產物ノ買手トシテノ重要性ニ對シ慎重ニ「バランス」スルコトニ依リテノミ當國ヲ世界ノ商業界ニ於ケル孤立ノ恐ルヘキ結果ヨリ保護スルコトトナレリ

以上述ヘタル問題ノ明確ナル觀念ヲ得ル爲此ノ事態ヨリ生スル問題ヲ左ノ二ツノ部類ニ分割スルヲ可トス

(イ)輸出入狀態及貿易ノ均衡  
此ノ點ニ關シ和蘭代表ハ貿易上ノ「バランス」カ甚タシク蘭印ニ不利ニシテ輸入及輸出ノ現状ハ全ク不滿足ナルコトヲ指摘セント欲ス之ヨリモ満足ナル貿易ノ「バランス」ヲ容易ナラシムル爲ニハ我方ヨリ日本ニ對スル輸出

ノ數量及價額ヲ大イニ増加セシムルコト肝要ニシテ貿易統計上假令輸入ト輸出ノ均衡ヲ得ルトスルモ尙日本トノ貿易ノ「バランス」ハ世界ノ殆ト總テノ他ノ國トノ「バランス」ヨリモ不利ナリ輸入ニ關シテハ原產國ニ於ケル重大ナル變化カ蘭印ニ於ケル市場ヲ喪失セル諸國ニ對スル我方輸出ノ繼續ヲ危険ナラシムルコトハ既ニ指摘セリ

(ロ)蘭印ノ生產及商業(農業、礦業、工業、卸賣及小賣業、船舶業、金融業等)ノ國際的參與

此ノ點ニ關シ我政府ハ既ニ日本政府ニ對シ經濟生活ノ現

狀ヲ著シク攬亂スルコトヲ防止スル爲此ノ事態ヲ處理スル措置ヲ執ルノ要アルヘキ旨ヲ通告シタリ當國ノ社會的經濟的生活ノ圓滿ナル發達ヲ期スル爲ニハ今日迄諸種ノ

利益確保ノ爲政府ノ採リタル諸般ノ措置ニ依リ嚴存シ來

レル自由ノ力(free forces)ヲ以テ之ニ充テサルヲ得ス必

要ノ措置ヲ執ルコトハ全ク蘭印政府ノ裁量ニ屬スト雖モ

同政府ハ日蘭印間ニ永年存在シタル友好關係ニ鑑ミ日本

代表ニ對シ提議セラレタル措置ニ關スル範圍内ニ於テ本ノ利益ヲ討議スルノ機會ヲ與フヘキ旨ヲ言明シタリ夫レ故ニ必要ナル法律上ノ權限ヲ含ム諸法令ノ實施ヲ當分

331

昭和9年6月23日

長岡日蘭会商代表より

廣田外務大臣宛(電報)

会商に関する我が方宣言案へのオランダ側回

答接到につきこれに対する我が方回答提出に

ついて

別電一 六月二十三日発長岡日蘭会商代表より廣田外

務大臣宛第三五号

右我が方回答案

右我が方宣言案に対するオランダ側回答

バタヴィア 6月23日後8時30分発

(別電一)

本省 着

バタヴィア 6月23日後11時発

着

第三三號(大至急)  
貴電第一一號ニ關シ

(三四號(大至急 極祕)

本省 着

別電第三四號ノ通我方回答案電報ス然ル處唯今我方宣言案  
(往電第一二號)ニ對スル蘭側回答別電第三五號ノ通接到セ  
ルニ付之カ對策ヲモ直ニ攻究シ廿六日ノ全委員會ニ於ケル  
我方ノ態度ヲ定メ前記別電第三四號腹案ヲモ更ニ練リ直ス  
要アルヘシト存ス而カモ我方回答ハ廿五日朝ニハ先方ニ送  
附スルコトヲ約シ居リ此ノ際到底本省ヨリノ回訓指令ヲ俟  
ツテ措置スルヲ許ササル切迫狀態ニ在リ且今ヤ日蘭雙方會  
商ヲ「リード」セムトスル「タクチツク」ノ時代ニテ末タ  
眞ニ具體的交渉ニ入ラサル際ニモ在リ將又本代表出發前本  
省首腦部トノ談合ニテ訓令ノ大綱ヲ變更スル如キ大變化ナ  
キ限り自分ノ裁量ニテ當面ノ處理並接衝ヲナシ得ルモノト  
考へ前記ノ如ク一々請訓ヲ爲サスシテ我回答ヲ明後日送附  
スヘキ旨約シタル程ニテ此ノ上延期ヲ求メ難キ事情御諒察  
ヲ乞フ

摘シテ其ノ傳統的自由開發主義ヲ捨テ此ノ新狀勢ニ對應  
スル政策ヲ採ラサルヲ得サル所以ヲ開陳セラレタリ  
日本國代表ハ此ノ新貿易政策即Barter主義カ一般不況  
(Depression)ニリ來ルDisastrous Effectsヲ益々惡化シ  
獨リ蘭領東印度ノミナラス世界一般ノ輸出ニ脅威ヲ與フ  
ルモノナルコトハ蘭國代表ト意見ヲ同ウスルモノナリ今  
後果シテ斯ル主義政策カ世界經濟ヲ支配スヘキ原則トシ  
確立セラルヘキヤニ戻ラハ多大ノ疑ヲ抱クモノナリ現在

歐州諸國中ニハ或ル範圍内ニ於テ此ノ政策ニ據ラムトス  
ル傾向アルハ事實ナルモ必竟其ノ商業機構ヲ中世紀ノ夫  
レニ引戻サムトスルモノニシテ必スヤ失敗ニ終ラムカト  
思考ス何トナレハ右政策ハ相互ノ必需品ヲ安價ニ生産ス  
ル兩國間ニノミ實行可能ナルモノナルニ不拘此等諸國ハ  
其ノ國ノ生産物カ最早他國ニトリ不必要ナルカ價格其ノ  
他經濟的理由ニ依リ購入困難ナルカ又ハ世界ニ多量ニ生  
産セラレ居ルノ事實ヲ度外視シ之カ購入ヲ他國ニ對シ強  
要セムトスルモノナレハナリ

ノ顧客タル他ノ諸外國品ヲ驅逐セル事實カ蘭印生產品ノ  
輸出ニ甚大ナル危險ヲ及セルモノナルコトヲ高調セラレ  
タリ  
惟フニ一國ニ多量ノ輸入ヲ見ル物品ハ他ノ事情ニシテ變  
ラサル限り必スヤ其ノ國民ノ要求スル物品タル証據ニシ  
テ世界各市場ニ於ケル日本品ノ躍進ハ正ニ此ノ國民ノ需  
要並購買力ニ適應セルカ爲ニシテ實ニ經濟ノ自然法則ニ  
從フノミ

同様ニ蘭領東印度ノ輸出品ハ生活必需品及工業原料ナル  
ヲ以テ今日迄工業國ハ其ノ輸入ヲ必要不可缺トナシ從テ  
其ノ障礙トナルヘキ關稅其ノ他一切ノ人爲的條件ヲ越エ  
テ市場ヲ維持セルコト亦自然ノ原則ニ據ルモノト云フヘ  
シ此等商品工業原料輸入國ニシテ權力政策ニヨリテ其ノ  
國民及工業ノ必需品ヲ拒斥セムトスルモノアラハ其ノ國  
民及其ノ工業ノ欲求必需ヲ無視スルモノト云ハサルヲ得  
ス

若シ夫一切ノ輸出貿易ノ不振ハ世界的不況ニ基クモノニ  
シテ獨リ蘭領東印度ニノミ見ル現象ニ非ス而カモ蘭印ノ  
輸出貿易數量ハ世界各國平均ノ夫レヨリモ遙カニ減少率  
カ激烈ナル競争ニヨリ飛躍的増進ヲ示シ爲ニ蘭印生産物  
之次ニ前記口上書ハ蘭領東印度輸入市場ニ於テ近年日本品

日本國首席代表ハ本年六月八日蘭國首席代表ヨリ手交セラ  
レタル口上書ヲ受領閱悉セリ按スルニ右口上書ハ蘭國政府  
ノ現ニ執リ且今後執ラムトスル貿易政策ノ因由及目的ヲ明  
ニシ今回ノ日蘭會商ニ於テ蘭國代表部ノ重要視セラルル問  
題ノ性質ヲ開陳セラレタリ

日本國首席代表ハ既ニ本會商ノ圓滿進捗ヲ希望スル趣旨ニ  
テ商議ノ根本原則宣言ノ案ヲ提起シ日本國ノ態度ヲ明示シ  
置キタルカ此機會ニ於テ蘭國側口上書ニ對スル感想ヲ率直  
ニ披瀝シ置クコトモ亦相互ノ諒解ニ資シ商議ノ進展ヲ計ル  
所以ナリト信シ左ノ通り回答旁所見ヲ開陳スルノ光榮ヲ有  
ス

一、右口上書ハ劈頭大戰後ノ世界經濟不況ニ基ク歐州諸國ノ  
貿易政策ノ變動就中 National blocs ノ對峙的分立並  
Compensation or barter trade主義ノ强行ニ因リ蘭領東  
印度ノ貿易ノ將來ニ重大ナル危惧ヲ齎ラシタルコトヲ指  
ス

少キハ事實ナリ

將又特定ノ日本品購入ニ對シ蘭印政府ハ既ニ苛刻<sup>(厳か)</sup>ナル制限拘束ヲ實行セラレタルカ其ノ影響トシテ第三國ヘノ蘭領印度生產品輸出增加ノ傾向ヲ豫期ノ如ク示シタリヤ將又日本品ニ代フルニ高價ナル第三國品ヲ以テセントスルモ一般購買力ノ關係上所期ノ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤ甚タ疑問ナリ寧ロ日本品ヲ使用スルコトニ依リ生スル購買力ノ餘剩ヲ他ニ利用スルノ得策ナルヲ信スモノナリ

以上ノ考察ニ據レハ『日本品カ他ノ外國產品ヲ蘭領東印度市場ヨリ驅逐セルノ事實』ヲ以テ直ニ『蘭印ノ一切ノ輸出品ニ對スル重大危險』ノ原因トナスハ日本國代表ノ首肯シ得サル所ニシテ事實上モ亦當ラサルモノト思考スニ、口上書ハ其ノ結論トシテ日本ト蘭印トノ貿易狀態ニ關シ問題ヲ一群groupsニ分チ(a)Imports, Exports and the balance of Tradeノ狀勢(Situation)ヲ論シ日本ノ蘭印生產品輸出増進ノ必要ヲ強調セラレタリ

素ヨリ日本ハ原料品ニ不足シ居ル爲所要ノ原料品ハ其ノ條件タニ満足スヘキモノナルニ於テハ何國ヨリモ之ヲ購入スルヲ辭セス從テ蘭印ノ如キ天然原料品ノ生産供給地

四、(b)蘭印產業ノ國際的地位ノ項ニ於テ蘭領東印度ノ經濟現勢ノ攬亂ヲ防止スル手段トシテ將又蘭領印度ニ於ケル社會的經濟的生活ノ圓滿ナル發達擁護ノ目的ヲ以テ必要ナル措置ヲ執ルノ自由ヲ強調セラレタリ  
日本國代表ハ何等蘭印政府ノ内政ニ干渉スル意思ナキモノナルカ右措置ノ自由ハイ<sup>at full discretion</sup>對外關係殊ニ通商關係ニ於テハ既存ノ條約ノ趣旨ニ背馳セサル範圍内ニ於テ可能ナルヘキモノナリ特ニ蘭印ニ於ケル日本品ノ輸入増加ノ結果同國ニ於テ市場ヲ喪失又ハ減少シタル第三國ニ同國市場ヲ留保セムカ爲ニ日本品ノ輸入ヲ制限セムトスルカ如キモノナルニ於テハ其ノ手段ノ直接タルト間接タルトヲ問ハス吾人ノ到底容認シ得サル所ナル事ヲ茲ニ豫メ宣明スルハ無要ノ事ニ非サルヘシト信ス

尚此機會ニ日本國代表ハ現行日蘭通商條約ノ根幹ヲ爲ス最惠國待遇ノ條款ニツキ注意ヲ喚起セムトス而シテ本來差別待遇ヲ否定スル最惠國約款ハ相互ニ或ル特種ノ利益ヲ供與シ最惠國ニ不利益ヲ與フル結果ヲ招來スルニ至ル種類ノ互惠主義トハ一般ニ本質上相容レサルモノナルコトヲモ茲ニ附言セムトス

五、以上蘭代表ノ口上書ノ要綱ニ對スル日本代表部ノ所見ヲ開陳セルカ曩ニ日本主席代表カ會商開始ニ先チ總督閣下並ニ蘭國首席代表ニ提示シ最近公文書トシテ Dutch Deligationニ送附セル會商ノ根本原則四ヶ條モ亦實ニ右所見ニ基クモノニ外ナラス從テ兩國代表ニ於テ茲ニ披瀝セル基礎的原則ニ關スル双方ノ所見吟味攻究シ更ニ一段ノ

ニ於テ日本ノ必要缺ク可ラサル原料品ヲ生產シ我等ノ希望ニ添フ様努力セラルルニ於テハ現時ノ如キ tempo rarely unfavorable balance of tradeへ容易ニ調整セラレ得ベシト信ス

然レトモ日本國代表ハ蘭印經濟當面ノDifficultiesニ同情スルモノナルヲ以テ前述ノ如キ日本ノ必需原料品生產ノ實現ニ至ル迄ノTransitory期ニ於テ出來得ル限リノ好意的考量ヲ加フルヲ惜ムモノニ非ス「但 Adjustment of trade balanceハ急激ニ一舉ニ解決シ得ヘキニ非ス必スヤ漸ヲ追フテ實現ヲ計ルコト最practicableナリト信ス」此ノ點ニ關聯シテ日本ニ於テ購入可能ノ物品ノ何ナリヤ又日本品ハ世界商品トノ自由競爭ハ如何ナル點迄蘭印ノ福祉ナリヤノ問題ニ就テモ研究スルノ要アルヘク而シテ右ノ研究ハ先ツ準備工作トシテ兩國政府間ニ實行シ結局此等ノ問題ハ當業者間ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ最後ノ協定ハ之ヲ双方關係當業者間ノ商議ニ移スヘキコト思考スル方向ノ進捗ヲ容易ナラシムル爲兩國政府ニ於テ最善ノ努力ヲ拂ハサルヘカラサルハ論ヲ俟タス

諸般の事項を細々と記載Particulars questions  
ノ記載の總の如く、從つ外國問題  
之 agenda の記載は未だ其の當期に附かん  
ト取扱

## (二)

タカヒト エマニラハ  
本 番 欄

## 総括(大別)

The Japanese Delegation have tendered to the Netherlands Delegation a draft declaration which has been drawn up in the form of a draft agreement.

In the opinion of the Netherlands Delegation a draft agreement can only constitute the outcome and not the starting point of the dealings.

The signing of an initial declaration irrespective of its contents, meets therefore with unsurmountable objections with the Netherlands Delegation.

As a basis for the conference they consider a joint

they desire to be brought up for discussions simultaneously with the Japanese memorandum.

The Netherlands Delegation desire to make the following observations regarding the four items brought forward in the document presented to them by the Japanese Delegation.

- ad 1. The point of view of the Netherlands Delegation concerning the Netherlands Indian Government's necessity to effect legislation regulating imports and exports has been expounded in paragraph 8 of their note verbale: for convenience's sake a copy of this note in which the paragraphs have been numbered for reference is attached.

It goes without saying that both Japan and the Netherlands are entitled to expect from one another that any Government intervention will not be effected without full consideration being given to all relevant facts and that both sides

declaration or an agreement as embodied in the Japanese draft unnecessary and undesirable.

Unnecessary, because the actual situation on one side and the relation of amity and good neighbourhood

that have long existed between Japan and the Netherlands on the other, are self-evident and definite; undesirable, because the Delegations would thereby bind themselves without previous joint consideration of all the relevant and closely interrelated problems and without having obtained a survey of the entire field.

The Netherlands Delegation are therefore only prepared to enter into a discussion of this draft declaration in so far as it may be considered as an expression of the ideas underlying the Japanese point of view.

As regards this point of view the Netherlands Delegation wish to point out that they have already laid down their own conception in the initial note verbale, presented to the Japanese Delegation, which

will act with due reasonableness and fairness.

Incidentally it may be mentioned that the passage reading "though the Netherlands are entitled to reserve the Netherlands Indies, etc." is superfluous and can only rise to misapprehension.

- ad 2. The Netherlands Delegation agree that the sound development, growth and adjustment of trade between Japan and Netherlands India, as well as the regulation and protection in a fair manner of the interests of the Parties concerned in both countries, come entirely within the scope of the conference.

The suggestion that discussions may from time to time take place concerning measures that have been put into effect can be dealt with in the course of the negotiations.

- ad 3. The stipulation laid down in paragraph 3 of the Japanese memorandum is unacceptable to the

Netherlands Delegation. The position of Japanese interests in the Kingdom of the Netherlands and of the Netherlands interests in the Japanese Empire are defined by the treaty of 1912.

No provision whatsoever is embodied in the

treaty of that no measure in Netherlands India shall, either directly or indirectly, be heavier in effect towards one country than towards another.

The course which the Japanese Delegation would evidently desire to see pursued is moreover at variance with the principles by which relations between countries are nowadays governed, according to existing and new treaties.

The Netherlands Government must retain complete liberty to take all necessary measures in pursuance of the economic policy described in the note verbale presented by the Netherlands Delegation, a policy from which on account of

Delegation are willing to exchange views and to cooperate with the object of obtaining an acceptable adjustment of economic relations and also to discuss Japanese interests in so far as they are connected with the measures which the Netherlands Indian Government have already put into effect and those which are under consideration. As a matter of fact the discussion of these affairs forms the real aim of the present conference.

The Netherlands Delegation are fully confident that the negotiations will lead to a satisfactory outcome for both Parties, if an atmosphere of calm and stability is aimed at by both sides.

The Netherlands Government have given ample proof of their earnest desire to create such an atmosphere.

The Netherlands Delegation must press for

existing circumstances, it cannot deviate.

The possibility that in some cases by these measures interests of one country may be more materially involved than those of others can in no way modify this liberty.

ad 4. The Netherlands Delegation are convinced that as in the past the Netherlands Government remain prepared to allow all foreign countries to participate in the economic development of Netherlands India within the scope of existing possibilities and with ample consideration for the maintenance of the economic equilibrium of the country.

It is hardly necessary to state that on this basis there can only be room for "freedom of enterprise" within the scope of the existing and future laws and regulations of Netherlands India.

The above testifies that the Netherlands

332

昭和二年一月三日  
此回日蘭外商代表より  
大田外務大臣宛(電報)

(署名)  
形代川嶋ハハ反蘇繩ニ暨くニ  
會議へ根本方針トシテ其ヘ召喚ハニヤ  
~~~~~

日本外務省
國大區副理、參謀部、總監物產賣賣公司の體
體體立體やハ國相談代表の私的會議リハニ
元體 | 十月十一日發此函日蘭外商代表より大田外務

大田宛第六〇函

七月廿四日大田外務大臣宛(電報)の體
ナハハタ便観書は於ハ我が方回

ナハハタ便観書は於ハ我が方回

三 七月十三日発長岡日蘭会商代表より広田外務大臣宛第六一號

我が方委員会設置案

バタヴィア 7月13日後8時発

本省 着

第五八號

爪哇視察旅行ヨリ歸還後商議開始方ニ關シ「ラ」ト打合ヲ遂クル爲面談シ度キ心組ニテ居リシ矢先七日「ラ」ヨリ書翰ヲ以テ覺書ヲ送付越シ右覺書ニ對スル當方ノ回答ヲ十三日迄ニ又同覺書ニ記載ノ三箇ノ委員會ニ對スル當方委員名ヲ十四日迄ニ夫々回報アリ度キ旨ヲ申越セル次第アリシヲ以テ當方ヨリノ要求ニヨリ七月十二日午前十一時會議場ニ於テ「ラ」ト二人限リニテ會見ス

會談要領左ノ通り

一、先ツ本使ヨリ本日會見ヲ求メタルハ去ル七日送付ヲ受ケタル書翰竝ニ覺書(大要別電第五九號ノ通リ)ニ關スルコトナリト前置シタル後貴翰ノ書現ハシ方ハ丁重ナルカ如キモ當方ノ回答ニ日限ヲ附セラレタルハ一種ノ最後通牒ノ如ク見エ甚タ不愉快ニ感シ居レリ又覺書ハ今日迄蘭印

二、「ラ」ハ貴下ノ意ノアル所ハ良ク了解セルニ付貴提案ニ
ニ即スト思ヒタレハコソ本日ノ提案ヲナシタル所以ナリト縷々說述セリ之ニ對シ「ラ」ハ貴方ノ意ノアル所ハ良ク了解セルカ根本原則ノ妥協ニ達シ得スシテ他ノ問題ニ移ル可能性アリヤ否ヤハ篤ト研究ヲ要スヘク私見ニ依レハ此ノ重要ナル根本原則ヲ豫メ纏メスニ會商ヲ開キタルコトカ甚タ輕率ニテ或ハ此ノ根本原則ノ妥協カ日蘭兩國政府ノ間ニ成立スル迄一時會商ヲ中斷スルコト然ルヘキカトモ思ハルト云ヒタルニ付本使ハ若シ和蘭側ニテ飽クマテ其ノ主張ヲ固執スルニ於テハ到底妥協ニ到達スル餘地ナカルヘシト考フ元來今次會商ノ主眼トスル所ハ日本トシテハ制限令ノ緩化ヲ要望シ蘭印トシテハ對日輸出ノ増進ヲ要求シ居ルコトニ在ルヲ以テ幸ニ右ニ關シ歩ミ寄リカ出來得タル場合必要ニ應シ原則問題ヲ更ニ討議スルコト今迄ノ經過ニ徵シ實際的ナラスヤト指摘セルニ「ラ」ハ話題ヲ轉シ日本案ニ依レハ一委員會ヲ設置スルコト、ナリ居ル處和蘭案ニテハ三委員會ノ設置ヲ要求シ居リ其ノ一タル海運ニ關シテハ後ニ御話シスヘキカ和蘭代表團中ニハ輸出ト輸入ニ關スル専門家ハ夫レ<／>分レ居ル旨述ヘタルニ付本使ハ日本代表團ハ不幸ニシテ此ノ如キ截

對シテハ充分研究スヘキモ根本ノ主張ニシテ合致シ得サル限り個々ノ問題ニ付徒ニ論議ヲ重ヌルトモ結局何時カハ衝突ヲ來スコト、ナルヘシト思ハル依テ豫メ主義ノ問題ヲ決定シ置クノ要アリト思考スト述ヘタルヲ以テ本使ハ若シ之カ出來得ルナラハ我々トシテモ極メテ満足ナルモ貴方ニテ當方提出ノ四大原則中特ニ第三項ニ付折合ヒ得スト稱セラル、カ故ニ先ツ實際ニ適合スヘキ機宜ノ措置ヲ講セント欲シタル迄ナリト云ヘルニ「ラ」ハ和蘭ノ主張ハ到底枉クルコトヲ得サルト同時ニ第三項以外ノ日本側提案事項ニ付テモ和蘭カ壓迫セラレ居ルカノ如キ印象ヲ與ヘ甚タ面白カラスト述ヘタル故本使ヨリ若シ文句等ニ付何等修正ヲ欲セラル、ニ於テハ其ノ對案ヲ得テ日本側ハ妥協的精神ニ則リ充分ノ考慮ヲ加フルニ客カナラサルモ第三項ニ關スル意見ノ相異ニ付如何ニ和蘭カ其ノ主張ヲ日本ヲシテ承認セシメントスルモ日本トシテハ右承認カ單ニ對和蘭乃至蘭印關係ニ止マラス多數ノ歐洲諸國ニ對スル日本ノ主張ニ累ヲ及ホスヘキニ付此ノ點ニ就テハ日本ハ一步モ讓ルコトヲ得ス故ニ此際右ニ關スル議論ヲ切離シ先ツ實際問題ニ關スル交渉ヲ開始スル方機宜

然分類的ノ専門家ヲ有セス從テ我方カ一箇ノ委員會ヲ設ケ右ヲシテ分科會ヲ構成セシメントスルハ我々代表團ノ人員不足ナル爲先般協議セル議事規則ニヨリ團員外ノ専門家ノ參加ヲ容易ナラシムル趣旨ニ他ナラスト云ヒタルニ「ラ」ハ和蘭側トシテモ此ノ種専門家ヲ參加セシムル必要ハ感シ居ル所ナリト述ヘ幾分當方ノ要求ヲ了解セル模様ナリ

三、次テ本使ハ貴方覺書ニヨレハ第一委員會力日本ヨリノ輸入ニ關シ假ニ最低量ノ決定ニ到達シ得タリトスルモ第二委員會ニ於ケル蘭印ヨリノ輸出數量如何ニヨリテハ右ノ最低量ハ全然覆サレ得ルモノナレハ實際上第一委員會ノ仕事ハ第二委員會ノ成果如何ニ從屬シ二個ノ委員會ヲ設クルコトハ無意味ナルカ輸出入ニ關スル當方ノ見解ハ御承知ノ通リニテ從テ一ツノ委員會ヲ設ケ普通萬國會議ノ慣行ニ從ヒ先ツ同委員會ニ於テ其ノ取扱フ諸問題ニ對シテ一般討議ヲ開始シ其ノ上ニテ幾何ノ分科會ヲ設クヘキヤト云フコトヲ決スル段取トナルヲ至當ト考フト述ヘタル處「ラ」ハ右委員會ニテ一般討議トハ何ヲ意味スルヤト問ヒタルニ付本使ハ今日迄我々ノ間ニ主義上ノ問題ニ

就テノ一般論ハ之ヲ爲セルモ具体的問題ニ關シ各般ノ事項ニ亘リ一般意見ヲ交換シタルコトナク之ヲ交換スルコトハ極メテ必要ノコト、思考スト述ヘタルニ「ラ」ハ自分ハ此ノ如キ一般論ヲナス必要ヲ認メス寧ロ直ニ分科會ヲ設置スルコト望マシト云ヘルニ付本使ヨリ何レニシテモ一般論ト云ヒ分科會設置ト云ヒ委員會成立セル以上兩代表團首席ニ於テ之ヲ決定スヘキ事項ナルニ付今我々カ之ヲ論議スル必要モナカルヘント云ヒタルニ對シ「ラ」ハ右委員會ニ貴下自ラ出席スヘキヤト問ヒタルヲ以テ本使ハ同委員會ニハ越田代表主宰ノ筈ニテ本使ハ圈外ニ在リテ必要ノ場合貴代表ト會見懇談スル方便宜ナラント考ヘ居レリト云ヒタル處「ラ」ハ自分モ全ク同感ナリト稱シ満足ノ意ヲ表シ居レリ

四、次ニ「ラ」ヨリ船舶ニ關スル問題ヲ提起シ和蘭代表團ハ和蘭政府ヨリ船舶事項ヲ本會商ノ議題トスヘシトノ訓令ヲ受ケ居リ之ヲ議題トセサルヲ得サル次第ナリト述ヘタルニ付本使ハ和蘭政府カ貴方ニ如何ナル訓令ヲ與ヘタリヤハ當方ノ干與スル限りニハ非サルモ船舶問題ヲ議題トスルコトニ就テハ日本政府ハ從來アラユル機會ニ於テ明

ニ不承諾ノ意思表示ヲ爲シ來レルニ付斯ル狀態ノ下ニ若シ和蘭政府カ前述ノ如キ訓令ヲ貴方ニ與ヘシトスレハ夫ハ貴方ニ不可能ヲ強フルニ過キス本使ノ聞ク所ニテハ船舶問題ハ關係諸會社間ニ殆ント妥協成リJ社ニ於テ會談ヲ再開スレハ妥協成立ノ見込充分アリト信スヘキ理由アリトノ情報ニ接シ居レリト述ヘタルニ「ラ」ハ如何ニモJ社ハ三十一%ノ割當ヲ承諾シタルカ契約期限等ニ就テ問題殘リ居レリト云ヘル故本使ハ契約期限ノ如キ些細ノ問題ヲ日蘭各會社カ重大大視スル價值モアラサルヘシト説述セルニ「ラ」ハ和蘭ノ重視スル所ハ國旗問題ニテJ社カ満足ト認ムル割當モ政府ハ不満足トスルヤモ知レス而シテ和蘭ハ和蘭船ニ割當ツヘキ商品ノ輸出量ニ付テ近ク法令ヲ發布スルヤモ知レスト述ヘタルヲ以テ本使ハ若シ人爲的ニ國家カ容喙シ經濟ノ大原則ヲ無視シ無理ニ自國船ヲ保護スル法制ヲ執ラントスルニ於テハ貴官ノ記憶セラル、「プロシヤ」ノ顰ニ倣フニ他ナラスシテ世界大戰ノ禍源カ何所ニ在リシヤト云フコトモ充分諒解セラル、コト、信スト云ヒタル處「ラ」ハ獨逸ハ百%ナルニ反シ和蘭ノ希望スル所ハ極メテ少率ナルニ付此ノ如キ危惧ハ

毛頭ナキヲ保障スルカ實ハ和蘭船ハ片荷ニテ日本ヨリノ歸航ニハ殆ント空荷ノ有様ナリト愚痴ヲコホシ尙執拗ニ海運問題ヲ議題トスル必要アル所以ヲ述ヘタルニ付本使ハ其ノ理由トシテ一九一二年ノ條約ハ單ニ通商ノミナラス航海ニ關シテモ規定シ居レリト云ヒタリ仍テ本使ハ此ノ航海ノ意味ハ今問題ニセラレ居ル航海案件トハ全然別事ナリ日本海運業全体ヨリ見レハ蘭印トノ間ノ配船ハ極メテ一部份ニ過キス然ルニ此ノ些細ナル航路ニ付未タ曾テ日本ノ承諾セス且世界ニ其ノ類例ヲ見サル國旗ヲ以テスル協定ヲ結フニ於テハ日本ノ海運業ハ世界各地ニ於テ其ノ累ヲ受クヘキニ付日本トシテハ到底和蘭側ノ要求ニ應シ能ハサルコトヲ言明スルト共ニ若シ貴方ニ於テ訓令ヲ遵奉シ得サル爲困難ノ立場ニ居ラル、ノナラハ本使ノ拒絶ヲ其儘海牙ニ傳ヘラル、コト然ルヘシト述ヘタルニ付本使トシテモ之ニハ全然同感ナリト答ヘタルニ

五、次テ「ラ」ハ本會商ノ成ルヘク速ニ終了センコトヲ申出タルニ付本使トシテモ之ニハ全然同感ナリト答ヘタルニ「ラ」ハ日本人ハ一致團結シ日本國ヲ背景トシ事ニ居ル處和蘭ノ如キハ個人主義發達シ居リ團結心ニ乏シキ爲已ムヲ得ス之ヲ統制スル必要上「ライセンス」制度其

他ノ制限令ヲ設ケサルヲ得サリシ次第ナリト述ヘタル故本使ハ如何ニモ日本國民ハ祖國ヲ思フ念深キコトハニ勝ルトモ劣ルコトナキヲ確信ス然シ乍ラ個人主義ノ發達シ居ル國ニ就テ例ヘハ佛國カ彼ノ獨逸ノ大軍ニ對抗シ得タルハ畢竟祖國ヲ思フ念強カリシ爲ナリ祖國ヲ思フ念ト商業關係ニ於ケル利害打算ノ念トハ全然區別シ觀察スヘキモノト考フ自分ハ専門家ニ非サル故詳シキコトハ分ラサルモ例ヘハ「キヤムブリック」ノ問題ニ付テ六十%ノ割當ヲ保持スルモノハ蘭印ニ於ケル十以上ノ組合ニ加入シ居ル商社タルヲ要ストノコトナルカ其ノ組合中ニハ外國人ノ加入ヲ許サ、ルモノモアルト聞ケリ此ノ如キ加入条件ヲ基礎トスル「ライセンス」制度ハ餘リニ人工的ナラスヤト指摘シタルニ「ラ」ハ或ハ然ラント言葉ヲ濁シ更ニ協議ノ餘地アルモノ、如キ印象ヲ與ヘタリ

六、更ニ日本商人進出ノコトニ言及セルニ付本使ハ今回各地旅行ノ結果北海岸ニ於ケル各都市ハ和蘭商社ハ別トシ殆ント華僑ノ町ニシテ又華僑日本商ノ取扱フ同シ日本品ニテモ其間ニ品種ニ優劣ノ差アリ其ノ利害必シモ相反シ居ラサル様見受ケタルカ殊ニ最モ印象ツケラレタルハ目

下蘭印ニテ相當發展シ居ル日本人ハ既ニ二三十年以上モ在留シ衷心ヨリ共存共榮ヲ目標トシ其ノ事業ヲ經營シ居ルモノニテ此ノ如キ健全ナル日本商人ニ對シテ『侵入』ナル語ヲ用フルハ頗ル失當ナリト考フト云ヒタルニ「ラ」ハ御承知ノ通り蘭印住民ノ多數ハ極メテ低級ニテ優等階級ニ屬スル蘭人ノ數ハ寧ロ遞減ノ歩ヲ辿リ居ルニ反シ從來少數ナリシ和蘭人以外ノ有識階級ノ數ハ漸次增加セントシ、アリ彼等ハ日本人アルカ故ニ覺醒ヲ早メツ、アル實情ナリト云ヘル故本使ハ實際蘭印ノ現狀カ如何ナル經路ヲ辿リツ、アルヤハ之ヲ知ラサルモ只今申述ヘシ如ク本使ノ親シク會見セル日本人ハ毛頭然ル如キ意思ヲ有セス又當地ニ在ル日本人ニ此ノ如キ意思アリトハ思ハレサルカ和蘭乃至蘭印側ニテ何等カ甚シキ疑心暗鬼的懸念ノ伏在セルカノ如キ印象ヲ得タレハコソ曩ニ貴官ト同席ニテ總督ニ對シテ若シ此ノ如キ危惧ヲ有セラル、ナラハ日本ハ其ノ無用ナルコトヲ保障スル爲出來得ル限りノ保障ヲ與フルニ客カナラスト云フコトヲ申シタル次第ナリト往電第一〇號ノ趣旨ヲ縷説シタルニ對シ「ラ」ハ然シ日本商品カ蘭印ニ氾濫的ニ侵入シ來レルハ事實ニシテ日

本商品ハ非常ニ安價ニテ又品質良ク自分ノ着用セル「シヤツ」モ日本品ナリトテ示シ此ノ日本ノ大工業ニ對シ貧弱ナル蘭印カ如何ニ對抗スヘキヤト云フコトニ付苦心シ居ル次第ナリト述ヘタルニ付本使ハ之レ唯今ノ問題ト全ク關係ナキ日本品ニ關スルコトナルモ貴官カ日本品ヲ愛用セラレ居ルヲ見テ自分トシテモ頗ル満足ナリ顧ルニ日本企業家ハ民政内閣當時世界ノ不況ト金本位維持トノ爲非常ニ脅威ヲ受ケ如何ニシテ此難關ヲ切抜ケ得ルカヲ考ヘ各製造會社モ其生産能力ヲ増進スル爲ニ凡ユル機構ヲ改メ機械ヲ改善シ徹底的ニ「ラショナリゼーション」断行ノ結果一九三一年ノ終リニ至リテ其效果現ハル、ニ至レリ現下日本品ノ進出ハ蓋シ此數年間ニ於ケル國民苦心ノ賜物ニ外ナラサルコトヲ篤ト御承知アリ度ク自分モ爪哇ニ來リ内地工業發展ノ可能性ニ就キ種々興味ヲ以テ研究セルカ先第一ニ日本ニ於テハ十立ノ「ガソリン」カ日本金僅カニ九十錢位ナルニ拘ラス然カモ石油產地タル蘭印ニテ二盾三十仙ナルコトハ如何ニモ了解ニ苦シムトコロナリト述ヘタルニ「ラ」ハ苦笑シ本問題ハ追究サレサルコトヲ望ム何分「ガソリン」ニ對スル稅金高キ故ト漏

シタルニ付本使ヨリ電力水道等カク高價ニテハ企業ノ發展容易ナラサルヘシト述ヘタルニ「ラ」ハ之ヲ首肯シタル後蘭印ノ望ム所ハ日本ニテ蘭印物產ノ購入ヲ得タキコトニテ例ヘハ砂糖ニツキ何ントカ考量ノ餘地アルモノニヤト述ヘタルヲ以テ本使ハ本問題ニハ頗ル複雜セル關係アリ殊ニ砂糖栽培縮減ノ結果米作ニ轉スル他ナカルヘク國內問題トシテ解決容易ナラスト考フ若シ爪哇ニ日本ヨリ米ヲ輸入シ得ル可能性アラハ或ハ之ト砂糖トヲ交換シ得ルカト思ハル近年爪哇ニハ幾何ノ輸入米アリヤト質問セルニ「ラ」ハ詳細ヲ知ラサルモ「ビルマ」ヨリ相當ノ米ヲ輸入シツ、アリト思考スト述ヘタリ仍テ本使ハ爪哇カ日本ヨリ米ノ輸入ヲナスコトヲ得レハ砂糖問題ハ之ヨリ或程度迄解決スル可能性アルヤモ知レス然シ之レハ自分ノ漠然タル思付キヲ述ヘタル次第ナルカ貴方ニ於テモ専門家ヲシテ考究セシメラレテハ如何ト云タルニ「ラ」ハ之ハ興味アル問題ナレハ充分研究スヘキカ先キニ述ヘシ如ク根本原則ノ妥協整ハスシテ細目ニ移ルヘキヤ否ヤニ就テハ和蘭トシテハ相當論議アリ或ハ先ツ此根本問題ノ妥結ヲ日蘭兩政府間ノ協議ニ委ネ其決定ヲ待チ更ニ會

商ヲ開クコトヲ適當トストノ意見カ「プレベール」スル

ヤモ知レスト云ヘルニ付本使ハソレハ如何様トモ御勝手

ナルカ貴方ニテ意見ヲ曲ケサル限り妥結成ラサルコトヲ

先ツ今ヨリ豫期シ得ル所ナレハ若シ蘭印側ニ於テ此口實

ノ下ニ會商ヲ中絶セラル、場合ハ我々ハ蘭印ハ好ミテ經

濟戰爭ヲ挑ムモノト思フ外ナシト述ヘ本日ノ會談ヲ打切

リタリ

別レニ臨ミ本日ノ日本提案ニ對シ何日頃回答ヲ期待シ得

ヘキヤ若シ主義上不同意ナラサレハ本日午後貴方ヨリ要

求セラルヘキ修正ヲモ再考シ明日午前ニ一般委員會ヲ開

キ委員會設置ノ決議ヲナセリ貴方ニ於テ回答ヲ十三日迄

ト制限セラレシ本意ニモ副フコト、思考シ一日早ク面會

ヲ求メタル次第ナリト述ヘタルニ「ラ」ハ貴提案ニ就テ

ハ篤ト熟議ヲ要スル次第モアリ少クトモ十六日以前ハ回

答困難ナルヘシト答ヘタリ

別電ト共ニ蘭ヘ暗送セリ

(別電一)

第五九號

一、日蘭兩代表間ニ未タ意見ノ完全ナル一致ヲ見サルハ雙方ヨリ提出セル原則ノ問題ト直ニ具体的討議ニ入ルヘキヤ否ヤノ問題ノ二點ニ存ス

〔¹雙方ノ見解ハ今日マテ取交ハサレタル書面又ハ口頭ニヨル意見ノ表明ニヨリテ既ニ明白トナレリ雙方見解ノ相違ノ解決ハ具体的提案ノ討議ニヨリテノミ解決シ得ヘク會議ノ停滯ヲ防ク爲ニ直ニ詳細且具体的討議ヲ開始スルノ要アリ

〔²雙方見解ノ相違ハ主トシテ蘭印ノ行動ノ自由カ一九一二年ノ條約ト相容ルルヤ否ヤノ解釋ノ問題ニ存ス和蘭側ノ見解ニ從ヘハ政府ノ監督ノ下ニ種々ノ利害ヲ考量調整シテ蘭印和蘭及外國ノgoods及servicesノ割當ヲ爲スハ必

要ニシテ且日蘭條約ノtendencyト全ク合致スルモノナリ

四、近ク開始セラルヘキ討議ノ基礎ハ日蘭兩代表間ニ既ニ合

意ヲ見タル左ノ四點ニ之ヲ見出シ得ヘシ

(A)蘭印及日本ハ各自ノ輸出ヲ出來ルタケ確保シ且助成セ

ンコトヲ望ム

(B)蘭印及日本ハ兩者間ニ存スル貿易ノmore rational balanceニ到達セントヲ欲ス

(C)蘭印及日本ハ兩國間ノshipping & shareヤンコトヲ望ム

△

(D)蘭印及日本ハ各他方ノ領土内ニ於ケル各自ノ企業ヲ確

保セント欲ス

五、右ノ目的ヲ達スル爲ニ左ノ各項ニ付討議セラレサルヘカラス

(1)日本ヨリノ輸出

蘭印ハ其ノ全輸入量ノ内日本品ニ割當テラルヘキ

minimum shareヲ保證スヘシ

(2)蘭印ヨリノ輸出

蘭印ハ日本カ買フヘキ蘭印產物ノ性質數量及賣買條件

ニ關シ一定ノ提案ヲ要求ス右目的ニ鑑ミ蘭印ハ(1)ニ述

ヘタル保證ハ充分之ヲ尊重シツツ蘭印ノ輸入ニ於ケル

和蘭及諸外國ノ割前ヲ衡平ノ基礎ノ上ニ定ムルノ行動ノ自由ヲ留保ス

(3)日本人輸入業者

バタヴィア 7月13日後0時10分発
本省 着

(別電一)

バタヴィア 7月13日後7時30分発

本省 着

第六〇號

(前文省略)

一、蘭側覺書ニ開陳セラレタル如ク會議ノ停滯ヲ防ク爲ニハ此ノ際問題解決ノ爲詳細且具体的討議ヲ開始スルヲ可トストノ意見ニハ日本代表部ニ於テモ全然同感ニシテ曩ニ委員會設置ニ主義上同意セル所以亦茲ニ存ス

二、乍去右覺書ニ蘭印和蘭及外國產品ノ「シエヤ」及「サーヴィス」問題ニ關スル蘭印自由措置ハ一九一二年ノ條約ニ抵触セサル所以ヲ縷々開陳セラレタルモ日本代表部ハ右ノ開陳ニ對シ遺憾ナカラ從來屢々開示セル見解ヲ毫末モ變改シ得サルヘキコトヲ茲ニ重ねテ言明セント欲ス

三、右覺書ニ和蘭代表部ハ近ク開始セラルヘキ討議ノ基礎ハ既ニ日蘭兩代表間ニ合意ヲ見タル四點中ニ發見セラルヘント述ヘラレタルモ日本代表部ノ見解ニ依レハ未タ悉ク斯カル明確ナル合意ニ達シ居ラス殊ニB記載ノ趣旨ニ關シテハ日本代表部ハ未タ嘗テ斯カル意思表示ヲ爲シタルコトナク唯他ノ事情ニシテ變ラサル限り日本カ購入可能ノ物資ノ何ナリヤノ問題ニ關スル研究ニ好意的考量ヲ加フルニ吝ナラサルコトヲ表明シタルニ遇キス又C記載ノ海運問題ニ至リテハ日本政府ハ本會商開始ニ先タチ凡ユル機會ニ於テ右問

題ヲ會商ノ範圍外ニ置クヘキ旨ヲ明確ニ主張シ來レルノミナラス六月二十七日ノ一般委員會席上重ネテ日本首席代表ヨリ特ニ右問題ニ關スル日本國ノ態度ヲ宣明シ置キタリ四、蘭側覺書ニ討議ノ議題トシテ指定セラレタル五項目ニ付テハ寧ロ從來兩代表部間ニ論議セラレ特ニ日本側ノ反對セル問題ニ屬スルモノ多ク之ヲ目標トセハ徒ニ論議ヲ繰返スニ止マルヘシ殊ニ(1)及(2)記載ノ蘭印ヨリ日本ヘノ輸出ト日本ヨリ蘭印ヘノ輸出ノ兩問題ハ本來別個ニ考量セラルヘキモノニシテ必然的ニ關聯性ヲ有スルモノニアラサルコトハ日本代表部ノ常ニ主張シ來レル所ニシテ右(2)(3)(トキニハ(3))ノ成立ノ條件トシテ取扱ハントスルカ如キ和蘭側提議事項ニハ日本代表部ハ承服シ得ス又(2)(3)及(4)記載ノ蘭側自由裁量權絶體^(骨)留保ヲ主張シナカラ他方日本側ニ對シテハ其ノ自由ノ拘束ヲ強要セントスル點ニ付テハ日本代表部ハ全然首肯シ得サルナリ若シ夫レ(5)ノ海運問題ノ討議ニハ同意シ難キコト前述ノ通ナリ

五、日本代表部ノ意嚮大体上記ノ通ナルヲ以テ蘭側從來ノ主張ノミヲ基礎トセル右覺書記載ノ委員會設置ニハ主義上反對セサルヲ得ス

六、然レトモ日蘭雙方ノ見解ハ必スシモ本質的ニ相容レサルモノノミ存在シ居ラス此ノ意味ニ於テ寧ロ此ノ際雙方ノ主張ハ各々暫ク之ヲ留保シ會商進捗ノ見地ヨリ進ンテ具体的問題ニ付討議ヲ開始シ各自ノ主張及利害ヲ一層具体的ニ明白ニシ各他方ノ立場ヲ充分解スルニ便ナラシムルト共ニ雙方ノ主張ノ接近又ハ利害ノ調整ヲ計ル目的ヲ以テ有力ナル一委員會ヲ設置シ以テ日本ヨリ蘭印ヘノ輸出ト蘭印ヨリ日本ヘノ輸出トノ各項ニ付キテ各別ニ具体的提案ノ攻究討議ニ努ムルニ於テハ本會商ノ圓滿妥結ハ頗ル容易ニ行ハルコト疑ナキヲ茲ニ強調セント欲ス

右回答覺書全文郵送セリ

(別電三)

バタヴィア 7月13日後11時発
本省 着

第六一號

一、今日迄日蘭双方ノ書面又ハ口頭ヲ以テセル意見ノ表明ハ未タ乍遺憾完全ナル一致ヲ見テ仍テ此ノ際双方ノ主張ハ各之ヲ留保シ進ンテ具体的問題ニ付討議ヲ開始シ双方ノ

- (a) 委員會ハ日蘭双方各七名ノ委員ヲ以テ組織シ必要數ノ書記官ヲ帶同シ得ルコト
- (b) 双方ノ委員間ニ各首席ヲ選定スルコト
- 右首席委員ハ各代表部ヲ代表シ議事ノ進行方法ヲ協議シ各所屬委員統制ノ責任ヲ執ルコト
- (c) 本委員會ハ其ノ權限内ニ於テ自己ノ任務ニ屬スル各問題ノ詳細ナル研究ノ爲双方首席同意ノ上何時ニテモSub-Committeeヲ設置シ得ルコト
- C、其ノ他

(a) 委員會ハ各會議ニ先チ豫メ議題ヲ協定スルコト

(b) 委員會攻研究ノ結果双方委員ノ一致ヲ見タル點及不一致ノ點ニ付相當期ニ一般委員會ニ報告スルコト
該時期ノ決定ハ委員會ニ於ケル双方首席委員會議ノ上之ヲ決定スルコト

333

昭和9年7月18日 長岡日蘭会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

海運問題の日蘭会商上程に關するオランダ

側書簡による申越しについて

バタヴィア 7月18日後1時発

本 省 着

第六六號

往電第五八號四、ニ關シ

一、蘭發貴大臣宛電報第一一五號記載ノ次第アルニ不拘昨十
七日附書翰ヲ以テ「ランネフト」ヨリ大要「過般ノ日本代
表部覺書閱了ノ結果尙數點ニ付雙方意見ノ相違アルモ若シ
討議事項ニ關シ合意ニ到達スルコトヲ得ハ右ノ相違ハ本會
商進捲ノ障礙^(壁)トナラスト認メタリ然レトモ本會商進捲ノ唯

蘭印側による陶磁器輸入制限令の発令実施について

バタヴィア 7月25日後5時発

本 省 着

334

昭和9年7月25日 長岡日蘭会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

二、依テ同日越田「ヘルデレン」ヲ往訪本問題ハ現ニ日蘭兩
國政府間直接ノ交渉問題ニ屬シ居ルヲ以テ當代表部ヨリハ
右書翰ニ對シ差當り回答セサル筈ニ付此ノ旨「ランネフト」
ヘ御傳ヘアリ度シト述ヘ置ケリ

蘭へ轉電セリ

第七三號(至急)

本二十五日總督令ヲ以テ五十六種輸入制限令ノ一部陶磁器
輸入制限ヲ發令實施シ理由ハ邦商ノ陶磁器輸入組合構成ニ
在リトセリ詳細聯合電報參照ヲ請フ

右ニ關スル公文及我方回答ハ別ニ電報ス

蘭へ轉電セリ

335 昭和9年7月26日 長岡日蘭会商代表より

広田外務大臣宛(電報)

蘭印における陶磁器輸入制限令発令実施に關する
オランダ側覚書への我が方回答について

バタヴィア 7月26日前2時発

本 省 着

第七六號

往電第七三號後段記載ノ我方回答左ノ通り

本日貴翰ヲ受取リタル余ハ非常ナル驚ヲ以テ之ヲ閱讀シタ
リ貴翰ニモ引援セラレアル如ク會商進行中新ナル何等ノ制
限令ノ發布セラレタルコトハ本會商ノ圓滿ナル進行ニ最モ
必要ニシテ日本政府ハ之ニ重點ヲ置キタレハコソ會商受諾

一ノ障礙^(壁)ハ和蘭代表部カ兩國間經濟狀態ノ調整上重要部分
ヲ構成セサルヘカラスト考フル海運問題ヲ日本政府ニ於テ
ハ本會商ノ範圍外ニ置クヘシトノ見解ヲ有セラルコト是
ナリ故ニ兩代表部ノ熱望スル具体的討議ノ開始ヲ見ル様日
本代表部ニ於テ成ルヘク速ニ海運問題解決ノ原則ヲ討議ノ
爲提起スル方法ヲ發見セラレンコトヲ希望スル」旨申越し
タリ

二、依テ同日越田「ヘルデレン」ヲ往訪本問題ハ現ニ日蘭兩
國政府間直接ノ交渉問題ニ屬シ居ルヲ以テ當代表部ヨリハ
右書翰ニ對シ差當り回答セサル筈ニ付此ノ旨「ランネフト」
ヘ御傳ヘアリ度シト述ヘ置ケリ

蘭へ轉電セリ

ノ前提條件トシテ和蘭政府ニ其ノ保證ヲ求メ其ノ回答ニ満
足シテ初メテ余ノ任命ヲ見タル所以ナリ今回發令セラレタ
ル制限令ハ其法文ヲ入手シ居ラサルニ付之ニ關スル當方ノ
意見ハ後日ニ留保スヘキカ貴翰ノ接到ト同時ニ「アネタ」
通信ハ新制限令ノ發布セラレタルコトヲ報シ日本代表團ノ
議長タル余カ貴翰中ニ送附ヲ豫告セラレタル法令ヲ未タ接
受セサルニ先チ既ニ該法令ノ摘要ヲ該通信社カ發表シ居ル
ハ余ヲシテ今迄列席セル多數國際會議ニ於テ未タ嘗テ受ケ
タルコトナキ一種ノ霧圍氣内ニ在ルコトヲ自覺スルノ已ム
ヲ得サル立場ニ在ルヲ悟ラサルヲ得サルニ至ラシメタリ
陶磁器輸入組合問題ニ關スル是迄ノ經過並ニ我專門委員會
委員會ニ於テ述ヘタル諸件ニ付テハ別添覺書ニ於テ之ヲ詳
述スルニ付此等ノ事實ヲ知ラルニ於テハ貴方ノ有スル情
報カ如何ニ正確ヲ欠クカヲ自得セラルヘシト信スルカ貴翰
ニ宣傳セラルルカ如ク右組合參加勸誘ヲ以テ新制限令發布
ノ理由否口實トセラルルコトハ當方ノ首肯シ得サル所ナリ
將又假ニ貴方ノ情報其ノ儘トシテ若シ其ノ實現カ蘭印ノ爲
ニ危險有害ナリト看做サルル場合何故ニ之カ矯正方ヲ先以
テ當方ニ申入レラレサリシヤ了解ニ苦ム所ニシテ雙方ノ協

商受諾ノ重要條件ヲ一言ノ挨拶モナク躊躇セラレタルハ獨

リ我代表團ノミナラス帝國政府トシテ默視シ得サル所ナリ

ト信ス

我々ハ日蘭兩國ノ關係ヲ圓滿ニセンカ爲ニ當地ニ來リ其折
衝中貴方ニ於テハ一面日蘭双方ノ意見一致セス會商停頓ス
ルノ虞アルニ於テハ制限令ノ發布亦已ヲ得ストノ口吻ヲ漏
ラサレ他面日本ノ承諾シ得サルコトヲ知リツ、海運問題ヲ
提起シ爲ニ會商主題ノ商議遷延スルコトナレリ是余ノ頗
ル心外ニ感スル所ナリ斯クノ如ク會商繼續中種々ノ口實ヲ
設ケ蘭印政權力抜打的ニ勝手ニ各種制限ヲ發布シ得ルトノ
立前ノ下ニ會商ヲ進メラレントノ趣旨ナルニ於テハ余ハ此
國際儀禮ハ勿論國際慣例ニ反スル態度並考案ニ付日本國ノ
名譽ノ爲ニ到底之ヲ甘受スルヲ得サルニ付此點ニ關シ明確
ナル回答アラン事ヲ要求ス

尙覺書ハ追テ送付ス

蘭ヘ轉電セリ

⁽¹⁾ 第六一號(極祕)
一、今回ノ陶磁器制限令ニ付テハ充分先方ノ反省ヲ促スノ要
アルハ勿論ナルモ其ノ内容ニ付テハ輸入總量ヲ一九三三
年度ニ採リタル點ハ之ヲ認メ差支ナク唯問題トナルハ邦
商取扱ヒ量ノ割當ナルカ元來邦人組合側ハ往電第五九號
所報ノ通り右輸入總量ヲ昨年度ノ七割ニ減シ其中五割五
分ヲ彼等ノ手ニ獲得セントスルモノ即チ一九三三年輸入
總量ノ三割八分五厘ヲ以テ満足セントスル次第ニテ貴電
第八三號ニ依ルモ今回ノ制限令ニ依ル取扱量トノ差僅少
ニテ從テ此ノ際先方カ突如右制限令ヲ發布セルハ專ラ蘭
印側ノ誤解ニ基クモノト推察セラルル處

(2) 將來再ヒ此種措置ヲ執ルコト無キ様裏ニ和蘭外相ヨリ
武富公使ニ對シ與ヘ居ル諒解(蘭發本大臣死電報第六八

三號)ヲ確認セシムルコトトシ

(口)他方先方ノ note 中ニアル如ク輸入許可總量ハ一九三
三年ニ依ルコトトシ輸入商ノ grouping ヲ出來得ル限
リ現狀ニ近カ寄ラシムルコトヲ以テ一般原則トスルニ
於テハ當方ハ先ツ陶磁器ニ付今回制限令ノ內容ヲ貴電

第四八號委員會ノ討議ノ基礎トシ之ニ適當ナル修正ヲ
加ヘタル協定ヲ作成シ速ニ之ヲ實行シ今回ノ制限令ヲ
徹^(徹ガ)スルカ又ハ右協定ヲ內容トシタル新制限令ヲ發布

セシムルコトトセハ局面打開ノ途必シモ無キニアラ
スト思考セラル

二、而シテ此ノ際會商自体ヲ軌道ニ上シ以テ其ノ圓滿ナル進
行ヲ策スルコト諸般ノ關係上望マシキ次第トモ存セラル
ルニ付

貴電第七六號貴代表申入ニ對シ「ラ」ノ回答振り如何ニ

依リテハ別ニ電報スヘキ在本邦和蘭公使ノ本大臣ニ對ス
ル談話ノ次第モ參酌シ此ノ際蘭印側ニ於テ海運問題ヲ貴
地ニ於ケル會商ヨリ「セツト・アサイド」シ之ヲ海牙ニ
於ケル話合ヒノ進展ニ委セ置クト共ニ神戸「プール」問
題ノ促進ヲ積極的ニ勧說スルノ態度ヲ取り貴地ニ於テハ

長岡日蘭會商代表宛(電報)

陶磁器輸入制限令による影響微少につき会商

本来の会談に進むべく対応方訓令

本 省 7月30日後発
バタヴィア 7月30日後着

此ノ儘貴電第六一號委員會ノ構成ニ入り會商「プロパー」

ノ會談ニ進ムコトヲ條件トシ我方ノ妥協的精神ノ發露ト
シテ前項末尾ノ討議ヲ目標トスル委員會案ヲ提示セラレ
以テ本會商ノ促進ニ資セラルル様御努力相成度シ

蘭ヘ轉電セリ

337 昭和9年7月31日 長岡日蘭會商代表より
広田外務大臣宛(電報)

陶磁器輸入制限令実施への対抗策として蘭印

向け同品の不売決行方意見具申

バタヴィア 7月31日後11時発

本 省 着

第九一號(極祕)

貴電第六一號ニ關シ

一、今次制限令ノ發布ヲ以テ專ラ蘭印側ノ誤解ニ基クモノト
御推察相成居ル所累次ノ往電ニテ全然其ノ然ラサル所以
ハ既ニ御賢察有之シ儀ト思考ス
二、新制限令カ一見我方ニ差シテ不都合ナキカノ如キ内容ノ
下ニ發布セラレタルハ之ニ依リテ我當業者ノ結束ヲ亂シ

延テハ政府牽制ノ具ニ供セントスルト同時ニ「アンダーセル」ノ爲手持品ノ不足ヲ來セル蘭商ヲシテ二ヶ月内ニ之ヲ補充セシメントノ魂膽ニ外ナラスシテ此ノ見エスキタル餌ニ喰付クハ徒ニ彼等ノ術中ニ陷ルモノト云フヘク此新制限令ノ條件カ三ヶ月以后如何ナル變更ヲ受クヘキヤハ豫測スルニ難カラス

三、當方ノ了解スル處ニ於テハ日本品輸入割當數量ノ問題モ去ルコトナカラ蘭商保護ノ爲ニスル各種組合加入ト云フカ如キ條件ノ撤廢コソ今次會商ノ最大主眼ニシテ冒頭貴電一、(口)ハ此ノ人爲的差別ヲ或程度迄承認セラレントスル御意向ナルカノ如ク見受ケラル處斯ノ如キハ帝國商業政策ノ將來ニ及ホス影響甚々重大ナルニ付今一應篤ト考究セシメラル様致度シ

四、要スルニ新制限令ハ蘭國政府カ武富公使ニ對シテ爲シタル公約ヲ理不尽ナル口實ノ下ニ破毀セルモノニテ之ニ依リテ毀損セラレタル帝國ノ名譽カ恢復セラレサル限り該令ノ内容等些細ノ點ニ瓦リ論議スヘキ限りニ非スト思考

ス若シ蘭印側ノ此ノ暴舉ヲ聊カニテモ甘受スルカ如キコトアランカ彼等ノ心理狀態ニ鑑ミ會商ノ進行ハ素ヨリ今

日迄築キ上ケタル我國ノ地歩ハ容易ニ彼等ニ蹂躪セラルヘク其ノ將來ニ及ホス影響重大ナルモノアルヘキヲ虞ル、仍テ案スルニ先決問題ハ蘭國政府ヲシテ今後如此キ新制限令ヲ會商ノ進行中決シテ發令セサルコトヲ確約セシムルト同時ニ今回ノ制限令ノ實施ヲ會商中停止セシムルニ在リ此ノ二條件ニシテ滿足ナル解決ヲ得白紙ノ原狀ニ復シテ後初メテ會商ノ繼續モ行ハルヘク問題ノ解決モ見込アルヘシト存ス而シテ前記蘭商ノ術策ノ裏ヲカク爲一日モ速ニ蘭印向陶磁器ノ不賣ヲ決行シ之ヲ輸出セサルコト目下ノ急務ニシテ當地邦商ハ此ノ苦痛ヲ忍フヘク悲壯ナル決議ヲ爲スト共ニ「ライセンス」下附期間ノ満了期日八月十日迄ハ特別ノ事情アル小商人ヲ除キ結束シテ到着ノ既注文陶磁器ヲ高率ノ倉庫料ヲ支拂フトモ之ヲ受取ルカ爲ニ新制限令ニ依ル「ライセンス」ヲ申請シ之カ爲ニ累ヲ帝國ニ及ホササランカ爲保稅倉庫ニ之ヲ拠棄スルノ決議ヲ爲セリ

右返電旁卑見申進ス

蘭ヘ轉電セリ

338 昭和9年8月2日 広田外務大臣より
長岡日蘭会商代表宛(電報)

陶磁器輸入制限令実施および海運問題などへ の対応につき訓令

別 電

八月二日発広田外務大臣より長岡日蘭会商代表宛第六五号

制限令に代る當業者協定などによる対応について

いて

本 省 8月2日後発
バタヴィア 8月2日後着

第六四號(極祕) 貴電第九一號ニ關シ

一、今次制限令ノ發布カ蘭印側ノ深キ魂膽ニ出ツルモノナルコトハ當方ニ於テモ充分之ヲ推測シ居レル處和蘭並ニ蘭印政府ニ對シテハ誤解ニ基クモノナルヘシトナシ先方ニ對シ「ラブル・レトリート」ノ途ヲ開キツツ當業者側ノ對策ト相俟チテ效果的ナルヘシト思考シ居レル次第ナリ又輸入資格ニ關シ蘭商保護ノ爲ニスル各種組合加入ト云フカ如キ人爲的條件ノ不當ニシテ之カ撤廢ノ必要ア

ル次第ハ貴代表出發前ヨリ論議シ貴代表携行ノ政府方針中ニモ其ノ趣旨ニテ記載シアル次第ニシテ往電第六一號中輸入商ノgroupingヲ出來得ル限り現狀ニ近カカラシムルニ於テハト言ヒタルハ蘭商及本邦商人ニ對シ數量割當ヲ現狀通則シハ平安當ナラシムヘシトノ意味合ヒニシテ之ヲ既得營業權尊重等可然形ニ於テ協定トナシ置クニ於テハ先方ノ勝手ニ之ヲ變更シ得サルヘク從テ貴電第九二號御懸念ノ蘭商ノ輸入獨占ハ之ヲ防キ得ヘク一方之ヲ全然自由トルニ於テハ競爭ノ結果反對ニ邦商ノ輸入獨占ニ歸スヘキヲ惧レ先方ノ同意ヲ得ルコト難カルヘシト思考ス

二、尚在本邦和蘭國公使重テ三十一日本大臣ヲ來訪前回ト略同一ノ申入レヲ爲シタルニ付本大臣ヨリモ大体同様ノ返事ヲ與ヘ置キタルカ其ノ際同公使ハ我方ニテ海運問題ニ付先方ノ所謂 informal and private ノ話合ヒニ應スルニ於テハ同公使ニ於テモ長岡代表ノ立場ヲ容易ナラシムルニ必要ナル何等 repair ノ爲ノ努力ヲナスヘキ旨ヲ言明シ居リ其間妥協ノ途存スルヤニ看取セラレタル次第アリ此ノ際貴電第七六號「ノート」ニ對シ蘭印側ノ出方如

何ニ依リテハ充分協調スルヲ得策ト存スル次第ナリ

三、海運問題ニ付往電第六一號ノ通りトシ輸入制限令問題ニ付同往電ノ趣旨ヲ更ニ明確ニスルト共ニ多少之ヲ擴充シ別電第六五號ノ通り改案シタルニ付右ニ依リ措置相成度

四、尙今後會商ノ圓滿妥結ハ我方朝野ヲ通シ強ク希望シ居ル處ニシテ決裂云々ノ如キ表面新聞紙上ヲ賑ハシ居ルモ識者ハ何レモ會商ノ前途ヲ危惧シ居ル實情ナルニ付局面打解ノ爲此ノ上トモ折角御盡力アリ度

別電ト共ニ蘭へ轉電セリ

(別電)

本省 8月2日後発
バタヴィア 8月3日前着

第六五號(極祕)

(一) 往電第六一號(イ)ノ通り

(二) 將來五十六品輸入制限實施ノ必要生シタル際ハ蘭印政府ハ一九三三年又ハ實施ノ直前年度ニ於ケル右商品ノ輸入量ヲ基礎トシテ輸入許可數量ヲ決定シ且本邦輸入業者ノ既得權ヲ尊重スル建前ニ於テ同年度ニ於ケル實情ヲ基礎

339

昭和9年8月7日 長岡日蘭会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

陶磁器問題、海運問題および五十六品種制限令などに關する越田・ランネフト会談について

バタヴィア 8月7日前4時30分発
本省 着

第九九號

貴電第六四號三、及第六五號御訓令ノ次第モ有之ニ付先方ノ意見ヲ夫レトナク聽取スル爲本六日午前十一時越田「ラ」ニ會見シタル處「ラ」ハ口ヲ緘シ多クヲ語ラサリシ由ナルカ其ノ時「ラ」ヨリ本使ト屢々會談スルコト有用ナル旨ヲ述ヘタル趣ナリシニ付同日午後六時半會談ス要領左ノ通り一、先ツ本使ヨリ本日來訪ノ目的ハ陶磁器問題ニ在リ過日貴翰接受ノ際本使ノ頗ル心外ニ感シタルコトハ右制限令發布ニ先タチ何等蘭印側ニ不満ノ點有之様見受ケタルヲ以テ七月二十四日山中「ヘルデレン」ヲ往訪ノ上若シ今日迄ノ日本商側ノ仕打乃至定款ニ付不満アラハ之ヲ協議變更シ得ヘキ旨ヲ通達シタル處「ヘ」ハ右ニ付何等格別ノ應答ヲナササリシ經緯アリシニ不拘突如翌二十五日前記貴翰ヲ接受セルニ至レルコトナリ惟フニ本件ニ付テハ貴方ニ大ナル誤解有之様思考セラル即第一ニ貴方ニテハ日本企組合ヲ設立シ强制的ニ蘭商ヲ之ニ加入セシメントシ居ルモノノ如ク考ヘ居ラル處右ハ全ク事實ニ反ス抑々本組合ハ組織ノ話持上リシ當時ヨリ蘭華商ノ加入ニ依リ始メテ成立ノ可能性アルモノト考ヘラレ居リタルモノニシテ本代表等日本出發前既ニ右ノ計畫ヲ仄聞シ居ルモ右

トセル公平妥當ナル割當量ヲ與フルコトニ付明確ナル了解ヲ取付クルコト(公正妥當ナル割當方トシテハ右實績ニ基キ例ヘハ蘭商六割日商四割ノ如ク定メ商業組合加入數ト言フカ如キ不自然ナル標準ニ依ラサルコト)
(二) 今次陶磁器制限令ニ付テハ例ヘハ專問^(問)委員會(當業者モ適宜之ニ加ヘ)ニ於テ制限令ヲ討議シ之ニ右()ノ原則ニ基キ適當ナル修正ヲ加ヘタル當業者協定ヲ作製シ(ナルヘク輸入組合等ニ依ルコト)速ニ之ヲ實行シ以テ制限令ヲ撤回スルカ又ハ「セメント」ノ場合ノ如ク右協定ヲ内容トシタル新制限令ヲ發布セシメ將來其ノ變更ニ當リテハ常ニ先ツ同様ノ當業者協定ヲ作製スルコト

リ英文案ヲ作成ノ上之ヲ蘭側ニ提出スル積ナリト聞キ及ヒシ程ナレハ前記委員會ニテ我方委員カ該定款ヲ知ラスト云ヒタルハ自分トシテ能ク了解シ得ル所ナリト述ヘタル後單ニ四月作成ノ定款トノミ云ヘハ如何ニモ正規ノ定期款既ニ確定セルカ如キ感ヲ與フルモ前述ノ通り右定期款ハ蘭華商ノ加入承諾ヲ前提トスルモノナレハ右實現前定期款ハ確定セサル次第ナリト答ヘタルニ「ラ」ハ實ハ右ノ定期款ヲ盾ニ實際蘭商ハ一種ノ脅迫ヲ受ケタリト述ヘシニ付本使ハ右ハ多分「ボルスマ」ノ事ヲ指示セラルモノナランカ彼ハ賣崩ヲ敢行セル故日本側ヨリ之ヲ指摘セル迄ナリト言ヲ返セルニ「ラ」ハ日本側ニテモ廉賣シ居レリト云ヘルヲ以テ本使ハ昨年ナライサ知ラス本年四月以降日本人中ニハ斷シテ如斯コトナシト答ヘタル後何レニセヨ本件ノ爲會商ハ行詰リトナリ居ル現狀ナレハ何トカ現實ニ即スル方法ニテ打開策ヲ講スル必要アリト思フ例ヘハ貴方ニ於テ前記定期款ニ對シ不満アラハ之ヲ適宜修正スルコト、シテハ如何

尤モ此ノ場合妥協成立ニ至ル迄今次新制限令ノ效力ヲ一時停止セシムルコト必要ナリ更ニ貴方ハ組合カ蘭印主權

初當ニ右新令ヲ討議スルコト、シテハ如何ト試問セルニ 對シ

二、「ラ」ハ海運問題ヲ本會商ノ議題トスルコトニ確定セサル限り委員會ノ開催ハ不可能ナリ又假令海運問題ヲモ會商ノ議題トスルコトニナリ委員會カ開催セラレタル場合ニモ最初ニ陶磁器問題ヲ討議スルコトニハ不同意ナリ抑々今次ノ制限令ハ五十六品種問題トハ全ク異リ現狀ヲ維持スル丈ノ建前ニテ短期間之ヲ實施セルモノナレハ委員會ニ於テ討議セラルヘキ性質ノモノトハ別問題ナリト強調セルヲ以テ本使ハ海運問題ニ付テハ御承知ノ通り海牙東京間ニ既ニ交渉ヲ重ネツ、アルカ七月三十一日「バ」公使カ廣田大臣ニ對シ述ヘシ所ニ依レハ海運問題ニ關シ日本側カ好意的態度ヲ示サル、ニ於テハ陶磁器ニ付必要ナル「レペア」ノ爲ノ努力ヲナスヘシト言明セル趣ナリト述ヘタルニ「ラ」ハ大ニ激昂セル様子ニテ我々ノ考ハ極メテ率直ニテ如此懸引ヲ爲スノ意臺末モ無シトサヘギリタルニ付本使ハ今申述ヘシ所ハ「バ」公使ノ陳述ヲ取次キタル迄ニテ決シテ日本側ノ言分ニハ非スト注意セルニ對シ「ラ」ハ如斯情報ハ何レヨリモ接受シ居ラスト注意セルニ

セリ

貴電第六六號ニ鑑ミ本使ハ日本トシテハ一体海運問題ニ關シ何ヲ蘭印側カ希望セラレ居ルヤ暗中模索ノ狀態ナリト云ヘルニ「ラ」ハ右要綱ハ夙ニ作成シアリ蘭印ノ欲スル所ハ日蘭印間往復航ニ關シ相互ニ比率ヲ決定セントスルニ在リト答ヘタルニ付本使ハ右ノ比率決定ヲ國旗ニ依ラシメントスルナラハ到底日本ノ同意ヲ得ラレサルヘキカ例ヘハ國旗ノ代リニ會社名ヲ列舉スル方法ナラハ或ハ何等折合付クカトモ思ハルルカ何レニセヨ貴方ノ考ヘ居ラルル大綱ヲ當方ニ提示セラレテハ如何本使ハ之ヲ日本政府ニ取次クヘシ但シ右大綱ノ採否即チ議題トスルコトノ諾否ノ自由ハ全然日本政府ニ在リトノ前提ノ下ナルコトヲ要スト述ヘタル處「ラ」ハ極メテ満足ノ体ニテ是即チ會商ノ進捗ニ一步ヲ進メタル譯ナリト頻リニ喜ヒ居ル故本使ハ爲念繰返スカ前記提示ヲ得タレハトテ果シテ海運問題ヲ會商ノ議題トスルヤ否ヤハ全ク日本政府ノ決定ニ依ルヘキコトヲ誤解ナキ様致シタシト述ヘ「ラ」モ能ク了解セリ

三、次ニ「ラ」ハ蘭印側ノ調查ニ依レハ會商開始以來日本商

品中異常ニ多量輸入セラレタルモノアリ其ノ表ハ明日ニテモ御送付スヘキカト云ヘルニ付本使ハ右ハ又新制限令ヲ發布スル前提ナリヤト反問セルニ「ラ」ハ右ハ豫断シ難キモ自分限りニ於テハ如斯キ事アルヘシトモ思ハサルカ何レニセヨ今後ハ發布前貴方ニ豫告スルコト、スヘント述ヘタルニ付本使ハ蘭發貴大臣宛電報第一二三號及第二四號ヲ示シ其ノ不當ヲ指摘シタルニ「ラ」ハ後電ノ方ハ承知シ居ラスト言ヒ之ヲ筆記シタル後右電報ノ雙方ニアルカ如ク *resultats des pourparlers* トアル故會商長引クニ於テハ *resultats* ナキモノナリト云ヘルニ付本使ハ大ニ然ラス *resultats* トハ會商不調ニ終ル場合ヲ想像セルモノニテ例へハ會商カ非常ニ長ク續キ貴方ニテ最早會商安結ノ見込ナシト思惟シ之ヲ打切ル意思表示ヲナルコトアラハ其時初メテ *resultats* ナシト斷言シ得ヘキモ苟モ會商ヲ常規ニ依リ繼續中ハ如何ニ其ノ期間長クトモ貴官ノ解釋ニハ同意スルコト不可能ナリト力説セルニ「ラ」ハ苦笑シタル後夫ハ免モ角五十六種制限令ハ全ク別問題ニテ若シ會商中更ニ何等發令ヲナスコトアリトスルモ之ハ現狀維持ヲ目標トスル臨機ノ處置ニ過キサ

上議セスト決セラレタルトキハ會商ハ打切ラルヘシト答ヘタリ

(イ)會商中更ニ五十六種新制限令ヲ發布スル豫告トシテ曰
本品ノ輸入表ヲ當方ニ送付セラル儀ナリヤトノ問ニ
對シ「ラ」ハ前述ノ如ク今左様ニ確定セル譯ニハ非サ
ルモ如何ニモ日本品ノ輸入數量多キニ上リ居ルニ付該
表一覽ノ上今後ノ輸出調節方ニ付日本政府ニ貴方ヨリ
注意セラレ效果アラハ自然新令發布ノ必要ナキニ至ル
ヘシト答ヘタリ
蘭ヘ轉電セリ

340

昭和9年8月9日 広田外務大臣より
長岡日蘭会商代表宛(電報)

海運問題の非公式審議受入れの我が方讓歩に

鑑み陶磁器問題の妥結懇意方訓令

本省 8月9日後発

バタヴィア 8月9日後着

本大臣發在蘭公使宛電報
第七〇號

ルモノナリト繰返シタルヲ以テ本使ハ現狀維持ト云ハルモ陶磁器ニ付テ見ルモ比率ニ關シテハ決シテ現狀維持ニ非スト述ヘ其ノ系數ヲ指摘セル後各種商業會議所加入者ト云フカ如キ人爲的差別ヲ今次新令中ニモ設ケアル處如斯差別ハ到底日本側ノ受諾シ得サル所ニシテ簡單ニ日蘭間ノ比率ヲ決定スル方式ヲ取ルニ非サレハ妥協性ナカルヘシト述ヘタルニ「ラ」ハ自分モ右ノ差別的主義ヲ好マス自分トンテハ貴見ノ如キ比率式ニ改ムルヲ可ト認ムルモ他同僚ノ意見ハ未タ之ヲ知ラサルニ付右ヲ確定意見トシテ申上クル譯ニハ行カスト附言セリ

四、終リニ臨ミ本使ハ自分ノ記憶ヲ正確ニスル爲ト前提シ左ノ應答ヲ爲セリ

(イ)如何ナル「コンビネーション」ニ依ルモ陶磁器制限令ノ廢止又ハ停止ハ不可能ナリヤトノ本使ノ質問ニ對シ「ラ」ハ自分限リニ於テハ不可能ナリト答フルノ外ナキカ和蘭及蘭印政府ハ別ノ意見ヲ有スルコト有リ得ヘシト答ヘタリ

(ロ)海運問題ノ上議決定以前ニハ如何ナル委員會モ之ヲ開カサル決意ナリヤトノ問ニ對シ「ラ」ハ然リ本問題ヲ

第一〇九號

代表宛往電第六九號ニ關シ

一、「バタビア」ニ於ケル會商ヲ正軌ニ戻ス爲我方ハ難キヲ忍ヒ海運問題ニ付一應先方案檢討ノ上「バタビア」ニテ非公式審議ト迄讓歩シタルハ之ヲ以テ陶磁器問題ニ關スル當方ノ面目ヲ立テ局面ヲ打開セシムルカ爲ニ外ナラサル次第ハ累次電報ノ通ナルトコロ最近蘭印側ニ於テ當方ノ苦心ヲ諒トセス何處迄モ無理押シヲ爲サント試ミツツアルカ如ク見受ケラルハ(代表來電第九九號參照)理解ニ苦シムトコロニシテスクノ如キ態度ハ到底我方ノ容れ能ハサル所ナルノミナラス又決シテ會商ヲ成功ニ導ク所^(金)以ニモ非ルヲ以テ此ノ點ハ篤ト先方ニ徹底セシメ置クヲ要スル次第ナリ

二、殊ニ我方トシテハムケニ今次制限令ノ撤回又ハ停止ヲ獎^(金)懲シ居ルモノニ非スシテ

(イ)長岡代表宛電報第六五號(二)ノ通先方得心ノ行ク方法ヲ考ヘ居ルノミナラス

(ロ)六日通商局長「パブスト」會談ノ際ニモ同局長ヨリ先方カ先ツ制限令ヲ停止スルニ於テハ日本トシテハ然ル

ヘキ方法ニ依リ輸出ヲ統制シ其ノ間至急兩國當業者間ニ取扱割合ノ協定ヲ行ハシメ雙方合意ヲ基トシ制限ヲ行フトセハ結局蘭印ノ要望スル「ステータス、クオ」ノ維持ヲ現出セシメ得ル次第ナルヘキヲ述ヘ制限令ノ停止ヲ勧説シタルトコロ

⁽²⁾ 七日同局長トノ會談ニ於テ「パ」ハ右案ハ本國政府ニ申送ルヘキモ蘭印側ノ行ハントスル制限ヲ外國政府ノ手ニ委カスル點ニ付受諾困難ナルヘシト述ヘタルニ付

局長ヨリ當方トシテモ先方限リノ制限令カ後ニ至リ先方ノ勝手ニ變更セラル惧レアル點ヲ懸念シ居ル次第ニ付前記當方ノ輸出統制ヲ雙方申合セニ基キ行フコトトセハ一方ノ意見ノミニテ變更シ得サルコトナリ得ルニアラスヤト述ヘ置キタル由ニテ要スルニ當方トシテハ右様先方ニ於テ實質上何等失フ所ナク而モ當方ノ面日ヲ立テ得ル如キ案ヲ考フル次第ニシテ右我方ノ誠意ノ存スル處ハ先方ノ充分之ヲ諒察スヘキ處タリ本大臣カ八日「パ」公使ニ對シ帝國政府ノ意向トシテ本制限令ノ撤回又ハ停止ヲ重ネテ強ク要請シ置キタルハ實ニ以上ノ理由ニ基クモノニ外ナラス

七日同局長トノ會談ニ於テ「パ」ハ右案ハ本國政府ニ申送ルヘキモ蘭印側ノ行ハントスル制限ヲ外國政府ノ手ニ委カスル點ニ付受諾困難ナルヘシト述ヘタルニ付

局長ヨリ當方トシテモ先方限リノ制限令カ後ニ至リ先方ノ勝手ニ變更セラル惧レアル點ヲ懸念シ居ル次第ニ付前記當方ノ輸出統制ヲ雙方申合セニ基キ行フコトトセハ一方ノ意見ノミニテ變更シ得サルコトナリ得ルニアラスヤト述ヘ置キタル由ニテ要スルニ當方トシテハ右様先方ニ於テ實質上何等失フ所ナク而モ當方ノ面日ヲ立テ得ル如キ案ヲ考フル次第ニシテ右我方ノ誠意ノ存スル處ハ先方ノ充分之ヲ諒察スヘキ處タリ本大臣カ八日「パ」公使ニ對シ帝國政府ノ意向トシテ本制限令ノ撤回又ハ停止ヲ重ネテ強ク要請シ置キタルハ實ニ以上ノ理由ニ基クモノニ外ナラス

代表ヘ轉電セリ

三、就テハ貴官ハ至急外務大臣ニ面會ノ上前記我方ノ誠意ノアル處ヲ詳述シ海運問題ニ關シ我方ノ取りタル態度ニ鑑ミ陶磁器問題ヲ前顯(1)又ハ(2)ニ依リ速急解決方強ク慾懃セラレ結果何分ノ儀御回電アリ度

341 昭和9年8月10日 広田外務大臣より
長岡日蘭会商代表宛(電報)

陶磁器輸入組合の解散を条件とする同輸入制限令の停止につきオランダ公使より通報について

本 省 8月10日後発
バタヴィア 8月10日後着

第七三號

十日和蘭公使本國政府ノ訓令ニ依リ來訪蘭印側ハ本邦側ノ爪哇陶磁器ノ輸入組合解散ヲ條件トシ陶磁器制限令ヲ停止スヘキ旨申出アリタルニ付同組合解散方至急御手配アリ度蘭ヘ轉電セリ

342

昭和9年8月14日 長岡日蘭会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

未晒綿布の輸出統制方オランダ側より申入れ
について

バタヴィア 8月14日後8時発

本 省 着

右申合せ

本 省 8月21日後発

バタヴィア 8月21日後着

往電第一〇一號及一〇二號ニ關シ
第八三號

今十四日蘭代表來訪越田會見セルトコロ未晒綿布輸入激増ノ實情ヲ仔細ニ説明ノ上是非日本政府ニ於テ之カ輸出ヲ統制シ蘭印ノ「キヤ」制限ノ效果ヲ擧クルコトニ協力アリ度

キ旨申出テ特ニ右往電第一〇一號ニ記載セル所謂黃灰色ノモノハ正シク胡麻化セル晒綿布ナルヲ以テ本品ノ輸入増加繼續スルニ於テハ之ニ對シ「キヤ」制限令ヲ適用セサルヲ得サルヤモ知レスト述ヘタル趣ナルカ何レニシテモシャーテングス(蘭印統計番號一五二五乃至一五三〇)ノ輸出ニ對シ即時統制實行方御配慮ヲ乞フ

蘭、スラバヤへ暗送セリ

343

昭和9年8月21日 長岡日蘭会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

未晒綿布の積出し中止に關する輸出綿糸布同業会などによる申合せについて

別 電 八月二十一日発広田外務大臣より長岡日蘭会

商代表宛第八四号

往電第八二號ニ關シ
第八三號

一、二十日輸出綿糸布同業會大阪、神戸、名古屋、横濱、東京各地綿製品輸出組合紡績聯合會及綿工聯合會代表者ト關係省トノ間ニ協議會開催別電第八四號ノ通り申合セタリ然ルニ右申合セ一、ニ付テハ當方トシテハ往電第七七號括弧内通り措置スヘキモ右ニテモ多少直接馳拔ケヲ行フモノアルヘキト共ニ他港經由輸出セラルモノハ取締リ得サルニ付蘭印側ニ於テ今後本邦品輸入狀況通知方適宜協力スル様御申入レ相成度尙申合セ三、ニ付テハ關係

當業者ヨリ夫夫在本邦蘭商華商ヲシテ本申合セヲ遵守セ

シムル様說得ニ努ムルコトトナリ居レリ

二、次ニ貴電第一一八號御來示ノ通り蘭印側カ本年ノ輸入總

量ヲ原則トシテ三十三年ノ總量ニ止メ度キ希望ヲ有スル

ニ於テハ折角積ミ止メヲ決行シテ蘭印側ノ求メニ應ツル

トシテモ

現在ノ各品輸入狀況ヲ以テスレハ既ニ右限度ヲ超過セン

トシ居ルヲ以テ本年内ノ輸出不可能トナリ折角輸出組合ヲ組織シテ統制ヲ行フトシテモ其ノ對照ナキコトトナル

次第ノ處元來三巾金巾等ハ先方晒綿布制限價格騰貴ノ爲ニ其ノ代用品トシテノ實需增加ニ伴ヒ多量ノ輸出ヲ見タ

ル次第ニテ從テ今俄カニ之ヲ一九三三年ノ數量ニ留メタリトスルモ價格ノ關係ニテ夫レ丈ケ直ニ「キヤ」ノ需要ヲ增加スヘシトモ思考セラレス旁蘭印側ニ於テモ右我方誠意ニ鑑ミ此ノ際貴代表御携行ノ訓令ニ基キ現行晒制限令ニ關スル交渉何等妥結ヲ見ル迄其ノ代用品ニ對シテハ

前記當方統制實行期タル九月以降毎月輸入量ヲ昨年一ヶ年輸入總量ノ十二分ノ一宛許可スル様(右數量ニ關シテハ蘭印ニ對案アラハ之ニ應スル用意アリ)蘭印側ノ承諾

(別電)

本省 8月21日後發

バタヴィア 8月21日後發

第八四號

一、日蘭會商ノ圓滑ナル進捗ニ資センカ爲目下設立手續中ノ日本綿織物對蘭印輸出組合ノ統制實施ニ至ル迄蘭印向輸出ノ目的ヲ以テスル未晒金巾ノ受渡シ及積出ヲ絕對ニ中止スルコト

二、前記ノ徹底ヲ期スル爲稅關ニ於ケル取扱ヒ其他政府ノ充分ナル援助並ニ船會社ノ協力ヲ依頼スルコト

三、各參加團體ハ所屬會員又ハ組合員ニ對シ右申合セノ實施ヲ徹底セシムル爲夫々必要ナル措置ヲ採ルコト

344 昭和9年8月24日 長岡日蘭會商代表より

広田外務大臣宛(電報)

オランダ側代表よりサロン輸出停止問題など

の審議要請について

バタヴィア 8月24日後7時30分発

第一二九號

本省 着

カ自分トシテハ事態斯クナリシ上ハ停止ノ方針ニテ進ム
覺悟ナリト語レリ

二、次テ「ラ」ハ次回ノ會見ニ於テ懇談スヘキ種々ノ問題中ニハ「サロン」積出停止ノ重要問題モアリト述ヘタルニ付本使ハ本件ノ解決ハ至極簡單ナリ數量ニ關シテハ會商ニ讓ルコト、シ本邦商人ヲ刺戟セル要因ハ制限令カ輸入資格ヲ「サロン」輸入ヲ爲セル日本商人極メテ少ナカリシ一九三〇年ニ求メタルニアルモノナレハ右資格ヲ一九三三年ノ事態ニ引セハ積止モ自然解消スヘシト思ハル

ト答ヘタル處「ラ」ハ有益ナル暗示ヲ得タリトテニ付考慮セントスルカ如キ態度ヲ示セリ
三、尚「ラ」ハ海運問題ニ付飽迄之ヲ政府間交渉トシ度キ旨ヲ繰返セル後次回會見ニハ新任經濟長官「ハルト」ヲ同席セシメ度ク尙自分ノ總督代理中(總督ハ九月中旬ヨリ約一ヶ月餘ニ亘リ蘭印東部諸島巡視ノ豫定ニ付右期間中「ラ」ハ代理トナル)ハ「ハルト」首席タルヘシト述ヘタルニ付本使ハ右ニ異存ナキモ貴下代理中ハ專ラ委員會ヲシテ諸件ヲ討議セシメ代理終了後再ヒ兩人懇談ノ上會議議ヲ纏ムルコト、セハ實際的ナルヘシト云ヘルニ「ラ」ハ

ニ付本使ハ一般訓令トハ何ヲ意味スルニヤト問ヘルニ「ラ」ハ夫ハ各種ノ問題ヲ含ミ居レリトノミ語リタルヲ以テ本使ハ陶磁器問題モ含マレ居ルヤト聞キタルニ「ラ」ハ然リ當地ノ話合ト行違ニ「パ」公使ヨリ廣田外相ニ申出ノ次第アリ同公使カと蘭ノ代表者トシテ日本外相ニ申出テタル事ハ如何ニシテモ之ヲ取消スヲ得サルニ付此ノ問題ハ自分側ヨリスレハ頗ル「デリケート」ノ問題ナル

ヲ取付ケラレ度

別電ト共ニ蘭へ轉電セリ

之ヲ首肯セル故本使ハ幸ニ次回ノ會見ニ於テ話継マラハ

委員會ニ與フル「ディレクティーヴ」ヲ作成シ一日モ早

ク委員會ヲ開催シ度シ語レル處「ラ」ハ斯ク満足ナル

談合ニナリ得ルヤ頗ル疑問ニテ自分ハシカク樂觀シ居ラ

スト答ヘタリ前記一、記載ノ一般訓令ニ關シ「ラ」ハ其

ノ項目ニ付何等語ルヲ欲セス本使ノ問ニ對シテモ單ニ諸

種ノ問題ヲ包含シ居レル旨ヲ答フルノミニテ一向煮切ラ

サルノミナラス自分ノ權限ニ付テモ亦聞合セ居レリト附

言セルニ鑑ミ全然憶測ニ過キサルカ或ハ會商地其他ニ關

シ蘭本國政府ト何カ照復ヲ重ネ居ルニハ非サルカトモ推

察セラル

蘭ヘ轉電セリ

345 昭和9年8月28日 長岡日蘭会商代表より
廣田外務大臣宛(電報)

陶磁器輸入制限令停止、海運問題および新制
限令問題などに関するオランダ側覚書に基づく会談について

別電 八月二十八日発長岡日蘭会商代表より廣田外

務大臣宛第一三一號

右オランダ側覺書概要

バタヴィア 8月28日後11時40分発

本省 着

第一三〇號

往電第一二九號ニ關シ

本二十八日午前十一時會場ニ於テ本使三時間餘ニ亘リ「ラ」ト會談ス(越田「ハルト」同席)要領左ノ通り

一、「ラ」ハ別電第一三一號覺書ヲ示シ右ハ本國政府ノ訓令ニ基キ作成セルモノナリト前置シ之ヲ讀上ケル傍ラ註釋

ヲ附加セリ右終ルヲ待チ

二、(陶磁器問題) 本使ヨリ貴方ハ制限令停止ニ關シ當方ヨリ爪哇陶磁器輸入組合ノ解散セルコトノ書面通告ヲ要求シ居ラル處右解散ハ既ニ八月十二日決議サレ居ルニ付

之ヲ新聞ニ掲載セシメ雙方獨自ノ体容トナシテハ如何ト試問セルニ「ラ」ハ停止令ヲ出ス動機カ問題ノ輸入組合ノ解散ヲ前提トスル事故書面ニ依ル公式ノ通知ヲ得度ク其ノ書面ヲ受クレハ即日停止令ヲ發布スヘシ尤モ本令ハ豫メ國民參議會ニ上提スルノ必要アルヲ以テ當方ノ準備

整ヒ次第貴方ニ電話スヘキニ付其ノ日附ニテ書面ヲ發送セラルレハ好都合ナリト云ヘリ仍テ本使ハ先般來屢々述ヘタルカ如ク輸入組合ニ關スル貴方觀測ニ大ナル誤解アリ故ニ當方ヨリノ書面中ニ右誤解ノ生シタルヲ遺憾トシスノ如ク問題トナレル機關ハ一應解散ニ決定セルカ曰蘭華商ヲ網羅シ蘭印官憲ノ承認ヲ受ケル輸入組合ノ成立ハ本件ノミナラス各種商品ニ付テモ其ノ必要ヲ認ムル旨ヲ記載スルコトトシ度シト述ヘタルニ「ラ」ハ異存ナシト答ヘタリ

三、(海運問題) 「ラ」ハ過日提示セル海運討議案(往電第一〇五號)ハ當時暫定的ノモノナリト云ヘルカ該案ヲ正式案トシテ會商ノ議題トシ差支ナキ旨本國政府ノ訓令ニ接シタリト告ケ且ツ廣田外相ハ「パ」公使ニ對シ該案諸項目ノ討議ニ主義上異存ナシト云ハレタリト述ヘタルニ付本使ハ當方ニハ此ノ如キ情報ナキノミナラス同外相カスノ如キコトヲ「パ」公使ニ云ヘリトハ考ヘラレスト突放シタル後貴電第八五號ノ趣旨ヲ説明シスクスレハ同一ノ結果ヲ得ルニ非スヤト云ヘルニ「ラ」ハ蘭國ノ要求スル所ハ代表部員間ニ協議ヲ爲シ之ヲ船會社ニ承認セシム

ルニ在リ故ニ代表部員間ニ協議セシムル案ニ非サレハ承諾スル能ハスト答ヘタルニ付本使ハ重テ斯ノ如キハ形式論ニ過キス一体海運現状ニ關シ何等不滿アリヤト問ヘル處「ハルト」ハ決シテ左様ノコトナシト云ヘルニ付本使ハ然ラハ船會社ヲシテ現狀維持ヲ約セシメ政府之ヲ確認スルコト、セハ問題簡單ナラスヤト云ヘルニ「ハ」ハ右ニテ差支ナキカ其ノ協議ハ先ツ代表部員間ニ行ヒ度シト執拗ニ主張シ更ニ論議ヲ重ネタル末「ハ」ハ先ツ委員間ニ協議ヲ纏メ其ノ結果ヲ船會社ニ示シ其ノ同意ヲ得タル上之ヲ船會社間ノ協定トシテ成立セシメ之ヲ兩代表カ確認スルノ形式トスルモ差支ナシト云ヒ和蘭側モ此處迄歩寄リタルニ付何トカ考慮セラレ度シト云ヘルヲ以テ本使ハ日本政府ノ立場ヲ繰返シタル後左程迄代表部員ノ介在ヲ必要トセラルニ於テハ例ヘハ雙方ヨリ「オブザーバー」ヲ出スコトトシテハ如何尤モ是レハ本使限リノ思付ニテ日本政府承認スルヤ否ヤハ別問題ナリト述ヘタルニ「ラ」ハ當業者ノ會議參加ハ異存ナキモ飽迄代表部員間ノ會議開催ヲ固執セルニ付本使ハ然ラハ貴方ハ正式委員ヲ任命シ當方ハ「オブザーバー」ヲ出スコトトシテハ如何ト云

ヘルカ先方ハ飽迄代表部委員間ノ協議ヲ執拗ニ繰返シ居タルヲ以テ本件ハ一先ツ此邊ニテ打切りタリ

(豫メノ打合ニ依リ此ノ時ヨリ「ヘルデレン」參列ス)

四(新制限令問題) 本使ヨリ貴方覺書第二記載ノ趣旨ハ十月一日以後總テ自由ノ立場ニ歸リ思フ存分ノ法令ヲ出スヘシトノ意ナリヤト問ヘルニ「ラ」ハ然リ會商意外ニ長引キ又「ボイコット」ノ脅威ヲ受ケ到底堪ヘサルニ付曩ニ和蘭政府ノ爲セル差當リノ約束ハ十月一日ヲ以テ終了スルコトト承知アリ度シトノ意ナリト答ヘタルニ付本使ハ右約束ハモトヽ和蘭政府ヨリ武富公使ニ對シ爲サレタルモノナレハ本問題ハ當然同一經路ニ依リテ取扱ハルヘキモノニテ本使ノ干與スル所ニ非ス私見ニ依レハ貴方申出ハ如何ニモ「ブリュタール」ナリ十月一日以後ハ如何ナル措置ヲモ自由ニ之ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ豫メ通告シ乍ラ會商ヲ繼續スルコトハ一種ノ脅迫ヲ日本ニ加ヘツヽ會商セントスルニ異ナラススクノ如キハ日本トシテ到底甘受スル能ハスト應酬セルニ「ラ」ハ右「ブリュタール」ナル語ノ取消ヲ要求セルニ付本使ハ貴下ハ前記新制限措置ノ豫告ヲ爲スハ好意ナリトノコトナルカ假令幸今ヨリ

移牒スルコトヽナルヘシト云ヒ居タリ

五(「サロン」賣止問題) 本使ヨリ日本當業者ノ「サロン」賣止原因ハ「サロン」制限令カ輸入業者ノ比率基準ヲ一九三〇年トシタル結果日本商人ハ一九三三年ニ享有セル輸入權ヲ殆ト全部剝奪セラレタル爲之ニ對スル抗議ノ趣旨ナリト考フルトコロ本ヲ刈ラスシテ枝ヲ刈レト云フハ本末顛倒モ甚タント強調セル處「ヘルデレン」ハ其ノ根本問題ハ委員會ニテマツサキニ「サロン」問題ヲ上程シ之ヲ協議解決スヘキニ付何等協議成立ニ至ル迄不賣ヲ解除セラル様致度シト云ヘルニ付本使ハ右協議成立ニ至ル迄ノ短期間例ヘハ二週間にニ蘭商カ如何許カリノ「ストック」ヲ買付輸入スヘキヤ考ヘラ度シトテ種々説述シタル後要ハ根本原因カ制限令ナル惡法ニ在ルヲ以テ便法トシテ會商妥結ニ到ル迄一時的ニ比率ヲ¹⁹³³基礎トシ妥協ノ精神ヲ示サル、ニ非サレハ到底賣止解除ヲ「リコメンド」スルコト困難ナリ元來本問題ハ制限令發布直後ニ決行セラレタルニ不拘然カモ會商後三ヶ月ノ今日之ヲ斯ク迄「インシスト」セラルハ如何ナル意ナリヤ解スル能ハスト突込ミタルニ「ハルト」ハ最初之ヲ輕視シ居

委員會ヲ開クトシテ十月一日頃ハ最モ諸問題ノ難關ニ逢着スルノ時期ナルヤニ思考セラルル處然カモ其ノ時期ヲ選ンテ五十六種制限令ノ發布ヲ振リカササントサレ居ルニ拘ラス此ノ如キ通告ヲ以テ好意的ナリトシテ受諾スル理由毛頭ナシ若シ會商遷延ヲ不便トセラルル考ナルニ於テハ何故ニ九月末日ヲ以テ會商ヲ終了シ度シト寧口率キコトヲ今ヨリ協定シ置クモ差支ナシト陳ヘタル處「ラ」直ニ云ハレサルヤ當方トシテモ成ルヘク速ニ會商ヲ終リ度キ希望ニテ貴方ノ同意アラハ九月末日閉會式ヲ舉クヘハ右ハ到底云フヘクシテ行ヒ難キ表情ヲ示セルニ付本使ハ貴下總督代理中ハ主トシテ委員會ノ討議タルヘク代理終了期タル十月十七日以後ニ非ンハ最後ノ決定ハ覺束ナシト考ヘラルカ如キ情勢ノ下ニ前述ノ通り十月一日以降蘭印政府カ自由措置ヲ留保スルカ如キハ到底當方ノ承諾スル能ハサル所ナリ況ヤ右ノ豫告ヲ好意トシテ取扱フコト絶対不可能ナリト強く反對スルト同時ニ本件ハ代表部ノ干渉事項ニ非サルニ付東京海牙間ノ問題トスル様我外務省ニ稟申スヘシト繰返セルニ「ラ」ハ日本政府ヨリ貴見ニ基キ海牙ニ交渉スルモ結局蘭國政府ハ當方ニ之ヲ

(別電)

バタヴィア 8月28日後10時発

(福鎧)日本側に於ト爪哇國船籍登入規則ヲ解散ヤハスニ
於トハ和蘭政府ハ其好意的意願ヲハシベテ國船籍登入制限
令ヲ廢止ベシロヘリ決ヤ(大臣)

〔海運問題〕

In first place I wish to reiterate statement made several times by Netherlands Government both here and elsewhere namely that a regulation of the commercial relations between both countries will not be acceptable, unless shipping problem is settled simultaneously.

On 9th instant Netherlands Delegation submitted provisional draft-agenda for discussions on this matter.

My Government have concluded from interview of their Minister in Tokyo with Japanese Minister for Foreign Affairs that Japanese Government in general have no objection to hold pourparlers within scope of the Conference on this subject at Batavia.

My Government consider it necessary that these pourparlers shall take place along lines of four points

term firstly because at moment of giving their consent to this postponement my Government expected a duration of the Conference of three months at utmost so that they feel justified in considering period of four months as maximum and secondly because there is no doubt that in course of next month it will be possible to come to results with regard to main points of Conference.

After October 1st Netherlands Government reserve to themselves right to take all measures which they deem necessary in order to protect economic conditions of Netherlands Indies.

After our previous correspondence it may be superfluous to observe that these measures would be of different nature from those to be taken in case status quo should be threatened; as Your Excellency is already aware my Government must reserve their liberty to take measures of this latter description under all circumstances.

In order to avoid possible future misunderstanding I may premise that Netherlands cannot enter into commercial treaty which does not provide agreement on these four points.

For sake of favourable progress of Conference I propose to Your Excellency that we fix an ultimate date on which concrete discussions between members of our Delegations will commence along lines of this agenda. Netherlands Delegation are of opinion that this date should be fixed at latest after ten days but they are also prepared to commence at an earlier date.

〔通商問題〕

In second place I desire to communicate to Your Excellency that my Government have instructed me to inform you that their promise to postpone putting into effect of measures for protection of economic conditions in this country can only be considered binding until October first next. In their opinion this is a reasonable

〔通商問題〕

Finally I may reiterate that Netherlands Government will consider sustenance of boycott actions including all clear manifestation of disinclination to supply and to ship goods to Netherlands importers and to fulfil contracts already concluded (except such provisions as may tend to maintain status quo) as incompatible with a continuation of Conference.

總 括 本件船籍登入規則ヲ解散ヤハスニ
發佈ニ致シ御誓セシム。

~~~~~

346 留保の事の件 佐田外務大臣より  
此題口蘭帝國代表宛(電報)

海運問題の監督ニ付託され候外務省より  
トモ根田總理事並御印を承認申候

長 細 事務官佐田後輔  
タカハシトモ 事務官佐田後輔

## 往電第九四號ニ關シ

貴電第一三〇號三海運問題ニ關シ

先ツ「ラ」カ本大臣ハ「パ」公使ニ對シ該案諸項目ノ討議ニ主義上異存ナシト云ヒタリト述ヘタルハ「ラ」ノ誤解ニシテ八月八日本件ニ關スル「パ」公使ト最後ノ會談ニ於テ本大臣ヨリ「何レニセヨ海運問題ノ如キモノニ付公使ニ政府間ノ申合セヲナスコトハ他國トノ振合ヒニ於テ國際的ニ先例ヲ作ルコトトナリ日本ノミナラス和蘭ノ立場ヲモ困難ナラシムル惧レアリ日本政府トシテハ船舶業者ノ話合ヒヲ中心トシテ考フルヲ可トスルトノ方針ナリ」ト明白ニ説示シ置キタル次第ナレハ此ノ點先方ノ誤解ナルコトヲ指摘シ置カレ度シ

次ニ「ラ」ニ於テハ現在ノ狀況ニテ不満足ニアラス神戸會商ノ結果ニモ毫モ異議ナシト言ヒ剩サヘ我方カ當業者代表

ルニモ不拘又兩國代表委員間ニ話合ヒヲ行フモ  
帝國政府ノ權限ヲ以テ船舶業者ヲ強制實行セシメ得サルモノアルヲ以テ右委員會ノ話合ヒヨリモ當業者代表ノ話合ヒノ方實際上ノ效果多キニ不拘斯ク迄固執シ我方ニ於テ受諾

セサレハ會商不能ト迄主張スルハ我方ノ諒解シ難キ所ナルコトヲ強調セラレタル上蘭印側豫テノ希望ナルヲ以テ我方ハ會商全般ノ大局ヨリ考察シ海運業者ノ非常ナル反對アリシニモ不拘難キヲ忍ヒ最後案トシテ右ノ條件及方針ノ下ニ話合ヒヲ爲スコトニ漸ク當方ノ意見ヲ取り纏メタル次第ナルニ付貴電第一三七號乃至第一三八號ノ次第ハアルモ左記ヲ申入レラレ右申入レニ際シテハ此ノ點ヲ充分徹底セシメラル様致度結果回電アリ度シ(尙貴電第一三七號及第一三八號ハ〔〕ニ依リ話ヲ進ムル際何分電報致スコトシ度シ御含ミ迄)

(一)本件話合ヒハ非公式且私的(informal and private)ノモノタルヘキコト從テ今次會商ノ議題トシテ取扱ハス越田總領事ヲシテ其ノ衝ニ當ラシムルコト

(二)兩國政府當局間ニ右ノ形式ニテ話合ヒヲ行フトスルモ事項ニ依リテハ(例ヘハ不定期船ニ關スルモノハ此ノ點貴代表限リノ御含ミ迄)現行ノ法律命令ニ基ク帝國政府ノ權限ヲ以テ海運業者ヲ強制實行セシメ得サルモノアルヘクスル事項ニ關シテハ政府當局間ニ於テ話合ヒヲ遂クルコトノ不可能ナルヘキコトヲ豫メ蘭印側ニ諒解セシメ置

## クコト

(三)海運問題ニ付兩國當局間ニ話合ヒノ上ハ之ヲ夫々自國關係海運業者ノ協議ニ移シ兩國船會社間ノ協定トシテ成立セシメ兩國關係當局カ夫々自國關係海運業者ニ對シ之ヲ確認スルコト

(四)蘭印側モ我方モ會商ノ進捗ヲ切望シ居レルニ鑑ミ海運問題ニ關スル兩國當局間ノ非公式話合ヒハ少クトモ他ノ事項ノ商議ト併行之ヲ行ヒ先方ニ於テ海運問題ノ解決ヲ見タル後ニ非レハ會商ノ正式議題ノ商議ニ入ラストノ主張ヲ爲ス時ハ極力反對スヘキコト  
蘭へ轉電セリ

## 第一四二號

(一)「ハ」ハ日本側申出ノ「サロン」制限令修正ノ如キハ蘭印政府ノ面目上到底不可能ナルノミナラス他ニ名案ナキニ付何等色ヲ附クル意味合ニ於テ蘭印側一方的措置トシテ右制限令第一〇條所定ノ經濟長官ノ裁量ニ依リ一九三三年ノ正規ノ輸入業者ニシテ一九三〇年ヲ基礎トスル現行制限令ノ下ニ於テハ「ライセンス」ナキカ又ハ尠ナキモノニ對シ新ニ「スペシャル、ライセンス」ヲ數日中ニ發給スヘシト述ヘタルニ付山中ヨリ事前其ノ内容協議方申出タルモ「ハ」ハ右カ蘭印政府ノ一方的措置ナル關係上數量及比率ニ付キ協議スル事絶對不可能ナリト反對セリ

347 昭和9年9月8日 長岡日蘭会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

サロン輸入制限令に対する我が方修正案など  
に関する山中顧問とハルト經濟長官との懇談について

バタヴィア 9月8日後10時発

本省着

(四)次テ「ハ」ハ右蘭印側措置ハ日本側ニ於テ「ボイコツ

ト」ヲ爲シタルカ爲ニ之ヲ爲サントスルノ意ニ非ルモ近キ將來ニ於テ「ボイコット」停止セラルルニアラサレハ會商ノ圓滿ナル進行ニ面白カラサル結果ヲ招來スヘシト云ヘルニ付山中ハ事前ノ協議ナキ以上發給セラレタル「ライセンス」カ日本代表部ヲ満足セシムル時ニ於テノミ「ボイコット」停止方「リコメンド」スルモ然ラサル限り之ヲ一切本邦當業者ノ判断ニ委スヘシト答ヘタリ要之スルニ先方カ海運問題ヲ以テ本會商ノ最重要問題ナリト強調シ居ル點ニ鑑ミ果シテ先方カ當方ノ希望スル數量及比率ヲ附與シ來ルヤハ不明ナリ尙前記ノ次第ニテ蘭印側ハ日本側ノ壓迫ニ依リ斯ル措置ヲ爲スニ至レルモノノ如ク見ラルルヲ頗ル氣ニシ居ル關係モ有之ニ付右ノ措置實施前ハ新聞等ヘノ公表ハ極力之ヲ避ケラル様致度シ

二、又貴電第九四號一、ニ關シ其ノ後蘭側當業者ノ運動モ加ハリ先方ノ空氣ニ大ナル變化ヲ來シ居リ現ニ未晒綿布ニ付テハ元々先方ノ希望ニ基キ本邦側之ヲ自發的ニ統制シタル關係上今更先方ハ之ニ異議ヲ唱ヘ得サル事情ニ在ルトコロ新制限令問題ニ關スル前記會談ノ印象ニ依レハ未

348 昭和9年9月13日 長岡日蘭会商代表より  
廣田外務大臣宛(電報)

一九三二および三三年の状況に鑑み日本商品の邦商取扱い総括的比率を四割乃至三割五分で交渉したい旨請訓

別電 九月十三日発長岡日蘭会商代表より廣田外務大臣宛第一四五号

右両年日本商品の邦商取扱い比率

バタヴィア 9月13日後3時発

本省 着

第一四四號(極秘)  
貴電第九一號ニ關シ

一、蘭印輸入ノ個々ノ邦品ニ付邦商ノ輸入割合ヲ算定スルコトハ殆ト不可能ナルニ付總括的ニ右一切ノ邦品ニ對スル邦商ノ輸入割合ヲ算出スルコト實際的ナリト思考セラル、處別電第一四五號一九三二年及三三年ノ蘭印輸入ノ邦品ニ對スル日、蘭、華其ノ他ノ商人取扱割合ノ通り邦商ノ邦品輸入金額ト蘭印ノ邦品輸入總金額トヲ對比スレハ(現在邦商ヨリ接受シ居ル報告ニテハ制限實施中ノ商品ヲ除キ他ハ悉ク商品ノ分類及單位ヲ異ニシ居ル爲數量ニ依ル比較困難ナリ)邦商ハ右兩年度ニ夫々四割五分強及三割七分ノ勢力ヲ有スルコトトナルモ此算定ハ當地邦商ノ報告ヲ基礎トセルモノナルニ付相當割引スルノ要アリト思ハル

二、右ノ次第二付往電第一三三二號一、冒頭ノ通り本使ハ「ラ」ニ對シ個々ノ商品ニ付一々比率ヲ定ムルノ煩ヲ避ケ且妥結ヲ極メテ容易ナラシムル爲大局的見地ヨリ日蘭商ノ取扱比率ヲ例へハ五分五分トスルノ提言ヲ試ミタルカ其際「ヘ」ヨリ華商其ノ他ノ割前ニ付質セルニ付本使ヨリ日本各側ヨリ均等ニ之ヲ吐出シ可然旨ヲ陳ヘタルニ「ラ」ハ五分五分ニハ異存アルカ如キ態度ヲ示シ且委員會會議

晒ノ供給調節ヲ日本側ノ輸出統制ニ依リタルハ蘭印側シテハ失策(豫メ輸入業者ト打合ヲ缺キシ爲メ後日彼等ヨリ强硬ナル苦情ヲ持込マレタルモノノ如シ)ナリシヲ以テ今後邦品ノ輸入過剩ヲ調節スルニハ蘭印側ノミニテ自由ニ之ヲ實行スルニ非サレハ自分側ニ都合好キ様按配シ得サル事ヲ考ヘ居ルヤニ推察セラル右御参考迄

四、何れニスルモ前記比率ハ之ヲ括輸入組合等ニ賦與スル建前トシ右輸入組合等ニ於テ適宜之ヲ振當シムル考ナリ以上ハ勿論當方ノ考ヘ居ル大体ノ「ライン」ナルカ若シ右ニ關シ何等御意見アラハ至急御開示ヲ請フ

バタヴィア 9月13日後3時発  
バタヴィア 9月17日後着

本省 9月17日後着

## 第一四五號

| 一、輸入總額      | 一九三二年       | 一九三三年 |
|-------------|-------------|-------|
| 七八、三三九 千盾   | 九八、四九〇 千盾   |       |
| 三八、七九三 千盾   | 三九、四三〇 千盾   |       |
| 四五・五% 三七・〇% | 四一・〇% 千盾    |       |
| 三三・〇% 八・〇%  | 一四・〇% 一三・〇% |       |
| 八・五% 八・〇%   |             |       |

(推算)

349 昭和9年9月17日 広田外務大臣より  
長岡日蘭会商代表宛(電報)

蘭印輸入日本品の邦商取扱い比率は五十六品種につき四割を主張し状況により三割五分考慮方訓令

三、而シテ先方モ一九三三年ノ現状維持特ニ大体異存ナキ次第二對シ御來示ノ日本商ノ取扱總量ハ貴電第一四五號及右二、ノ次第二鑑ミ先方カ五分五分案ニ同意セサル場合ニ於ケル我方讓歩ノ限度ハ「ネット」四割ニ留メ度(此ノ割合中ヨリ第三國商人ノ取扱ヒ量ヲ吐出スコトハ不可能トス)

四、華僑其他第三國商人ノ輸入割合ヲ如何ニスヘキヤノ點ハ

日蘭間ニ決定シ得ヘキ限りニアラス專ラ蘭印側ニ於テ自ラ措置スヘキ筋合ナリ要スルニ我方ハ此ノ問題カ如何ニ決スルニセヨ我方割合ハ四割以下ニ下ラサルコトト致度

五、以上ハ過去ノ數字ニ立脚シタル當方主張ナルカ要スルニ

問題ハ現地ノ邦商保護ニアルコトニ付貴代表ノ御見込ミ

ニテ右以下ニテモ充分ナリトノコトナラハ三割五分案モ

考慮スヘシ

六、尙御見込ニ依リテハ五十六品種ニ付現地ノ實情ニ適應シタル「グループ」ヲ設ケ「グループ」毎ニ比率ヲ定ムルコトモ差支ナシ

蘭へ轉電セリ

350 昭和9年9月21日 広田外務大臣より  
長岡日蘭会商代表宛(電報)

海運問題に関する當業者間協議事項および政

府間了解事項案をオランダ側に提示方訓令

別電一 九月二十一日発広田外務大臣より長岡日蘭会

商代表宛第一〇七号

貴電第一四四號ニ關シ

## 第一〇四號(極秘)

本省 9月17日後発

バタヴィア 9月17日後着

第一〇八號二、三、四ハ日蘭通商條約第十條ノ當然ノ結果ト考ヘラレ且又今次ノ話合ヒカ非公式且私的ナルノ建

前ニ鑑ミ右二、三、四ハ別電第一〇八號ノ六記載ノ通り日本側ニ對スル蘭印側ノ一方的宣言ノ形ヲ採リ且政府間ノ諒解ハ一切右宣言文ト共ニ之ヲ秘密文書トシ度シ

別電ト共ニ蘭へ轉電セリ

(別電一)

本 省 9月21日後発  
バタヴィア 9月21日後着

第一〇七號

兩國當業者間協議事項

一、日本爪哇航路同盟ニ關スルモノ

本航路ニ於ケル各社ノ配船、運賃率及積荷割當等ハ擧ケテ之ヲ同盟各社ノ協議ニ任カスルコト(尤モ各社積荷割當率ニ關スル我方當業者ノ意見ハ左ノ通リナリ)

(イ)往航ニ付テハ既ニ同盟ノ神戸會商ニ於テ各社ノ割當率大体妥協出來タルニ付其儘之ヲ成案トスルコト

(ロ)復航ニ付テハ大体ノ實績ヲ基礎トシ神戸會商ヲ繼續シ

テ協議決定スルコト)

二、日本「スマトラ」航路ニ關スルモノ

本航路ニ於ケル配船、積荷割當率及運賃率等ハ南洋郵船及「ジャハ・チヤイナ・ジャパン・ライン」ノ協議ニ委

カスルコト

尙同盟各社ノ「スマトラ」其他ノ蘭印外領ニ對スル將來

ニ於ケル新規配船ノ是非ニ付問題アラハ右ハ彼我加盟五

社間ノ協議ニ任カスルコト

三、日本蘭印間航路以外ノ定期航路並ニ盟外配船等ニ付テハ

政府間ニ於テ交渉ノ限りニ非ルハ固ヨリ當業者ニ於テモ

協議ノ餘地ナカルヘキコト

(別電二)

本 省 9月21日後発  
バタヴィア 9月21日後着

第一〇八號

兩國政府間ノ諒解ヲ遂クヘキ事項

一、民間交渉ノ結果ヲ確認スルコト

但シ右確認ハ夫々自國ノ關係當業者ニ對シテ之ヲ爲シ右

確認シタル事項ヲ一方ノ政府ヨリ他ノ政府ニ通知スルコト

十月一日以降の新制限法令發布問題につき発令  
一週間前の事前協議オランダ側へ提案について

バタヴィア 9月25日前1時30分発  
本 省 着

第一五五號

一、關西地方ニ於ケル風水害見舞ニ對スル答禮旁本二十四日午前十一時半「ラ」ヲ訪問セル機會ニ本使ハ「ラ」ニ對シ愈委員會モ開カルル事トナリ同慶ノ至ナルカ不幸十月一日迄ニハ後一週間ヲ餘スノミナリト云ヘルニ「ラ」ハ不可避的事情ニ依リ同日ヨリ引續キ一、三ノ新法令發布ノ手筈ニナリ居レリト答ヘタルニ付本使ハ斯クノ如キ措置カ當方ニハ如何ニ影響スルヤヲ貴方ニ於テハ毫モ考慮セラレサルハ頗ル遺憾ナリト述ヘタル處「ラ」ハ新法令

ハ決シテ反日的ノモノニハ非スト云ヘル故本使ハ其ノ性質ノ如何ヲ問ハス我々不知ノ間ニ發令ヲ見ルニ於テハ我々ノ立場ハ全ク無クナル次第ナリト指摘シタルカ何等ノ措置ヲモ執ラサルヘキ旨ノ保障ヲ今更求ムルモ到底承諾ヲ取付クルコト不可能ナルニ鑑ミ本使ハ「ラ」ニ對シ本件ニ付何等安協ノ方法ヲ發見セスハ豫期セサル結果ヲ招來

ト  
七八九月廿五日 長岡日蘭会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

スヘキニ付發令前少クトモ一週間前ニ法案ヲ當方ニ示シ  
意思ノ疎通ヲ計ルコト、シテハ如何ト提言セルニ「ラ」  
モ大イニ考慮ニ值スト思フニ付多分此ノ方針ニテ進ミ得  
ヘク本夕「ハルト」ト會見セラル際重テ本件ヲ提起セ  
ラレ度シト述ヘタリ

三、次テ午後六時半過日「ハルト」カ爲セル首席代表就任挨  
拶來訪ニ對スル答訪ヲナセル際右問題ニ關スル我方ノ態  
度ニ付本使ヨリ從來ノ經過ヲ述ヘタル後委員會開カレ間  
モナキニ新法令ノ發布ヲ見苟モ會商ノ議題タルヘキ事項  
ニ觸ルコトアランカ日本ハ異常ナル衝動ヲ受ケヘキニ  
付會商カ「ノーマル」ニ繼續スル間ハ新法令ノ發布ハ見  
合ハセラル様要求セル處「ハ」ハ既ニ國民參議會ヲ通  
過シ將ニ發布セントスルモノハ企業ニ關スル法令ニテ右  
ハ決シテ日本人ヲ目標トスルモノニハ非ス今日迄之カ發  
布ヲ延ハシタル所以ノモノハ右發令カ日本人關係ノ如キ  
感觸ヲ與ヘ會商ノ空氣ヲ惡化セんコトヲ惧レタルニ在ル  
處遂ニ發令ヲ餘儀ナクセラレタル主タル理由ハ過般米國  
ノ「グットイヤー」會社ノ設立ヲ許シタルニ「ファイヤー・  
ストーン」會社ヨリモ同様ノ要求ニ接シ居リ又瑞典ヨリ

意見ノ交換ヲ盡シ得ル時日ヲ設クル積リナリ尤モ右内示  
ノ事實カ外部ニ漏ルル様ノコトアリテハ自分等ノ立場全  
ク失ハル、ニ付特ニ機密ノ取扱ヲ得度シト云ヘリ  
蘭へ轉電セリ

352 昭和9年9月25日 長岡日蘭会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

越田・ヘルデレン私的会談において蘭印にお  
ける日本商品邦商輸入取扱い比率に関する我  
が方具体案提示について

バタヴィア 9月25日後2時発

本 省 着

第一五六號  
往電第一五三號ニ關シ

比率問題ニ關シ第一回委員會ヲ開クモ徒ニ論議ヲ重ネ實際  
的ニ非サルニ鑑ミ先方ト打合ノ上此際極少人數ニテ私的會  
談ヲ試ミ双方主張ヲ徹底的ニ明確ナラシメ何等具体的妥結  
ノ急速實現ヲ計ルコトニ議纏マリタルヲ以テ昨一十四日午  
後五時半ヨリ八時マテ第一回私的會談ヲ行フ越田(姉齒早

憲寸會社設立ノ要請アリ何レモ大規模ナル所法令ナキ爲  
之等要求ヲ拒絶シ得ス大ニ困却セルニ付瑞西ノ例ニ傲<sup>(倣)</sup>  
許否ノ權ヲ蘭印政府ニ留保セントスルニ在ルヲ以テ日本  
人ノ小企業ノ如キハ決シテ之ヲ拒絶シ又既存ノ企業ニ付  
容喙セントスルノ意思毫末モナシ尙此ノ外輸入商品ノ割  
當比率數量等ニ關スルニノ法案アル處右等ハ會商事項ニ  
モ關係スルコト故如何スヘキヤ目下考慮中ナリ今朝貴大  
使ヨリ「ラ」ニ述ヘラレシ事前ノ開示方ニ付テハ能フ限  
リ御希望ニ副フコトニ決シ之ニ關シ明日ニテモ本國政府  
ニ請訓スル積ナリト云ヘルニ付本使ハ當方要求ノ趣旨ハ  
開示ヲ受ケ必要ト認ムル「サゼスシヨン」ヲナス機會ヲ  
得双方ノ折合ヲ付ケタル後始メテ發令ノ運ヒニ至ラシム  
ルコトニ在ルヲ以テ單ナル「インフォーメーション」ノ  
意味合ニテノ豫告ハ無意義ナリ將又當方ノ「サゼスシヨ  
ン」ヲ無視セル發令ノ爲如何ナル結果ヲ招來スヘキヤハ  
豫斷ノ限りニ非ス或ハ悲シムヘキ重大ナル事態發生セス  
トモ計リ難シト述ヘタルニ「ハ」ハ自分トシテハ會商ノ  
圓滿ナル進行ノ爲最善ノ努力ヲ盡スヘク法令ノ内示ハ勿  
論後日ノ障害ヲ豫メ除去スル爲貴方ノ意向ヲ承ハリ十分

甲 蘭印輸入ノ日本產品ニ對スル邦商蘭商ノ輸入取扱比  
率ノ均等ハ左ノ各號ニ依ルモノトス  
(1)邦商ニ對スル輸入許可數量ハ制限品目毎ニ基準年度  
ニ於ケル蘭印ヘノ當該日本商品輸入數量ノ當該商品  
ノ總輸入數量ニ對スル割合ノ四割二分五厘ヲ輸入許  
可總數量ニ乘シタルモノトス  
(2)(1)ノ基準年度ハ一九三三年(「セメント」ハ一九  
三二年)トス

(A)邦商ニ許可スル輸入制限數量ハ各制限品目毎ニ之ヲ  
一括シ關係邦商全部ニ賦與スルモノトス  
乙 邦商ニシテ前號基準年度ニ於テ日本品以外ノ商品ヲ  
蘭印ヘ輸入シタル者ニ對シテハ其ノ輸入實績ニ基ク比  
率ニ依リ輸入許可數量ヲ決定スルモノトス  
ノ趣旨ヲ詳細説述シタルニ

ノ意見ニテハ日本品ノミニ基礎ヲ於ケル日蘭商比率各四、五「パーセント」ノ如キ不動ノ確定比率ヲ設クルハ不合理ニシテ各品種毎ニ夫々蘭印總輸入額ニ對スル日本人ノ邦品取扱比率ヲ決定スヘキモノナリ又右四二、五パーセントハ蘭側統計ニ比スレハ高キ數字ニシテ蘭側調査ニ依レハ三三、四六「パーセント」トナル處前記日本側數字中ニハ蘭商カ蘭印諸港ニ於テC・I・F買シタルモノヲ控除シ居ラサルモノト思考スル旨述ヘタルニ付越田ハ右日本側數字ハ在蘭印日本商ヨリノ輸入實績ノ報告ニ基クモノニシテ又大藏省統計數字ヨリ一分五厘ニ相當スルC・I・F買數量ヲ控除シタルモノナリ(實ハ同省統計ニ依レハ四〇%ナルモ四五ト計上シオケリ)ト反駁セニ「へ」ハC・I・F買ハ二分五厘ノ如キ少數ニ非ス孰レニスルモ日本側數字ハ高率ナリト反対セリ

三、次テ「へ」ハ基準ヲ一九三三年ニ採ルモ右年度コソハ日本品ノ異常輸入ニ依リ制限ヲ爲シタル年度ナレハ此年度ヲ基準トスルコトニハ反対ナル旨ヲ仄メカシタル上孰レニスルモ日本側提案ハ篤ト研究ノ上回答スヘシト答ヘタリ

四、最後ニ越田ハ日本案ハ全然白紙ニ立チ還り現行制限品目ハ勿論問題トナルヘキ重要商品(品種ニ付テハ追テ協議スヘシ)ヲ包含スルモノナルニ付誤解ナキ様致度シト述ヘ置ケリ

蘭へ轉電セリ

依レハ三三、四六「パーセント」トナル處前記日本側數字中ニハ蘭商カ蘭印諸港ニ於テC・I・F買シタルモノヲ控除シ居ラサルモノト思考スル旨述ヘタルニ付越田ハ右日本側統計數字ヨリ一分五厘ニ相當スルC・I・F買數量ヲ控除シタルモノナリ(實ハ同省統計ニ依レハ四〇%ナルモ四五ト計上シオケリ)ト反駁セニ「へ」ハC・I・F買ハ二分五厘ノ如キ少數ニ非ス孰レニスルモ日本側數字ハ高率ナリト反対セリ

353 昭和9年9月27日 長岡日蘭会商代表より広田外務大臣宛(電報)

越田・ヘルデルン私的會談における日本品邦

商取扱い比率に關する我が方主張およびオランダ側主張について

右我が方主張  
別電 九月二十七日発長岡日蘭会商代表より広田外務大臣宛第一五九号

バタヴィア 9月27日後5時30分発

第一五八號  
往電第一五七號末尾ニ關シ  
本省着

本二十七日朝前回同様ノ顔振レニテ私的會談ヲ行フ要領左

ノ通り

「越田ヨリ我方提案ニ關スル前回ノ先方「オブザベーシヨン」ニ對シ別電第一五九號ノ如キ當方意見ヲ述ヘタル處「へ」ハ元來「シエヤー」ノ問題ハ「ライセンス」制度ニ其ノ基礎ヲ置クヘキモノニシテ右制度ノ觀念ヲ考慮ニ容レスシテ「シエヤー」ナシトクドクドシク述ヘタル後要之貴方提案ハ蘭側前回ノ意見ノ通リ(イ)品種ニ依リ日本案數字ノ如キ高率ヲ適用シ得サルモノ多々アルニ不拘之等ノモノニ一率ニ右ノ如キ劃一的比率ヲ適用スルハ不合

理ナリ(ロ)日本案數字ハ蘭側統計數字トノ間ニ大ナル差異アリ數字ハ蘭側統計ニ依ラサルヘカラス(ハ)基準年度ヲ一九三三年ニ取ルヤ否ヤハ之ヲ留保ス(マニ)ノ諸點ニ付反対アリト述ヘタルニ付越田ハ右(イ)ハ個々ノ品物ニ付一々比率ヲ定ムルノ煩雜ヲ避ケル趣旨ニ出テタルモノナルコトハ御承知ノ通リニシテ此ノ點品種問題ニ關連スル所以ナリト答ヘ(ロ)ニ付テハ蘭側統計カ稅關價格表ニ於ケル評價格等ノ關係ニ依リ必スシモ大藏省ノ統計ニ合致セサルモ我方數字ハ前記別電中ニ述ヘタル如ク蘭印在留邦商ヨリ徵シタル輸入數量及金額ニ關スル報告ヲ基礎トセルモノナ

ルヲ以テ正確ナリト反駁シ置ケリ(ハニ付テハ在留邦商ノ

準既得權尊重ノ趣旨ニ於テ右年度ヲ基準トスヘキ旨ヲ強調シ置ケリ(前述ノ會談ニ依リ蘭側ニ於テモ當方ノ主張ヲ或程度迄諒解シ得タルカ如キ印象ヲ受ケタリ)

三、次テ越田ハ比率問題ニ關スル彼我ノ意見ニ根本的相違アルカ如ク見受ケラルルカ右ハ蘭側意見カ「ライセンス」制及「クオーター」制ニ基礎ヲ置キ居ルニ反シ我方意見カ右等制度ヲ無視シ自我ノ立場ニ於テ邦商ノ比率ヲ決定スルヲ目的トスル點ニアリ國際會議力開カルル場合吾人ハ關係當事者間ニ到達スルコトアルヘキ協定ニ基キ後日變更セラルヘキ國內法令トハ別箇ニ討議スヘキモノナルコトヲ指摘セントス貴方ハ餘リニ國內法令ノ保持ニ切ナリ依テ暫ク本比率問題ヲ差シ置キ次回會合ニ於テハ制限セラルヘキ品種ノ討議ニ移ルコトヲ提議スヘキ旨述ヘタル處「へ」ハ右提議ニ同意スルト共ニ比率問題ニ關スル雙方意見ノ相違ヲ明確ナラシムル爲之ヲ文書ニ認メ度キ旨ヲ申出テタルニ付越田ハ之ニ同意シ次回會合明廿八日午前ニ打合セ濟

別電ト共ニ蘭へ轉電セリ

(別 電)

バタヴィア 9月27日後11時30分発  
本 省 着

## 第一五九號

(一)日本品ニ基礎ヲ置クコト必要ナリ  
日本政府カ屢次聲明シ居ルカ如ク我政府ハ日本品ノ輸出  
増進ト其ノ販路維持ニ努力シツツアリ而シテ和蘭政府ノ  
要望ニ依リテ今回ノ會商ニ應シタル所以亦專ラ茲ニアリ  
故ニ曰蘭會商ハ蘭印ニ輸入スル日本品ヲ主題トシテ討議  
スヘキ筋合ノモノニシテ他外國品ニ關聯セシメテ論スル  
コトハ全然日本代表部ノ主タル任務外ニ屬ス然シ從來邦  
商ノ輸入シ居タル外國品ニシテ制限サルル場合ハ現實ノ  
實績ヲ基礎トシテ輸入比率ヲ賦與サルヘキコト勿論ナリ  
右ノ見地ニ於テ日本委員ハ過日比率ニ關スル提案ヲナセ  
ルモノニシテ更ニ我說明ヲ敷衍スヘシ元來在蘭印日本商  
社ハ主トシテ日本品ヲ取扱居リ從テ日本品輸入高ヲ基準  
トシテ比率ヲ定ムルコトハ最モ公平且ツ實際的ナリ然リ  
ト雖右比率ト制限總數量トノ關係ニ於テハ當該物品ノ一  
般輸入高(諸外國ヨリ輸入高)ヲ考慮シ居ルノミナラス右

(二)日本品ニ基礎ニ對スル誤解アリ  
我提案タル四二、五%ハ蘭印在留邦商ヨリ徵シタル彼等  
ノ一九三三年ニ於ケル日本品ノ輸入數量及輸入金額ニ關  
スル報告ヲ基礎トセルモノナリ(日本大藏省ノ報告ハ偶々  
四五%ナルカ之ハ金額ノミヲ基礎トセルモノナルニ付貴  
方参考迄ニ過日ノ會合ニ於テ申述ヘタルニ過キス此ノ點  
誤解ナキ様致度)而シテ右邦商ノ報告ヲ徵スルニ當リC・  
I・Fニテ販賣セル分ハ除外スヘキコトヲ命シ置キタレ  
ハ恐クハ之ヲ包含シ居ラスト信ス併シ之レト同時ニ蘭商  
カ日本品ヲC・I・Fニテ在蘭印日本商ヨリ買取り居ル

事實ハ勿論之ヲ認ム

## (三)輸入業者ノ定義

貴委員ハ蘭印ニ於テ誰レカ輸入業者タルヘキヤハ蘭印政  
府ノ決定スヘキモノナリト稱セラルルカ若シ此ノ論理ヲ  
無條件ニ進ムル時ハ重大ナル結論ニ達スルコトニ注意セ  
サルヘカラス  
日本委員ハ日本商社ノ現實ノ輸入權ノ確保ヲ支持セシム  
ルコト緊要ナルヲ以テ本會商ニモ應シタル次第ニシテ此  
ノ點カ前記ノ比率問題ニ於テモ日本商ニ對シ主トシテ曰  
本品輸入ノ特定比率ヲ確保セントスルコト密接ナル  
聯ヲ有スルモノナリ

尙普通ノ觀念ニ於テハ商品ノ輸入ヲ爲スモノハ其ノ數量  
又ハ金額ノ多少ニ不拘輸入商タルヘキモノニシテ該輸入  
商カ自ラ其ノ輸入品ノ卸又ハ小賣ヲ爲スコトハ全ク輸入  
商タル資格ヲ失フモノニ非ス我方ノ比率算出上ニ於テC・  
I・Fニテ販賣シ居ルモノハ日本商取扱ヒ比率中ニハ之  
ヲ包含セシメ居ラサル點ハ誤解ナキ様致度  
四一定不動ノ比率ヲ提案セル理由

貴委員ハ我方提案ノ一定不動ノ比率ヲ設定シ之ヲ制限數  
量ハ必シモ日本品以外ノモノヲ輸入シ得サルニ非サル  
コト勿論ナリ

比率ヲ當該商品ノ總輸入量ニ乘シテ得タル日本商ノ許可  
率ヲ提案セルコトハ長岡代表ト「ランネフト」代表トノ  
話合ヒニ基クモノニシテ右ハ日蘭共存共榮ノ精神ト且ハ  
一九三三年ニ於ケル日蘭兩商ノ日本品輸入高カ略等シキ  
モノナリシトニ鑑ミタルカ爲ニシテ他外國人ノ日本品取  
扱ヒニ付テハ日本代表部ニ於テ何等關スル所ニ非ルナリ  
コト勿論ナリ

尙我方ニ於テ日蘭兩商ノ日本品輸入上ノ總括的均等的比  
率ヲ提案セルコトハ長岡代表ト「ランネフト」代表トノ  
話合ヒニ基クモノニシテ右ハ日蘭共存共榮ノ精神ト且ハ

一九三三年ニ於ケル日蘭兩商ノ日本品輸入高カ略等シキ  
モノナリシトニ鑑ミタルカ爲ニシテ他外國人ノ日本品取  
扱ヒニ付テハ日本代表部ニ於テ何等關スル所ニ非ルナリ  
コト勿論ナリ

## (四)比率ノ基礎ニ對スル誤解アリ

我提案タル四二、五%ハ蘭印在留邦商ヨリ徵シタル彼等  
ノ一九三三年ニ於ケル日本品ノ輸入數量及輸入金額ニ關  
スル報告ヲ基礎トセルモノナリ(日本大藏省ノ報告ハ偶々  
四五%ナルカ之ハ金額ノミヲ基礎トセルモノナルニ付貴  
方参考迄ニ過日ノ會合ニ於テ申述ヘタルニ過キス此ノ點  
誤解ナキ様致度)而シテ右邦商ノ報告ヲ徵スルニ當リC・  
I・Fニテ販賣セル分ハ除外スヘキコトヲ命シ置キタレ  
ハ恐クハ之ヲ包含シ居ラスト信ス併シ之レト同時ニ蘭商  
カ日本品ヲC・I・Fニテ在蘭印日本商ヨリ買取り居ル

354

昭和9年9月27日

長岡日蘭會商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

## 海運問題に關するオランダ側提案について

バタヴィア 9月27日後11時30分発

本 省 着

着

## 第一六一號

今一十七日蘭側ヨリ越田ニ手交セル海運問題ニ關スル蘭側  
ノ提案左ノ通り

(1) Japan-Macassar-Java Ports

Abovementioned traffic remains open.

Between Japanese Lines and J.C.J.L. an agreement will come into effect in order to arrange division of cargo as mentioned under sub II.

(2) Japan-Ports of the outer islands (Macassar excepted)

With regard to traffic of Japanese ships to ports of outer islands (Macassar excepted) present situation is

Nanyo Line gives one sailing monthly to Padang and one sailing monthly to

Palembang;

Nippon Yusen Kaisha gives two sailings per month to Menado

Osaka Shosen Kaisha gives two sailings per month to Belawan Deli.

This status quo will be maintained regarding to ports as well as to number of calls to these

ports.

Extention of Japanese shipping to ports of outer islands cannot be permitted.

Traffic of a small Japanese Company (Saito) to New Guinea will be terminated.

For loading of special bulk cargoes as lumber ore salt etc by Japanese ships in ports of outer islands special arrangements can be made in agreement with Netherlands Indian Government (viz. sub II, 2).

II. Division of cargo between J.C.J.L. and Japanese Lines.

A permanent division of cargo in the shape of pool-agreements (point IV) will be made between J.C.J.L. and Japanese Lines.

If during life-time of this agreement additional Dutch Lines on one hand or additional Japanese Lines on other hand will enter into trade for which division of cargo is made, share of these additional

lines will be deducted from J.C.J.L. if additional Lines are Dutch and from Japanese Lines if additional lines are Japanese.

Division of cargo will take place according to following scheme.

(1). Inward traffic.

a. Japan-Macassar-Java Ports.

Ratio of 1930 will be re-instated in consequence whereof J.C.J.L. will be granted a percentage of 41%.

b. Japan-Padang, Japan-Palembang (direct) and Japan-Menado (direct).

50% for J.C.J.L. (present situation).

c. Whereas Balawan Deli is concerned no division of cargo will take place.

d. Japan-other ports in outer islands. (in through traffic per K.P.M.).

80% for J.C.J.L. (present situation).

(2). Outward traffic.

III. Rates of freight.

Within reasonable term say 6 months the tariff in general will be raised with 25% above present level. Whenever rate of Yen should fall freights will be changed as to maintain their level calculated in gold florins.

IV. Shape of shipping agreement.

Conditions which are to be agreed upon will be

worked out in agreements between private companies.

These agreements will be of two kinds:

- Pool-agreements concerning inward and outward traffic between J.C.J.L. on one hand and Japanese Lines on other hand.

These pool-agreements will include common agreement rules and also rules which will be agreed upon between both parties under which division of cargo and basis of freighttariff.

- Agreements concerning through traffic both outward and inward between J.C.J.L. and Japanese Lines on one hand and K.P.M. on other hand.

These agreements shall at least include:

- that inward transhipment cargo will be given entirely to K.P.M. except in case Netherlands Indian Government will allow through traffic with another company.
- with regard to outward transhipment cargo

present situation regarding first carriage by K.P.M. will be maintained.

(3). principles of through rates of freight.

- restriction as regards ports and calls to outer islands for J.C.J.L. and Japanese Lines.

It will be guaranteed by both Governments that above agreements will be fulfilled by parties concerned and that any action of Netherlands or Japanese outsiders contrary to spirit of these agreements will be prevented.

#### V.Relation of Netherlands East Indian and Japanese shipping outside of Netherlands East Indian — Japanese trade v.v.

Both Governments agree to use their power towards their respective shipping companies to effect that on one hand Japanese shipping lines shall respect Netherlands Indian shipping interests where Netherlands Indian ports are concerned whilst on other hand Netherlands Indian shipping lines shall

respect Japanese shipping interests as far as Japanese ports are concerned.

■ 梁 本件電報提案時には文中に範囲がせかれていたが、発電は終了細筆やねだ。



355

昭和9年9月28日

長岡日蘭会商代表より

広田外務大臣宛(電報)

越田・クルドルハ私的会談における蘭印輸入制限品種を一九三〇年度輸入金額百萬ルート以上

の品目は局限する我が方原則提示のこゝ

ベタウベト 9月28日後6時30分発

本  
細

着

第一六一號

往電第一五八號末尾に關へ

制限セハルくキ品種問題、就テモ始メヨリ私的會談リテ討議スル方效果的ナリト、雙方ノ協議ニ基キ本廿八日午前十時半ヨリ私的會談ヲ行フ要領左ノ通り

依り決定シ居ルモノノナレハ討議ヲ續ケ度シト反駁スルト共ニ孰レニセヨ右我方提案ニ對スル貴方對案提出アリ度シ

求メタル處「く」ハ依然重大案ナルコトグジヘ繰返シ

居リシカ結局日本案ヲ充分研究ノ上次回會談ニ於テ「オブ

ザベーション」ヲ提出スヘント答ヘタリ次回會談十月一日

午後ノ豫定

蘭へ轉電セリ

昭和九年九月29日 長岡日蘭会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

356 営業制限令の邦商への不適用に関するオランダ側書簡案について

別電一 九月二十九日発長岡日蘭会商代表より広田外務大臣宛第一六六号

右オランダ側書簡案

二 九月二十九日発長岡日蘭会商代表より広田外務大臣宛第一六七号

右我が方返書案

本二十九日朝「ハルト」本使ヲ來訪會談要領左ノ通り  
一、「ハ」ヨリ昨日約束ノ書翰案文ヲ示セルニ付之ヲ一讀スルニ頗ル平凡且一般的ノモノニテ殆ト何等ノ保障トモナリ得サルニ付本使ハ右ニテハ何ノ保障ニモナラス日本人ノ不安ヲ除去スルコト到底困難ナリト思フニ付テハ寧ロ態容ヲ變ヘ會商繼續中日本人ニハ本法令ヲ適用セヌコトシタシト云ヘルニ「ハ」ハ夫ハ到底承諾スル能ハスト

言明セルヲ以テ本使ヨリ種々手ヲ替ヘ當方ノ欲スル所ニ付考慮ヲ促シタルモ「ハ」ハ終ニ同意セス

二、依テ前記書翰案中ニ氣付ノ修正ヲ爲シ結局別電第一六六號ノ如ク協定セリ

三、然レトモ右來翰ノ内容ハ不充分ナリサレハトテ當方ノ要求ヲ鵜呑セシムルコトモ出來ス種々折衝セル處「ハ」ヨリ然ラハ自分ノ書翰ニ對スル貴方ノ返翰中ニ貴方ノ注文ヲ記載スルコトシ之ニテ打切ルコト出來サルヤト述べ

バタヴィア 9月29日後9時15分発  
本 省 着

#### 第一六五號

往電第一六三號ニ關シ

本二十九日朝「ハルト」本使ヲ來訪會談要領左ノ通り

一、「ハ」ヨリ昨日約束ノ書翰案文ヲ示セルニ付之ヲ一讀ス

ルニ頗ル平凡且一般的ノモノニテ殆ト何等ノ保障トモナリ得サルニ付本使ハ右ニテハ何ノ保障ニモナラス日本人ノ不安ヲ除去スルコト到底困難ナリト思フニ付テハ寧ロ

態容ヲ變ヘ會商繼續中日本人ニハ本法令ヲ適用セヌコトシタシト云ヘルニ「ハ」ハ夫ハ到底承諾スル能ハスト

言明セルヲ以テ本使ヨリ種々手ヲ替ヘ當方ノ欲スル所ニ付考慮ヲ促シタルモ「ハ」ハ終ニ同意セス

二、依テ前記書翰案中ニ氣付ノ修正ヲ爲シ結局別電第一六六號ノ如ク協定セリ

三、然レトモ右來翰ノ内容ハ不充分ナリサレハトテ當方ノ要求ヲ鵜呑セシムルコトモ出來ス種々折衝セル處「ハ」ヨリ然ラハ自分ノ書翰ニ對スル貴方ノ返翰中ニ貴方ノ注文ヲ記載スルコトシ之ニテ打切ルコト出來サルヤト述べ

バタヴィア 9月29日後9時15分発  
本 省 着

#### 第一六五號

往電第一六三號ニ關シ

本二十九日朝「ハルト」本使ヲ來訪會談要領左ノ通り

一、「ハ」ヨリ昨日約束ノ書翰案文ヲ示セルニ付之ヲ一讀ス

ルニ頗ル平凡且一般的ノモノニテ殆ト何等ノ保障トモナリ得サルニ付本使ハ右ニテハ何ノ保障ニモナラス日本人ノ不安ヲ除去スルコト到底困難ナリト思フニ付テハ寧ロ

態容ヲ變ヘ會商繼續中日本人ニハ本法令ヲ適用セヌコトシタシト云ヘルニ「ハ」ハ夫ハ到底承諾スル能ハスト

言明セルヲ以テ本使ヨリ種々手ヲ替ヘ當方ノ欲スル所ニ付考慮ヲ促シタルモ「ハ」ハ終ニ同意セス

二、依テ前記書翰案中ニ氣付ノ修正ヲ爲シ結局別電第一六六號ノ如ク協定セリ

三、然レトモ右來翰ノ内容ハ不充分ナリサレハトテ當方ノ要求ヲ鵜呑セシムルコトモ出來ス種々折衝セル處「ハ」ヨリ然ラハ自分ノ書翰ニ對スル貴方ノ返翰中ニ貴方ノ注文ヲ記載スルコトシ之ニテ打切ルコト出來サルヤト述べ

「ハ」ノ試案ヲ提出セル故ニ協議修正ノ上別電第一六七號中 la lecture de la dite lettre m つ petites entreprises の案文ニ纏メタリ

四、本使ハ此等ノ往來兩翰案ノ内容ニ付キ日本政府カ果シテ満足スルヤ否ヤハ全然保障ノ限ニ非サルニ付一應東京ニ電報シ考慮ヲ求メ度シト主張セルニ「ハ」ハ先日來説明セル通或ル種企業許可指定緊急ヲ要スル事情アリ而シテ本法令ハ右企業指定令ノ基本法ニシテ一日モ早ク之ヲ發布スルノ必要ニ迫ラレ居ル特殊ノ事情アルニ付夫ニテハ困ルト拒絶セル故本使ハ然ラハ本日貴官トノ打合ハ本使ノ責任ニ於テ之ヲ爲セル次第ナルニ付此レ以外如何ナルコトヲ日本政府ヨリ要求シ來ルヤハ全然別問題ナルコトヨク了解置アリ度ク此ノ留保ノ下ニ書翰交換ヲ爲スヘシト述ヘタルニ「ハ」モヨク之ヲ了解シテ引取り先方ヨリノ書翰ハ既ニ之ヲ送達シ來レリ當方返翰モ本日之ヲ發送スルニ付右御含置アリタシ

五、尚「ハ」ハ法令發布後公布セラルヘキ政府令ニハ「タイヤー」、製水、陶磁器其他一、三ノ工業ニ關スルモノヲ掲ケラルベシト思フ且述ヘタリ

(別電一)

バタヴィア 9月29日後9時15分発  
本 省 着

第一六六號

Batavia-Centrum, le 29 Septembre 1934.

Monsieur le Président,

Dans l'entretien que j'ai eu l'honneur d'avoir avec Vous Excellence le 28, Votre Excellence m'a exprimé que le projet de l'ordonnance sur la régularisation des

entreprises avait causé lors des premières nouvelles sur

sa promulgation une vive inquiétude au Japon et surtout parmi les commerçants japonais, résidants aux Indes néerlandaises.

J'ai eu l'occasion d'expliquer à Votre Excellence que cette inquiétude était sans fondation et c'est avec plaisir que je confirme par cette lettre ce que j'ai dit à ce sujet, surtout comme il est probable que l'ordonnance en question sera promulguée sous peu.

La régularisation des entreprises a pour but de donner au Gouvernement<sup>(Gouvernement\*)</sup> le pouvoir de refuser la permission de fonder des entreprises nouvelles qu'on considère indésirable d'un point de vue de l'équilibre et du développement économique et social du pays; pour prévenir que l'effet de la loi soit affaiblie ou étouffée on comprendra comme entreprise nouvelle une expansion ou modification radicale et un changement de propriétaire d'une entreprise existante qui équivaudrait à la fondation d'une entreprise nouvelle: pour celles-ci ainsi

une permission pourra être obligatoire.

Le dessein est aucunement de détruire ou d'endommager des entreprises existantes.

Le Gouvernement aura le pouvoir de désigner les branches d'entreprises<sup>(d'entreprises\*)</sup> dans lesquelles l'obtention d'une permission de fonder de nouvelles entreprises sera nécessaire. Dans ces branches, désignées par arrêté de Son Excellence le Gouverneur-Général, le registration des entreprises existantes sera nécessaire: cette registration ne sera qu'une mesure administrative, aboutissant dans l'attribution d'une licence. Dans les branches pas désignées par un tel arrêt l'état actuel continuera.

Le but n'est évidemment pas d'entraver le développement économique, mais seulement d'encourager un développement harmonieux et balancé et surtout de protéger ce qui déjà existe ou ce qui est en train de naître.

Après l'exposition ci-dessus il me semble presque superflu de constater que l'ordonnance n'est nullement dirigée contre l'entreprise du pays dont Votre Excellence

ce se préoccupe.

J'espère que cette lettre pourra servir à dissiper l'inquiétude dont Votre Excellence m'a fait part.

Je n'ai aucune objection que Votre Excellence se servira du contenu de cette lettre de la manière qui Lui semblera opportune.

Je sais<sup>(savais\*)</sup> cette occasion, Monsieur le Président, de vous renouveler l'assurance de ma parfaite considération.

(Sd.) G.H.HART.

Loco-Président de la Délégation néerlandaise.

(元體)

カタカナ 通商問題と外國との問題

大日本撲滅の公報

諸問題

日本の通商問題と外國との問題

Monsieur le Président,

J'ai l'honneur de vous accuser

réception de la lettre que vous avez bien voulu m'adresser en date d'aujourd'hui, comme suite des entretiens que j'avais eu le plaisir d'avoir avec vous les 24, 28 et 29 de ce mois.

Dans ces entretiens, je vous ai expliqué, en remontant à l'historique du projet d'ordonnance sur la régularisation des entreprises, les motifs pour lesquels cette ordonnance pouvait être de nature à causer de l'émotion extrêmement inquiétante à mes compatriotes. Mais j'étais très heureux d'être persuadé, à la suite de votre explication aussi détaillée que bienveillante, que de pareille préoccupation de la part des Japonais n'avait aucun fondement. Et je suis d'autant plus heureux que la lecture de votre lettre d'aujourd'hui me donne la confiance que l'exécution de la dite ordonnance donnera toute considération, en matière des entreprises, aux intérêts et aux droits acquis japonais, notamment à l'égard des petits commerçants et des petites entre-

642

643

prises.

Je sais cette occasion, Monsieur le Président, pour renouveler les assurances de ma haute considération.

Monsieur Mr. G.H.C.Hart

Président a.i. de la Délégation Néerlandaise

~~~~~

昭和9年10月5日 長岡日蘭会商代表より

広田外務大臣宛(電報)

蘭印輸入日本商品の邦商取扱い比率および品種に關する我が方一括提案について

別電 十月五日発長岡日蘭会商代表より広田外務大臣宛第一七五号

右グループ別商品比率

バタヴィア 10月5日後1時30分発

本省 着

第一七四號(至急、極祕)

往電第一七二號前段ニ關シ

輸入ニ關スル委員會開催以來既二十數日ヲ費シタルモ雙方對峙ノ姿勢ニテ此ノ儘ニテハ何時具体的計數的結論ニ到達

スルヤ甚々疑ハシキノミナラス此間不測ノ事故生セサルヲ保シ難キニ付雙方ノ理論的主張ハ互ニ其儘之ヲ維持シツ、過去數次ノ會合ニ於ケル比率及品種ニ關スル討議ノ結果ヲ參照シ左記趣旨ノ具体的計數的提案ヲ來ル八日ノ會合ニ於テ當方ヨリ蘭側ニ對シ一括提出ノ上ニ對シ全般的考慮ヲ求メントベ

即チ
「比率問題」

本問題ニ付テハ我提案ノ總括的比率設定ニ對シ蘭側カ比率數字ノ高キコト及比率ハ品目毎ニ決定スヘキコト等ヲ主張シ居リ前記我案ヲ到底受諾セサルニ鑑ミ往電第一四四號三、記載ノ趣旨ニ依リ且往電第一七〇號末尾豫告ノ通り別電第一七五號ノ如キ各商品ノ「グループ」毎ニ比率ヲ設定スル案ヲ提議スルコト、致度

二、品種問題

往電第一六二號(一)及(二)ニ往電第一六九號一、ノ修正ヲ加ヘタル我方提案ニ對スル先方ノ主張ヲ考慮ニ入レ制限セラルヘキ商品ノ種別トシテ先ツ以テ前記別電ノ十四品種目(但シ織サロン類ハ(イ)綿製ノモノ(ロ)人絹及交織ノモノ

ハ其ノ他ノモノニ細別シ又晒綿布ハ(イ)平組織ノモノ(ロ)綾組織ノモノ(ハ)其ノ他ノモノニ細別ス)ヲ提議シタシ(尚右ノ外蘭側ハ度々百萬盾以下ノ商品ニ付テモ産業保護等ノ必要ヲ固執シ居リ又蘭印市場狀況ノ將來ノ變化ヲ考慮ニ入ルヘシト强硬ニ主張シ居ル情勢ニ鑑ミ場合ニヨリテハ紙、(ニ)ヤ板(函、塗料インク、ガラス製品(水呑ガラス、ポンド瓶、ランプホヤ等)蓄電池、石鹼(以上日本ヨリノ輸入年額百萬盾ニ満タサルモ蘭印ニ産業アルモノ)並ニ硫安、染料、電球、琺瑯鐵器(以上日本ヨリノ輸入年額百萬盾ニ満タサルモ和蘭品ニシテ蘭印市場ニ重要性アルモノニ付テモ制限品目タルヲ認ムルコトアルヘキニ付豫メ御承認ヲ乞フ

三、日本品ノ蘭印輸入數量ニ付テハ一九三三年ノ實績ヲ基準

トシ若シ總輸入數量同年以上ノ場合ニハ增加數量ニ按分比例シテ自動的ニ遞増セシムル趣旨ノ提議ヲ爲サントス尤モ其成立ハ頗ル困難ナルヘキニ付相當程度ノ讓歩ハ豫メ御承認アリタシ

就テハ以上ノ我方提案ニ付至急御詮議ノ結果折返シ回電ヲ請フ尙當地着以來實見スル所ニ依レハ當地ノ不況ハ極

(別電)
バタヴィア 10月5日後2時発
本省 着

メテ深酷ニテドト共ニ益々加重スル一方ナルニ付假令當方ニテ一九三二年度ノ輸入量ヲ保障セシメ得タリトスルモ其消化力ハ當分ノ間之ヲ豫期シ難キ狀況ナリ念ノ爲前電ト共ニ蘭ヘ轉電セリ

第一七五號(極祕、至急)
バタヴィア 10月5日後2時発
本省 着

A五〇%ノモノ(在留邦商ヨリノ報告ニ依ル實績ハ三八、二%ナルニ付此邊迄ハ讓歩ノ自由ヲ當方ニ一任アリタシ以下括弧内ハ此ノ例ニ依ル)

一、未晒綿布
二、晒綿布
三、無地染綿布
四、捺染綿布
五、糸染綿布
六、綿布雜類

B 四五%ノモノ(實績ハ四五%)

セ陶磁器

C 二〇%ノモノ(實績ハ縞サロン類一七、六%)

メリヤス製品二三、九%)

八、縞サロン類

メリヤス製品

D 二五%ノモノ(實績ハ一六、九%)

人絹織物

E 一〇%ノモノ(實績ハ一五、一%)

自轉車及同部品

F 一五%ノモノ(實績ハ一三、一%)

三ビール

G 一〇%ノモノ(實績ハ九、二%)

織糸

H 四%ノモノ(一九三二年ノ實績ハ三、六%)

「セメント」

358 昭和9年10月9日 長岡日蘭会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

第一八〇號

往電第一六八號ニ關シ

バタヴィア 10月9日後7時發
本 省 着

未晒綿布類の輸入量などに關する我が方當業者

の最終案オランダ側に提示について

D 二五%ノモノ(實績ハ一六、九%)

人絹織物

E 一〇%ノモノ(實績ハ一五、一%)

自轉車及同部品

F 一五%ノモノ(實績ハ一三、一%)

三ビール

G 一〇%ノモノ(實績ハ九、二%)

織糸

H 四%ノモノ(一九三二年ノ實績ハ三、六%)

「セメント」

四、一五二五乃至二五一八ノモノハ三十三年ノ數量ニ達スル
マテ輸入差支ナキコト
吾、本取極ハ會商ノ決定ニ影響ヲ及ホスモノニアラス
以上ハ日本當業者側ヨリノ最後案ニシテ若シ蘭印側ニ於テ
受諾不可能トセハ日本側ハ積止ヲ續行スル外ナシト云ヘル
ニ(一)兩人ハ既ニ六百萬碼超過シ居ル際更ラニ七百餘萬ヲ輸
千碼トスルコト
二、輸入者ノ資格ニ制限ヲ附セサルコト
三、未晒布幅三十七吋及其レ以上ニシテ一平方碼ノ重量〇、
一九封度ノモノハ積出ヲ爲サ、ルコト(此ノ點紡聯代表
ト協議ス)359 昭和9年10月10日 長岡日蘭会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

入スルハ無理ナリト云ヘルニ付越田ハモト人爲的制限令ノ爲「キヤ」ノ値段騰貴シ和蘭ヨリノ輸入思フニ任セス代用品ノ輸入増加ヲ見タルモノナレハ制限令自然ノ結果ニ外ナラス若シ市場在荷過多ナラハ注文モナキ害ナレハ實際ニハ輸入ヲ見サルヘク只夕輸入ノ最大限ヲ定メ置キ自然ノ需要供給ニ委カセハ可ナリト答ヘ(ボルスミ、ゲオウエリハ既約品三百萬碼ヲ有スル所右ハ如何ニスヘキヤト問ヘルニ付既約品ハ實行差支ナカルヘク其他ハ何人力取扱フモ自由タルヘクライセンスヲ認ムルコトヲ得スト返シ(二)蘭印側カ單純ニ糸數ニ依リ區別セントスルノ結果所謂ニュー、バライティト稱スルモノノ外「キヤ」制限令公布以前ヨリ輸入セラレツ、アルモノ迄ヲ包含セラルルヲ以テ日本側ハキヤ生地及上キヤラコ丈トスルタメ幅ト重量トヲ標準ト爲サントスルモノナリト云ヘルニ先方ハ此ノ條件丈ハ何等カ妥結ノ途アルヘシト述ヘタリ

尙先方ハ本件カ満足ニ解決ヲ見サルハ甚々遺憾ニシテ代表部間ニテ定メタルコトモ日本當業者ノ意嚮ニテ實行不可能トナルコトアラハ今後ノ會商ニモ惡影響ヲ及ホスノ惧ナキニアラスト云ヘルニ付越田ハ本件ハ貴方ノ依頼ニ基キ主ト

臣宛第一八二号

右我が方品種数量案

10月10日後4時30分發

バタヴィア

越田・ヘルデルン私的会談において我が方品種数量案の提示およびオランダ側フライパン輸入制限令公布の意向表明について

別電

十月十日發長岡日蘭会商代表より広田外務大

第一八一號(極秘) 本省 着
第一八一號(極秘)

貴電第一二五號末尾ニ關シ

昨九日午後往電第一七九號越田「ヘルデレン」私的會談ス
要領左ノ通り(顔振レハ往電第一六九號同様)

一、先ツ越田ヨリ一日會談ノ際蘭側提起ノ品種問題ニ關スル
我方提案ニ對スル反對意見書ニ對シ反駁セル當方意見書
ヲ手交シ之ヲ讀ミ上ケタル上口頭ヲ以テ種々補足的反駁
論ヲナシタル後今日迄委員會乃至私的會談ニ於テ兩代表
部ノ意見ノ一致點發見ニ努力シタルモ雙方カ純理論的主
張ヲ固執シタル結果不幸ニシテ本日迄何等具体的結論ニ
到達セサリシ事ヲ遺憾トス仍テ實際的見地ヨリ雙方カ具
体的「プラン」ニ付主張ノ接近ヲ計リ以テ具体的計數的
結論ヲ發見セントスル委員會本來ノ任務ニ立還ル趣旨ニ
於テ我方ハ雙方ノ純理的原則主張ニ何等ノ「プレジュディ
ス」ヲ與フル事ナク茲ニ今日迄日本側委員ノ主張シ又ハ
提案セル輸入問題ニ關シテ更ニ一步ヲ進メタル實際的具
體案トシテ往電第一七五號ノ末段ニ「前記日本商人ノ輸
入比率ニ依ル商品ノ選擇ハ日本商人ノ自由タルヲ要スヘ
ク從テ日本代表部ハ現行晒綿布制限令ニ見ルカ如キ強制
的ニ或ル一國品ヲ取扱フヲ要スルカ如キ一切ノ義務ハ之

ヲ排除スルコト勿論ナリ」トノ趣旨ヲ附加セル比率案
往電第一七四號二、前段ノ十四品種目(縞サロン類及晒
綿布ノ細別ノ外陶磁器ハ a、統計番號四二三號乃至第四
三五號該當品 b、同第四三六號該當品 c、同第四三七號
乃至第四四三號及第四四五號該當品 d、同第四四四號及
第四四六號該當品 e、同第四四七號該當品 f、同第四四四號
乃至第四四三號及第四四五號該當品 g、同第四四三七號
自轉車及同部分品ヲ a 自轉車 b 全部分品ニ夫々細別セリ)
ヲ記載セル品種案及往電第一七四號三、ノ趣旨ヲ加ヘタ
ヤス」製品ヲ a、綿「メリヤス」肌衣 b、綿靴下ニ竝ニ
自轉車及同部分品ヲ a 自轉車 b 全部分品ニ夫々細別セリ)
交シ之ヲ讀ミ上クルト共ニ本案ハ本委員限リノ試案ニシ
テ日本政府カ承諾スルヤ否ヤハ別問題ナル旨ヲ念ヲ押シ
ル別電第一八二號ノ數量案ヲ一括記載セル我方提案ヲ手
交シ之ヲ讀ミ上クルト共ニ本案ハ本委員限リノ試案ニシ
タル後急速進捗ヲ計ル爲メ蘭側ニ於テモ右案慎重研究ノ
上回答アリ度ク日本側ハ右回答ヲ受ケタル後輸出委員會
ニ進ミ度キ意嚮ナリト述ベタリ

二、右ニ對シ「ヘ」ハ前記我方ノ具体的計數的結論發見ノ提
唱ニ全然同意シタル後我方提案ハ重大案ナルニ付本國政
府ニ請訓ノ要アリ其ノ照復ニ一週間ヲ要スルヲ以テ其ノ
間輸出委員會ヲ開キ度キコトヲ執拗ニ固持セル故越田ハ

右委員會ノ期日ニ付テハ長岡トモ協議ノ上明日何分ノ返

事スヘシト答へ置ケリ

右會見ニ於テ日蘭雙方共純理論的主張ヲ暫ク差置キ速ニ
具体的計數的問題ニ立入ルコトニ付全ク意見ノ一致ヲ見
ルト共ニ數字等ニ付テモ雙方歩寄リスルノ建前トスルコ
トニ諒解成レリ

三、最後ニ「ヘ」ハ實ハ十月一日以後蘭印側ノ自由措置ニ關

スル問題ナルカ蘭印政府ハ今ヨリ一週間後頃ニ black

cast iron frying-pan(土人用黑色鑄鐵製フライ鍋)ニ關

スル輸入制限令ヲ公布スル意図ナリ右發令ハ廉價ナル當

該品ノ輸入ヲ制限シ以テ蘭印産業ヲ保護セサルヘカラサ

ル接迫セル事情ニ基クモノニシテ此ノ點誤解ナキ様願度

前約ニヨリ右政府令ノ内容ハ明十日日本側ニ送達スヘシ

ト云ヘルニ付越田ハ右送達ハ單ナル豫告ニ非スシテ日本

側ヨリ「オブザーベーション」ヲ提起セハ修正ノ餘地ア

リトノ長岡「バント」間ノ約束ニ關シ先方ノ注意ヲ喚起

シ置ケリ

別電ト共ニ蘭ヘ轉電セリ

(別電)	品種別	單位	數量	バタヴィア 10月10日後4時発	
				本省	着
A	平組織ノモノ	千碼	六〇五〇〇	未晒綿布	
B	綾組織ノモノ	千碼	一〇八〇〇〇		
C	其ノ他ノモノ	千碼	一五〇〇〇		
			三〇〇〇		
			九七〇〇〇		
			八九〇〇〇		
			五八〇〇〇		
			五〇〇〇〇		
			一〇〇〇〇		

A 統計番號第四三三號乃
至四三五號該當品

千打

一〇〇

C 同第四三七號該當品 三號及四四五號該當品 同第四四四號及四四六號該當品	B 同第四三六號該當品 同第四三七號乃至四四三號及四四五號該當品 同第四四七號該當品	A 綿製ノモノ 人絹及交織ノモノ メリヤス製品 メリヤス肌衣	A 其ノ他ノモノ 人絹織物 自轉車及部分品 自轉車	B 綿靴下 人絹織物 綿靴下	C 千「コージ」 千「コージ」 千「コージ」 千「コージ」	D 千「コージ」 千「コージ」 千「コージ」 千「コージ」	E 千「コージ」 千「コージ」 千「コージ」 千「コージ」
					四〇〇〇 二五〇〇 一一〇〇	五〇 二五〇〇 一一〇〇	
					八〇 一〇	六九〇 六九〇	
					一五〇〇 一二〇〇 五六〇〇	一九 一九	
					七〇〇〇 三三〇〇 一〇〇〇		
					千臺 千打 千打	千「リットル」 千「リットル」 千「リットル」	千「リットル」
					千「リットル」 千「リットル」 千「リットル」	千「リットル」 千「リットル」 千「リットル」	千「リットル」

〔ポートランド、セメント〕 千 坪 一一八〇〇〇
360 昭和9年10月11日 長岡日蘭会商代表より
廣田外務大臣宛(電報)

フライパン輸入制限令に對し会商の交譲的精神を破壊するものとして反対表明の意向について

バタヴィア 10月11日後3時発

第一八七號(至急、極祕) 本省着
往電第一八四號末尾ニ關シ

一、本問題ハ其ノ實數ヨリミレハ輕微ノ問題ニシテ又之カ取扱邦商ハ二、三ノ輸入者ノ片手間ニ過キス大部分ハ蘭商ノ手ニ依リテユ入セラレ居ルモノナリ從テ邦商ニ割當ラル比率ノ問題モ輕微ノ問題ナリ然シ乍ラ主義ノ問題トシテハ本商品ハ往電第一七四號品種別ニ屬シ當然無制限自由競争ヲ主張スヘキモノニ屬ス從テ第一ニ我方ノユ入問題ニ關スル總括的提案ニ對シ何等ノ回答ヲナサスシテ之ヲ發布スルハ全然會商ノ精神ヲ無視シタル措置トシテ之ニ反対セサルヲ得ス本十一日輸出委員會ノ辟頭越田ヨ

リ蘭代表ニ抗議スル手筈ナリ

三、若シ蘭側カ前項ノ如キ意圖ニ非サルコトヲ陳辯シ單ニ土人工業保護ノ緊急措置ナルヲ以テ之ヲ容認センコトヲ求ムルニ於テハ既ニ我方ニ於テ和蘭本國及蘭印工業保護ノ爲ニハ公正妥當ナル保留ハ之ヲ認ムヘシト主張セル關係上數量ノ制限ニハ反対セサルコト、斯ヘキモ重大ナル主義上ノ問題ハ制限令第二條ノ所謂ユ入者ノ資格及割當ノ不合理極マル規定ニ存ス然カモ先方ノ理由カ士人工業ノホゴニ在リトセハ如斯規定ノ要ナク此ノ際豫テ會商ニ於テ反対セル蘭商ホゴノ規定ヲカカルキツカケニ乘シテ實行セントスルハ到底受諾出來難キニ付本規定ノ削除ヲ主張セントス但シ實際問題トシテユ入制限ヲ行フ以上ハ何等カノ「ライセンス」制ヲ執ラサルヲ得サルニ付第二條

ヲ前年度即一九三三年ユ入者ノ實績ニ比例シテ之カユ入ヲ許可スヘシトノ簡單ナル規定ニ改ムヘキコトヲ提議スル心組ナリ

蘭へ轉電セリ

361 昭和9年10月11日 長岡日蘭会商代表より
廣田外務大臣宛(電報)

海運問題に關する非公式会合においてオラン

ダ側提案に反論について

トシテ第二條ノ規定ハ少クトモ會商ニ依リテユ入割當問題解決スル迄ハ日本人ニハ之ヲ適用セストノ確實ナル保

本省着
バタヴィア 10月11日後6時発

第一八八號

八日午後海運非公式會合要領(越田、姉齒、早間、へ、ホ、及ブラー出席)

イ、越田先ツ蘭側提案ニ對スル意見ヲ述フ(貴電第一一九號ニ依ル)

(1) 蘭印日本間ノ航路

右ハ我カ對案一二所載スル如ク民間ノ協議事項ニシテ(以下前記貴電一ノ第一項)

外領諸港ヘノ航路及沿岸貿易ニ付テハ日本ハ最惠國待遇ヲ受クルノ權ヲ放棄スルコトヲ得ス

外領各港ニ於ケル木材、礦石、鹽其他大量貨物ノ積取ハ我對案一ノ三及四ニ記載スル如ク之レヲ自由トスヘシ

(2)(貴電ノ通リナルモ尙以下ハ左ノ如ク^二〔六〕ヘリ)尙ホ形式上ト事實上トヲ問ハス國旗別ノ取扱トナルベキ取極ニ付テハ絕對ニ反対ナリ

大量貨物ニ付キ船舶ノ國籍ヲ指定スルコトニハ絕對反対ニシテ凡テ企業者ノ自由ニ委スヘシ

積荷割當ニ關シJ社ニ四一ペーセントヲ與ヘントスル

貴方提案ハ我方ノ頗フル意外トスル所ナリ日本政府ハ長岡「^二」トノ談合ニテ容認セラレタル如ク貴國政府カ神戸當業者會商ノ結果ニ對シ何等異議ナク且ツ法外ナル提案ヲ爲サ、ルベキコトノ諒解ノ下ニ此ノ非公式及私的談合ニ入ルコトヲ受諾シタルモノナリ

(3) (4) 及(5)ニ付テハ貴電ノ通り

口、次ニヘハ日本對案ニ關シ左ノ通意見ヲ述フ(右意見覺書ハ九日接受ス)

(1) 日本對案ノ內容ハ蘭側ヲ痛ク失望セシム既往數月間文書及會談ニ依リ少クトモ討議ノ性質及範圍ニ關スル彼我ノ見解ニ付相互ノ諒解成レルモノト豫期シタリ蘭側ハ海運協定カ兩政府間ノ定ムル基礎ニ依リ同時ニ締結セラル、場合ニ於テノミ通商協定ヲ爲シ得ベキモノナルコトヲ再三開陳セリ蘭側カ海運アジェンダニ記載スル議事方法ニ依ルコトニ同意シタルハ全ク日本政府ノ切實ナル希望ニ基因スルモノニシテ(八月八日ノ蘭代表書翰)此ノ方法ハ好マシカラサル國際的影響(Representation)ヲ防止スルヲ目的トス此ノアジェンダノ内容其ノ者ハ日本側ノ受諾スル所ニアラサリシモ右ニ記載

スル原則ニ付テハ蘭側ハ兩政府間ノ議題タルヘキモノ

ナルヲ疑ハサリキ九月八日付日本側ノ覺書中或種ノ事項ハ議題トスルヲ得ストアリシモ同月十八日長岡ハ

ト間ノ會談中ハートハ蘭側アジェンダ所載ノ各點ヲ議題トスルノ自由ヲ留保スヘキ旨ヲ述ヘタルニ對シ之レハ當然ノコト、シテ默諾セラレタリ

(2) 從ツテ蘭側トシテハ右「或種ノ事項」ナルモノカ蘭側ノアジェンダニ依レハ討議セラルヘキ筈ナリシ一切ノ原則的主要事項ヲ事實上包含スルモノナリトハ豫期セサリシ所ナリ日本對案ハ蘭側覺書ノ一切ノ事項ヲ包含スルモ政府間ノ討議事項ト民間討議事項トノ區別ニ依リ政府代表ノ討議中ヨリ主要事項ヲ除外シ專ハラ不干渉主義ノ綱領(アウトラインス)ヲ定メントスルモノナリ

(3) 前記二點ニ於テ日本對案ハ主義上蘭側提案ト異ナル今

右ノ相違ヲ明瞭ナラシメ且ツ此ノ討議ノ重點ニ關シ安

結ニ達スルヲ可能ナラシメンカ爲約言スレハ

一、蘭側ノ希望トシテハ日本蘭印間往復航路ノ回數比率運賃(直通)及「スルー、トラフィック」ハ政府間ノ

討議事項タルヘシ(蘭側提案一、二、三)

二、蘭政府ハ兩政府間ニ於テ一般原則ニ付キ妥結ヲ見タル上ニアラスンハ當事者間ノ會商(蘭側提案一)ヲ爲サシムルノ用意ナシ

三、前記兩原則ニ關聯シ蘭印政府ハ日本對案一ノ二乃至四ニ於テ要求セラル保障及活動自由ニ付キ何等期待ヲ抱カシムルコトヲ得ス(In connection with both principles mentioned above, N.I. Government can in noway open prospect of guarantees and freedom of action, asked for in sub 2-4 under 1 in counter-proposal)反之蘭印政府ハ回數、延長、及積荷比率ニ付キ日本會社トJ社間ノ協定ヲ望ムノミナラス右協定ノ效果ヲ害スヘキ「トランパー」ニ對シ右ノ協定ヲ保護セムト欲ス

四、實際的要點トシテ左ノ二ツヲ指摘ス

(1) 海運協定ト通商協定トハ同一期間タルヘキコト

(日本對案一ノ8)

(2) 蘭側提案五(日本對案一ノ3)ノ討議ニ付テハ前記重要諸點ニ關シ更ラニ意見ノ一致ヲ見ルマテ延期

スルヲ可トスヘシ

要スルニ蘭側ハ双方カ蘭側提案一乃至三ノ原則ヲ實際上基準トスルニアラサレハ海運問題討議ノ成功ヲ期待シ得スト思考ス

ハ、越田ハヘノ所見ニ對シ左ノ通り應酬ス

(1) 貴方ノ「アジェンダ」ニ付テハ當方ニ於テ未タ嘗テ之ヲ基礎トシテ討議スルコトニ同意シタルコトナク而シ

テ過日我方ヨリ提出セルモノハ其ノ對案トモ見ルヘキモノニテ右ノ方法ニ依リ討議事項ヲ區分シ當業者關係ノ事項ハ之ヲ直チニ民間會商ニ移サンコトヲ主張スルモノナリ

(2) 日蘭印間海運問題ノ中心タル日本爪哇間ノ航路ニ付テハ貴方ニ於テ神戸當業者會商ノ結果ニ付大体同意セラレ其他ノ事項ニ付テモ現狀維持ニ異議ナク且ツ法外ナル要求モナササルヘシトノ印象ヲ得タレハコソ日本政府ハ海運問題ヲ政府間ノ非公式談合トスルコトニ枉ケテ承諾シタルモノナレハ民間會商ニ移スコトハ我方提案冒頭ニ記載スルカ如ク一層實際的ナリト思考スル次第ナリ

蘭へ轉電セリ

362 昭和9年10月12日 長岡日蘭会商代表より広田外務大臣宛(電報)

輸出分科会第一回会合におけるフライパン輸入制限令の修正に関する我が方主張および砂糖購入に関するオランダ側提案について

別電 十月十二日発長岡日蘭会商代表より広田外務大臣宛第一九〇号

右砂糖購入に関するオランダ側提案
バタヴィア 10月12日後4時15分発

本省 着

第一八九號
往電第一八七號一、ニ關シ
昨十一日夕輸出分科會第一回會合開催ス(我方ヨリ越田以

下隨員先方ヨリ「ヘルデレン」、「ウェーヤース」(企業家組合長)外數名出席)越田「ヘ」會談要領左ノ通り
一、壁頭^{ヨウタ}越田ヨリ十日送付ヲ受ケタル「フライ、パン」制限令問題ニ關シ冒頭往電一、中段ノ趣旨ヲ強調シタル後同電二、ノ提議ヲナシ本件ニ關シテハ本委員會終了後兩首席委員間ノ私的懇談ニ譲リ度シト述ヘ「ヘ」之ニ同意セリ

二、次テ「ヘ」ハ沿革古キ日蘭印貿易關係最近蘭印經濟狀態ノ窮状ヲ詳説シタル後統計數字ヲ擧ケテ日蘭印貿易尻ヲ概説シテ蘭印ハ今ヤ右帳尻改善ノ必要ニ迫ラレ居ル旨ヲ強調シ特ニ日本ヨリノ輸入激増ニ比シテ蘭印ヨリノ輸出減少ノ情勢ノ下ニアリテハ日本カ蘭印物産ノ買付ヲ爲サヘル以上蘭印トシテハ日本ヨリ多クヲ買ヒ得サル事情ニアリトテ兩國間ノ片貿易調整ノ急務ヲ力説スルト共ニ蘭印ハ日本ニ對シ物産買付ノ増加ヲ期待シ居レリト述ヘタリ引續キ「ウェイエース」ハ糖業ハ蘭印產業ノ最タルモノナリト前置シ爪哇糖業ノ沿革ヨリ始メ今日ノ窮状ヲ訴ヘ之カ救濟ノ爲メ日本ニ於テ特ニ砂糖ノ購入方考慮セラレ度シトテ別電第一九〇號ノ提案ヲナセリ

(3) 日本政府ニ於テハ現行法令上權能ナキ事項ニ付テハ如何ニスルモ之レカ討議ヲ受諾スルコトヲ得サルヘク從ツテ貴意ニ副フコトハ頗フル困難ト思考スルモ貴方ノ意見ハ一應政府ニ報告スヘシ

何ニスルモ之レカ討議ヲ受諾スルコトヲ得サルヘク從ツテ貴意ニ副フコトハ頗フル困難ト思考スルモ貴方ノ意見ハ一應政府ニ報告スヘシ

受ケラルル處蘭側トモ打合ノ次第モアリ本案内容ハ當地ニテセ發表シ居ラサルニ付内地ニ於テモ右發表方御差控

ヲ請フ

委員會終了後前記一、末尾ノ懇談ニ於テ越田ハ新制限令

第一條ノ如キ規定ニ對シテハ日本側ハ勿終始一貫シテ反對シ來レルモノニシテ斯ル規定ハ飽迦現行通商條約ノ

精神ニ違反シ居ル點ヲ縷々説明シタル後右規定ノ削除方

又ハ一九三三年輸入業者ノ實績ニ依ル趣旨ノ規定ニ修正方強硬ニ主張セル處「く」ハ蘭臣ニシテ此種規定認定ノ必要アルコムト固執スルト共ニ一九三三年ニ於テ今後輸

入僅少ナリシ日本製「ハハイ'ズ」カ俄然大部分ヲ占ムルニ至レルコト蘭臣トハナハ一切ノ商品ニ付一九三三年ノ現狀ハ之ヲ否認シ居ルコト尤モ「ハハイ'ズ」ニ

限り取扱比率ハ日本側ニ極メテ有利ナル一九三三年ニ近キヤハヲ採リタルコト(本品輸入總數量ニ對スル日本商

取扱割合ハ一九三三年ニ於テハ一八%ナルモナカ一五%ニ詰上シ居ルコト)等ヲクムニシク述ベタルカ結局前記曰本側ノ提議ハ「ハハイ'ズ」ニ傳く速ニ何分ノ返事ハナ

ベシシテ答^{タリ}

別電ト共ニ蘭^ク轉電セリ

(別 電)

バタカヤト 10月12日後4時發
本 稿 着

第一九〇號

Ia. Japan should become again buyer of substantial quantity of Java sugar. This can only be realised if Japan curtails its own production as accumulation of stocks would aggravate situation considerably. Consequently first measure to be taken should be restriction of Formosa production Formosa being principal production unit of Japanese Empire.

Therefore Japan undertakes to reduce sugar production in Formosa to 470,500 metric tons (8 million Japanese piculs) starting with 1936 crop (1934 plantings) during three consecutive years.

Ib. Second measure should be limitation of production in other parts of Empire including Mandatory

Islands and leased Territory of Kwantung to about present production.

Therefore Japan undertakes to limit sugar production in Japan proper Mandatory Islands and Kwantung to 2,800,000 Japanese piculs yearly.

Ic. In case sugar industry in Manchukwo would develop itself during period of Treaty above mentioned measures would be frustrated.

Therefore any quantity of sugar produced in Manchukwo during period of Treaty should be compensated by corresponding reduction of production-quota mentioned sub Ia and Ib.^{x2}

II. As result of these restrictions Japan will be able to buy quantity of sugar Java has to dispose of.

Therefore Japan undertakes to purchase from N.E.I. and to import into Japan during each of years 1935 1936 and 1937 a quantity of at least 500,000 metric tons of sugar while already in course of 1934 total quantity of at least 200,000 tons shall be

purchased and imported into Japan.

These purchases are to be effected at reasonable prices. Details of how these prices should be fixed may be discussed later.

III. It is evident that aim of N.E.I. to keep Far East sugar markets can only be attained if Japan refrains from extending its exports beyond normal quantity. Therefore Japan undertakes during period of Treaty not to export more than 150,000 metric tons yearly inclusive of exports to leased Territory of Kwantung.

IV. Aim of scheme is that all sugar wanted in Japan in excess of Japan's own restricted production should be provided by Java.

Therefore Japan for duration of Treaty undertakes not to buy any sugar from other countries than N.E.I.

V. Consequence of above is that Japan shall take all such measures as will prevent sugarstocks in Japan-

ese Empire as well during as at conclusion of Treaty-period to exceed normal "iron stock" of 180,000 metric tons increased with quantities of which segregation results from conditions stipulated in Treaty. After expiration of Treaty these stocks shall only be disposed of gradually in manner to be discussed later on.

VI. Central government organisations shall be instituted on both sides to deal with all questions relating to sugar business under Treaty between two countries.

x)(It is to be understood that in above "sugar" includes all assortments inclusive a.o. of "black sugar" and "shirosoato")

編注 本件電報起案時には文中に冠詞が付かれていたが、
発電に際し省略された。

~~~~~

363 昭和9年10月20日 長岡日蘭会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

輸出分科委員会における砂糖など対蘭印輸出  
に關する我が方案提示について

別電 十月二十日発長岡日蘭会商代表より広田外務

大臣宛第一九六号

砂糖に関するオランダ側提案に対する我が方  
案

対案 バタヴィア 10月20日後3時30分発

本省 着

### 第一九五號

往電第一八九號回「關シ

昨十九日夕第一回輸出分科委員會開催(雙方顔振レ前回通  
り)

「勝頭越田ヨリ前回ニ述ベシ如ク日本側ノ買付増加ハ一  
ニ需給及市價等ヲ基礎トスル民間取引ノ自然ノ方法ニ依  
行ハルベク政府ハ努メテ之ヲ勸奨シ得ルニ止マリニ鑑ミ  
輸出關係討議ノ内容ハ特ニ適宜之ヲ公表シ豫メ民間業者  
ニ適確ナル觀念ヲ與フルコト最モ必要ト思考セラル、」

ミナラス會商ノ經過概要ニ付テモ公正ナル輿論指導ノ關係ヲモ考慮ニ入ルルノ要緊急ナルモノアルニ付茲ニ過般提起セラレタル蘭側提案ニ對スル日本側提案ヲナスニ當リ右兩提案ハ勿論今後會商ノ進行ニ伴ヒ必要ト認ムルモノハ一切公表スルノ自由ヲ留保シ度ント前置シ貴電第一九號ノ趣旨ヲモ体シ作成セル別電第一九六號我方反駁提案ヲ手交ノ上朗讀シ蘭側ノ慎重再考方促シタリ

「次テ越田ハ蘭印ヨリ日本ヘノ輸出ニ關シテハ我方ニ於テモ提議事項アリ即チ特ニ現ニ本邦商社カ買付及輸出ヲ欲スル蘭印物產ニ付蘭印政府又ハ「ムラスト」組合等ニ於テ輸出上ノ障碍ヲ能フ除去又ハ緩和スルノ必要アル所以ヲ説明シタル後イ大阪武田ハ毎年六百噸ノ規那皮ノ購入ヲ又日本製糖ハ「ゲダレン」工場製ノ砂糖ノ輸出ヲ夫々希望シ居ルコトニ付並ニ木村、「カム」、「ニア」、「タマル」、「ヤーキサイト」其他ノ鑛物類ノ輸出及積出上ノ便宜及<sup>二</sup>其他蘭印日本人企業ヨリ生スル產物ノ輸出上ノ便宜ヲ夫々供與方ニ付篤ト考慮アルコト至當ナル旨ヲ申入レタリ

三、最後ニ越田ハ冒頭往電」、「「ブルデレン」説明ニ係ル

計表ニヨリテ見ルヘキモノトセハ一九三三年兩國間貿易額ノ比率ハ「一對一・四四トナルモ右ノ内蘭印輸入金額ハ「プライス・ロー・ノート」等不當ナルモノニ據レルモノヲ考慮ニ入ルレハ大体「一對一トナルコト等ノ反駁諸點ヲ詳細記載セル説明書ヲ提出シ篤ト之カ考究方申入レ置ケリ

既前記「一」及「二」ノ提案並ニ統計説明書ニ對シ「く」ハ篤ト研究ノ上何分ノ意見開陳スヘキカ特ニ茲ニ申述度キハ蘭側砂糖提案ニ對スル日本案ニ關スト前置シ日本側ハ蘭側提案ノ眞意ヲ曲解セル様思ヘル(distorted idea of real meaning of the Dutch Proposal)蘭側提案ノ趣旨ハ「一」日本ニ於テ爪哇砂糖購入ヲ考慮シテ貰度キニ在り然カモ砂糖購入ノ曉右ヲ自由ニ再輸出セラレテハ折角ノ對日輸出増進モ無意味ニ終ルヲ思ヒ忌憚ナキ詳細意見ヲ参考程度ニ記載セル迄ナルニ不拘之ヲ捕ヘ日本政府ハ未タ嘗テ斯ルdisrespectful proposalヲ受理セルコトナシト(「カ如キ將又日本及第三國ノ利益ヲ全然度外視(in total disregard)スヘ」<sup>云</sup>フカ如キ激越ナル字句ヲ記載セラレテハ蘭代表部トシテ強ク之ニ反対セサルヲ得ス砂糖ニ關ス

ル日本ノ現状モサルコトナカラ蘭印最重要産業ナルト同時ニ最モ困難ナル狀態ニ置カレ居ル爪哇糖業ノ現状ニ鑑ミレハ砂糖ノミカ日本印蘭間貿易調整上對日輸出増進ヲ計リ得ル物資ナリ若シ日本ニ於テ砂糖買付不可能ナリトセハ右カmenace to the Conference ending in a failureナルベシ仍テ蘭側提案ヲ基礎トシテ考慮スルコト不可能ナリトノ日本案ニ對シテハ飽迄反對スルト共ニ蘭提案ヲ討議ノ基礎トシテ私的會議ニ入り度シト强硬ニ主張セルヲ以テ越田ハ假令委員會案ナリトハ云々如斯キ身勝手ナル條件ヲ附シ「國ノ内政ニ迦呂略シ」<sup>ト</sup>「ネイクテート」スルノ形式ヲ取レルカ如キ案ヲ突付ケラレ何ソ黙視シ得ラルヘキヤ何故ニ何等ノ條件ヲモ附セスシテ單ニ日本側ノ買付考慮ヲ求ルカ如キ單純ナル品目表ヲ提示セラレサリシヤ而モ蘭印物産トシテハ砂糖ノ外石油、メーズ、礦物、其ノ他重要產物モアルニアラスヤト種々辯駁シ論争ヲ重ネタルモ「く」ハ依然前說ヲ繰返スノミニテ一向ラチアカサルニ付越田ハ孰レニスルモ我方ノ態度ハ提案ニ詳載セル通リナリト突彈ネ篤ト我案研究ノ上書面ニ依ル何分ノ回答ヲ得度シト結ヒ「く」也ヲ諾セリ

ハ尙公表問題ニ對シ「く」ハ曩ニ兩首席代表間ノ話合ニ依リ會商關係事項ノ發表ハ其都度事前ニ雙方ノ同意ヲ要ス  
「キコト」<sup>ハ</sup>ナリ居ル以上右約束ニ反スル新規ノ提議ニハ自分トシテ同意スル權限モナキ次第ニ付本件ハ兩首席代表ノ話合ニテ解決シ度シト繰返スノミニテ誇明カサラン  
「付越田ハ右我方ノ意図ヲ「ハルト」ニ傳達方要求スル  
ト共ニ長岡ニモ傳フヘキ眞ツ述く委員會ヲ終了セリ  
六、次テ越田「く」別室ニ於テ懇談ノ際越田ハ蘭側ノ砂糖提案ヲ基礎トシ詰議スルコトニハ日本代表部トシテハ絶對不可能ナルニ付先刻述ヘタル通り何等ノ條件ヲ附セサル  
砂糖ヲ含ム各種重要物產ニ關スル「リーヴナブル」ノ具體案ヲ作成シ之ヲ以テ蘭提案ニ代フルコトスルノ外途ナキ所以ヲ縷説セルニ「く」ハ幾分了解セル模様ナリ  
別電ト共ニ蘭へ轉電セリ

The Japanese Delegation, having duly perused the written proposal regarding the export of sugar handed to the Japanese Committee by the Netherlands Committee at the Committee Meeting on the 11th October, wish to inform the Netherlands Delegation that, for the reasons set forth hereunder, the Japanese Delegation are not in a position to accept the said proposal as a basis of discussion, and that the Japanese Delegation desire that the Netherlands Delegation should reconsider it.

1. The Japanese Delegation have often expressed their willingness to consider with sympathy the present economic difficulties of the Netherlands East Indies and to give as favourable consideration as possible to the desired increase of the N.E.I. export to Japan through the purchase of N.E.I. raw materials. A statement to the same effect was also made by the Japanese Committee at the meeting on the 11th instant. In this spirit of cooperation the Japanese Committee were prepared to

listen to the Netherlands Committee and to discover what possibilities there existed of exporting N.E.I. products to Japan. To their surprise, however, the Netherlands proposal not only says that it is desired that as enormous an amount of sugar as 500,000 tons be annually purchased but also requires that the Japanese Government should undertake to make the purchase. Purchase of sugar, or any other business transaction, should be carried on by merchants according to the principles of demand and supply and the conditions of market. The Government of no country can promise further than to encourage the purchase by giving such facilities as lie within their power.

2. Furthermore, the Netherlands proposal requires a promise from the Japanese Government to reduce to a certain limit the sugar production in the Japanese territory (Ia, Ib), to reduce further the sugar production in Japan in favour of the industry in a third country, viz., Manchoukuo (Ic), not to export

sugar beyond a certain limit (III), not to buy any sugar from other countries than the N.E.I. (IV), and to limit the sugar stock in Japan to a certain quantity (V). Such a requirement is nothing but an interference in Japan's internal affairs. Moreover, the Netherlands proposal attempts to impose upon Japan a unilateral heavy duty to restrict her own affairs relating to sugar industry. Thus by enumerating half a dozen items required to be undertaken by Japan, the Netherlands proposal even purports to dictate her in matters of her own trade and economic policies. No self-respecting sovereign state could accept such a proposal. The Japanese Delegation feel constrained to make a serious observation that the Japanese Government have never received from any other country such a disrespectful proposal as the one under reply.

3. Should the intention of the Netherlands Delegation be to safeguard the predominant position of the Java sugar in the eastern markets by creating an

international agreement, that would be decidedly out of the scope of the present Conference, which has for its sole object the adjustment of the trade relations between Japan and the Netherlands East Indies. Moreover, the Netherlands proposal attempts to lay down rules for the positions of the Japanese sugar and the Java sugar in the market of a third country without the consent of that third country. It also leaves out of consideration the import to the same third country of sugar of another third country. Thus what is expounded in the Netherlands proposal is an arbitrary scheme to seek only the Netherlands East Indies' interests in total disregard of the interests of Japan and such third countries as aforesaid.

For the foregoing reasons, the Japanese Delegation desire the Netherlands Delegation to reconsider the matter and reformulate their proposal.

~~~~~

六 條款

364 聯署の件を申立て
　　^{島田外務大臣宛(電報)}
トホーベハ輸入制限令の輸入証同数量を設置
セニシテリ
　　^{バタクヤマ 10月22日後一時発}
大蔵省
　　^糖
策111〇號
往來策112號(電)
鐵錫制限令110日公布1116日同ニ實施ヤハル尤モ圓頭
社團廿一ノヘ輸入証可總數量六萬個ヲ十一萬五十五キログラム
メリ幾便シ又回電因ノ申數粒ヲ十キログラム若干ヘ回米
糖母111恒日厘メタリ
蘭ベハヤマヘタヘク轉電ヤニ
~~~~~

365 聯署の件を申立て  
　　<sup>島田外務大臣宛(電報)</sup>  
外商連絡本店ニ鑑み砂糖問題なむくの取扱

バタヴィア 10月26日後11時50分発  
本 省 着

## 第二二一號(極秘)

往電第二二一號ニ關シ

「ラ」モ首席代表ニ復歸スヘク先日ノ病氣見舞ノ返禮トシテ來訪スヘク思ハレ之ヲキツカケトシテ會商進捗ノ機運ヲ作ルニ努メ度相當笑込ミタル會談ヲ遂クルノ要アル處本使トシテ此ノ際政府ノ御方針ニ付豫メ承知シ置キタキ諸點愚見申進旁請訓ス

一、會商五ヶ月ニシテ何等纏りタル事項モナク又委員會ノ進展モ先方ノ不誠意ナル態度ニ鑑ミ何等纏ル見込ミナク遺憾ニ堪ヘサルカ豫ネテ具報セル通り最後ノ折衝ハ雙方首席代表ノ私的會談ニヨリ骨子ヲ妥協決定シ形式的ニ全委員會又ハ細目ニ付分科會ニ移スノ外ナシト信ス而シテ其骨子ハ結局砂糖問題ニ付我方ノ讓歩ヲ示シ輸入問題ニ付先方ノ讓歩ヲ求ムルコトニ歸着スヘクト信ス然ルニ今日我國ノ情勢ハ會商前トハ相當ノ變化ナキヤ殊ニ今回ノ蘭側提案ニヨリテ國論ノ同情ヲ得タリト信スル糖業者ニ對シテ果シテ二十五萬噸ノ買付ヲ強要シ得ルヤ代表部トシ

テモ之ヲ保證スルコトヲ許スヤ否ヤ本使ノ私カニ憂慮スル所ナリ此ノ點ニ關シ至急御考慮ノ上何分ノ御指圖ヲ乞フ往電第一九一號請訓モ此ノ趣旨ニ出テタルモノナリ

二、蘭印市場ノ不況土民ノ生活不安ハ益々深刻ナラントシ市場及蘭商ノ地位保護救濟ニ焦慮セル蘭印側モ砂糖問題ニ對シ多クヲ望ミ得スト自覺スルニ於テハ會商ニ對スル失望ト變シ輸入問題ノ如キモ日本ノ廉價品ナクシテハ士民モ蘭商モ立行カサルコトハ承知シナカラ我方ノ要求ヲ容ルルノ雅量ヲ示ササルハ推測ニ難カラス我國ノ生産業者殊ニ大工業者モ此ノ情勢ヲ承知シ會商ノ結果ニ對シ從前ノ如ク多大ノ希望ヲ懸ケ居ラサルヘシトモ思考セラル從テ多クノ犠牲ヲ忍ヒテ迄モ輸入問題ヲ片附クヘシトノ強キ信念ヲ有スルヤ否ヤ三十三年基礎ノ數量及品種別ニ對スル更ニ一段ノ讓歩ヲ敢テスルコトヲ肯スルヤ否ヤヲ御考慮ノ上豫メ往電第一七四號末段御攻究ヲ乞フ

三、前記ヲ考慮スルニ於テハ當地邦商ハ會商ノ成否何レニシテモ困難ナル立場ニ置カルヘシ大資本ノ商社ハ別トシテ中小輸入業者及小賣商ハ今既ニ難局ニ立チツ、アリ比率問題既得權擁護等ニヨリ之カ保護ニ努力シツ、アリト雖

會商ノ中止又ハ決裂ニ最不安ヲ抱クモノハ彼等ナリ會商打切ノ如キ場合ニハ之カ對策ヲ豫メ攻究シ置クノ要アルヘシ  
蘭へ轉電セリ

366 昭和9年10月31日 長岡日蘭会商代表より  
廣田外務大臣宛(電報)

我が方輸入品種数量案に対するオランダ側対  
案について

別電 十月三十一日発長岡日蘭会商代表より廣田外務大臣宛第二八号

右輸入数量に關するオランダ側対案

バタヴィア 10月31日後3時発

本省 着

第二七號

往電第二二六號ノ一二關シ

昨三十日前越田「ヘルデレン」私的會談ス其ノ要領左ノ通り

「先ツ「ヘ」ヨリ輸入問題ニ關スル往電第一八一號一、我

輸入量ノ二割ヲ日本商ニ與ヘントス日本側ハ現行制限ニ於ケル輸入商ノ比率不變更ニ付不服ナルモ現行制限令中ノ不利ハ目下計畫中ノ「サロン」ニ關スル日本商ヘノ割當ノ適用ニ依リ大イニ改善セラルヘシ然シ其他ノ現行制限令下ノ商品ニ對スル割當ハ變更セラレサ

ルヘシ(結局取扱比率ニ付テハ往電第一七一號蘭側提

案ヲ其ノ儘固執シ居ルモノナリ)

(ロ)數量ニ關シ蘭政府ハ絶體<sup>(對)</sup>數量ノ決定ニハ反対ナリ之レ

不合理ニシテ市況不振ノ場合ニ於テモ日本ヘノ割當ハ

其ノ儘維持セラル、コトハナリ關係的ニ日本ノ輸入増

加トナルヲ以テナリ

(ハ)孰レニシテモ數量ニ關スル日本案ヲ差措キ之ニ對シ蘭

委員ハ多數ノ商品ヲ列記セル別電第二一八號ノ如キ對

案ヲ提出スヘシ右案中ノ數量ノ比率(比率ハ蘭側ノ必

要ニヨリ定メタルモノナリ)ハ何等原產國ヲ指定セス

自由ニ一切ノ國ヨリ輸入スルコトヲ得ルモノニシテ日

本側希望ノ通り自由競争ニ委セラルヘキモノナルヲ以

テ對蘭印日本輸出ニ價值アル保證トナルヘシ換言スレ

ハ本會商妥結ノ結果成立スル條約期間中ハ日本ノ輸出

ハ此ノ方法ニ依リ確保セラレ蘭印政府カ第三國ニ割當

ヲ與フル場合ニモ右數量比率ニハ手ヲ付ケ得サルコト

、ナルヘシ

(二)蘭印ニ於テハ貿易均衡ノ爲且ツ第三國ニ對スル割當ヲ

留保スル爲日本ヨリノ輸入ヲ一九三三年以下ニ減少ス

ルコトハ避クヘカラサルコトナリ

(イ)蘭側對案ハ對日蘭印輸出ヲ大イニ增加シ以テ貿易均衡

ヲ圖ルタメ日本側ノ協力ヲ期待シ作成シタルモノナリ

(エ)右説明ヲ受ケタル後越田ハ率直ニ聞キ度キカ貴方ハ比率

品種及數量ニ關シ日本代表部提案ヲ基礎トシテ商議スル

コトヲ拒否セラル、モノナリヤト問ヒタルニ「へ」ハ對

案記載ノ理由ニ因リ然リト答ヘ次テ越田ハ附屬表ニハ果

シテ日本重要輸入品ヲ包含スルヤト間ヘルニ「へ」ハ日

本重要品ノ多クヲ含ムモノナルト同時ニ日本側ノ希望ア

ラハ品目追加方協議ニ應スヘント答ヘタリ仍テ越田ハ右

案ハ日本案トハ全然反対ノ建前ニアルヲ以テ専門委員ノ

研究ヲ俟チタル後ニ非レハ意見ヲ述フルコトヲ得スト答

ヘタルトコロ「へ」ハ輸入業者ノ資格標準問題ニ付歐洲

人商業組合員タルト否トニヨル區別ノ已ムヲ得サルコト

ヲ申出タルヲ以テ輸入業者ノ取扱比率ヲ人爲的方法ヲ以

テ制限セントスルハ條約ノ精神ニ反シ既得權ヲ侵害スル

モノニシテ特ニ今回ノ蘭對案ノ如キ少キ比率ニテハ邦商

ノ經營困難トナルヘキコト及輸入數量ニ關スル蘭案中ノ

比率ハ餘リニ僅少ナル點ヲ指摘シタリ

別電ト共ニ蘭へ轉電セリ

(別電)

パタヴィア 10月31日後7時0分発  
着

第二一八號

本省

| 統計番號 | 品名                                       | 輸入總數量<br>對スル比率<br>(自由競争ニ委セ<br>ラタルモノ)                    | 三三九 |
|------|------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-----|
| 三九九  | 「其他」他ニ掲記セラレサル調製若クハ<br>液狀ノ塗料              | 「其他」他ニ掲記セラレサル調合藥ニシ<br>テ小賣用ニ包裝セラレサルモノ                    | 三四一 |
| 四四八  | 衛生用陶器、移動可能ノモノ                            | 肥料、過磷酸鹽及重過磷酸鹽                                           | 三四二 |
| 四四九  | 「其他」他ニ掲記セラレサル調製若クハ<br>(一四四九號ニ該當スル部分品ヲ含ム) | 各種ノ石鹼類 香入り若クハ香ナキ化粧石<br>鹼                                | 三四七 |
| 六三九  | 紙製品、他ニ掲記セラレサル印刷物                         | 糸 縫糸、綿製ノモノ                                              | 四一九 |
| 四四九  | 「ビスケット」                                  | 人絹織物 他ニ掲記セラレサルモノ                                        | 五五二 |
| 二七   | 他ニ掲記セラレサル漬物若クハ其他ノ方法<br>ニ依リ耐久性ヲ與ヘラレタル野菜   | 織物 浴用手拭<br>綿毛布類                                         | 五七六 |
| 四九   | 綿 治療用及衛生用ノモノ、小賣用ニ包装<br>セラレタルモノ           | 索繩 ケーブル(索繩(包裝用ニ非サルモノ)<br>ノ)、紐及其他ノ索繩(他ニ掲記セラレタル<br>モノヲ除ク) | 五八四 |
| 二八   |                                          | 被服類、胸衣及網地「シャツ」以外ノ他ニ<br>特記セラレサル編モノ及莫大小製品                 | 五八九 |
|      |                                          | 紙、新聞料紙、着色セサルモノ                                          | 五六五 |
|      |                                          | 紙、包装用紙、他ニ掲記セラレサルモノ                                      | 六一〇 |
|      |                                          | 紙、他ニ特記セラレサル書箋(無地ノモノヲ<br>含ム)                             | 六一三 |

|      |                                         |       |
|------|-----------------------------------------|-------|
| 六四〇  | 紙製品 他ニ掲記セラレサル包裝用袋及函                     | 四、七九  |
| 七四一  | 鐵及鐵合金類、琺瑯鐵器皿、指洗碗等                       | 一九、五二 |
| 七四六  | 鐵及鐵合金類、琺瑯鐵器皿、指洗碗等                       | 一、六三  |
| 七六四  | 銅及銅合金類、電線(編ミタルモノ及綱タルモノヲ含ム)絶緣サレタルト否トヲ問ハス | 四九、八〇 |
| 八九〇  | 電 繩                                     | 四四、八〇 |
| 一二二  | 果實 水、肉汁若クハ酒ニ漬ケタルモノ                      | 五八、三二 |
| 四〇三  | 化學製品 「カルシウムカーバイト」                       | 一〇、三五 |
| 四六六  | 窓硝子 普通、着色セサルモノ                          | 九、六八  |
| 五四三  | 靴類 靴、長靴、「スリッパ」等                         | 四、三〇  |
| 二五五〇 | 糸 人絹織糸                                  | 一三、六二 |
| 五六七  | 毛織物                                     | 四、四五  |
| 五六八  | 羊毛交織物                                   | 二、六二  |
| 五八八  | 被服類 他ニ掲記セラレサル編物及莫大小                     | 七九、一五 |
| 七三八  | 製品、綿製胸衣及綱地「シャツ」                         | 一〇、一〇 |
| 八九六  | 鐵及鐵合金類 其ノ他ノ鍛前類(「ラック」)                   | 一、七三  |
| 九一三  | 塗ノ如何ヲ問ハス                                | 一八、九八 |
| 九一五  | 蓄電池(定置式ニアラサルモノ)                         | 一、五一  |
|      | 刃物類 「パンナイフ」                             |       |
|      | 家庭用「ナイフ」                                |       |

|     |            |                                           |
|-----|------------|-------------------------------------------|
| 367 | 昭和9年10月31日 | 長岡日蘭会商代表より<br>廣田外務大臣宛(電報)                 |
|     |            | 蘭印砂糖賣付けに關しオランダ側より同品の<br>東洋市場への再輸出禁止提示について |
|     |            | バタヴィア 10月31日後8時発                          |

第二十九號 本三十一日午前越田「ヘルデレン」私的會談ス要領左ノ通  
リ  
一、「ヘ」ハ砂糖ヲ日本ニ輸出スル問題ニ付テハ例へ日本カ  
爪哇糖ヲ輸入スルモノ之ヲ再輸出セサルヘシトノ條件カ嚴

守セラレサル限り無意味ナリト述ヘタルニ付越田ハスル  
條件ヲ附セラレテハ日本側ノ購入ハ不可能ナルヘク若シ  
日本側ニ於テ若干量ノ買付可能ナリトセハ之カ處分ハ買  
手ノ自由ニ委セサルヘカラス日本人ノ手ヲ經テ極東方面  
特ニ滿洲、蒙古、北及中部支那等ニ賣込ムコトハ夫レ丈  
ヶ爪哇糖ノ市場ヲ確保スル所以ナルヘク極東市場ヲ爪哇  
糖ノ專有ト思フハ誤リニテ「オープ、マーケット」ナ  
レハ如何ナル第三國ノ砂糖カ入込ムモ自由ナルヘシ反對  
ニ日本カ第三國ノ砂糖ヲ仲介スルカ如キコトアラハ爪哇  
糖ニトリ大ナル打擊タルヘク從ツテ日本ノ仲介ヲ得ルコ  
トハ第三國品ノ競争ヨリ免ル、一ノ保障タルヘシト説述  
セルニ「ヘ」ハ若シ日本カ東洋市場ニ於テハ爪哇糖ハ到ル  
處販賣機關ヲ有スルニ付特ニ日本ノ仲介ヲ必要トセサル  
ノミナラス右ノ條件ナキ限り糖業者ヲシテ妥結セシムル  
ノ途ナシト主張セルニ付越田ハ然ラハ右條件ハ日本ヘノ  
砂糖賣込ノ絶体(參)不可缺的條件ニシテ又蘭代表部ノ確定意  
見ナリヤト反問セル處「ヘ」ハ然リト明答セリ  
二、次テ「ヘ」ハ若シ日本カ砂糖ヲ買増シスル時ハ臺灣糖ノ

減產方法ヲ購スルコトモ必要ナラスヤト問ヘルニ付越田  
ハ右ノ必要如何ハ日本側ニ於テ考慮スレハ足レリ元來日  
本ニ於テハ過去ニ於テ砂糖不足ノ爲多年苦キ經驗ヲ有ス  
ルノ他砂糖政策ト米穀政策トハ不可離的密接ナル關聯性  
ヲ有シ甘蔗ノ減反ヲ行フトキハ米產ヲ增加スル結果トナ  
ルヘク日本政府ハ巨量ニ上ル米ノ買上ヶ及貯藏ノ爲巨額  
ノ豫算ヲ充當シ居ル現狀ナレハ甘蔗ノ減反ハ容易ノ業ニ  
非ス茲ニ全ク本代表限リノ思ヒ付ナルカ蘭印ハ砂糖ノ  
「ストック」ニ苦シミ居ルモ昨年八千數百萬盾ノ外米ヲ  
輸入シ居ルニ鑑ミ日本ノ貯藏米ト砂糖トヲ交換スルコト  
ノ可能性アルヤ否ヤヲ研究スルモノ面白カルヘシト云ヒタ  
ルニ「ヘ」ハ蘭印ニ於テモ甘蔗耕地ニ米ヲ植付ケツ、ア  
ルカ今猶若干輸入シ居ルニ付右ハ興味アル話ナルカ「ハ  
ルト」ハ米ニ付テモ知ル處多キニ付右ノ次第ヲ傳ヘ置ク  
ヘシト答ヘタリ  
三、「ヘ」ハ砂糖ノ外種々ノ蘭印產品ヲ日本ニ輸出シ度シト  
テ其ノ品名ヲ並ヘタル後右ノ表ヲ作成ノ上送達スヘキ旨  
述ヘタルニ對シ越田ハ之ニ答ヘス日本ニ依ル砂糖賣付ニ  
關シ蘭側ノ希望スル最少限度如何ト尋ネタルニ「ヘ」ハ

過日ノ提案ニハ五拾萬噸ト記載セシカ實ハ多々益々辨ス

ル次第ナリト答ヘタルニ付越田ハ右ハ問題トナラス爪哇

糖ノ本年中日本ヘノ輸出量ハ拾萬噸内外ナルカ之レトテ  
昨年ヨリ尠ク來年ハ更ニ減少スヘキ筈ナルヲ以テ若シ萬

一二拾萬噸位(現在買付量ヲ含ム)ニテモ日本側ニ於テ買  
付得ルモノトセハ漸減スヘキモノヲ一定量ニ止メ置ク結

果トナリ大ナル利益ナラスヤト問ヘルニ「ヘ」ハ拾萬噸  
位ノ買付増加ハ問題外ナリト答ヘタリ

四、右ノ他海運問題其他ニ付意見ヲ交換シタル後「ヘ」ハ要  
スルニ海運砂糖兩問題ハ最モ困難ナルモノナリト述ヘタ  
リ

蘭へ轉電セリ

368 昭和9年10月31日 長岡日蘭会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

オランダ側の会商見切りに至る理由および対  
応につき意見真申

バタヴィア 10月31日後12時発  
本省 着

一、砂糖問題ニ付我方ノ强硬ナル反駁殊ニ生産制限及輸出制  
限ノ一蹴セラルルヤ我國ノ砂糖政策カ蘭印ノ考フルカ如  
キ簡単ナルモノニ非ス假令相當數量ノ買附ヲ得目前ノ滯  
貨ヲ捨賣シ一時ノ急ヲ救ハムトスルモ海外輸出ニ向ケラ  
ル以上之ヲ武器トシテ自己ノ市場ヲ侵サルニ過キス  
ト失望シ砂糖買附ニ再輸出禁止ヲ絶對必要條件トセハ彼  
等カ終ニ明<sup>(諸カ)</sup>ラメヲ附ケ今回ノ會商ニ對スル蘭印側唯一ノ  
希望ヲ放拋シタルニアリ

二、海運問題ニ就テモ折角私談ノ形式ニテ交渉ヲ開始シタル  
カ民間會商ニテハ蘭印側カ常ニ押サレ氣味ニテ到底期待  
スル結果ヲ齎サス政府間ノ交渉取極メニヨリ輸入問題ノ  
交換條件トシテ自己ニ有利ニ解決シ民間トハ形式的ニ之  
カ細目協議ヲ爲サシムルノ企圖ナリシカ之レモ今日迄ノ

交渉ニテハ現状維持カ高々ナリトノ見切ヲ附ケ失望ニ終  
リシモノナリ

三、既ニ今回ノ會商ニヨリテ大ニ得ル所アルヘシトノ期待ハ  
前記一、二、ノ如ク裏切ラレタルヲ以テ蘭側ハ自己ノ  
讓歩ト認メ居ル輸入問題ニ付會商當初ノ主張即チ輸入制  
限制ハ主權ノ絶對自由ニ屬シ他國ヨリノ拘束ヲ許サス  
「ライセンス」制ニヨリテ自國ノ輸入商ヲ保護シ「クオ  
タ」制ニヨリテ外國ト「バータ」ヲ行ハムトノ政策ヲ  
頑強ニ固執シ蘭本國及土人工業保護ニ關スル我方ノ妥協  
誘導ニハ見向キモセサル狀態ニテ

アリ主義上ハ固ヨリ實際的見地ヨリモ到底妥協折衷ナト  
受入ル餘地ナキコト明ナリ

斯クノ如キ事由ニ因リ蘭側カ打切りノ態度方針ニ出テタ  
ル以上如何トモ手ノ盡スヘキ途ナク將又此ノ狀勢ニ就テ  
ハ曩ニ往電第二一二號ヲ以テ申進シタル通<sup>(畢カ)</sup>竟蘭印當局  
カ世界殊ニ極東ノ大勢ニ通セス日本及英領印度ノ自給政  
策ニヨリ既ニ破壊セラレタル爪哇糖ノ東洋ニ於ケル獨占  
優越ノ地位ヲ今向夢ミ居リ蘭印ノ戰時及戰後ノ好況並ニ  
從順ナル土民搾取ノ殖民政策ノ成功カ何時迄モ忘レラレ  
ス今尚自己陶醉ヨリ覺醒セサルニ基因ス今日ノ狀勢ハ屢  
次報告ノ如ク市場ノ不況土民生活ノ不安引イテ蘭人巨商  
ノ苦境歐洲諸國トノ「バータ」協定ノ思ハシカラサル  
コト等打重リ一朝ニシテ經濟立直シノ妙案モナカルヘク  
行詰ルハ必然ナリ併シ行詰ル處迄行カネハ覺醒セス見透  
シモツカス固執スルハ蘭印當局ノ特性ナルヲ以テ茲處暫  
ク靜觀シ其ノ不自然ナル政策カ結局自己ニ不利ナルコト  
ヲ體験シテ彼等ノ覺醒スルヲ俟ツテ更ニ會商ヲ再開スル  
ノ外ナルヘシト思考ス

末尾三種ヲ追加スルナト砂糖ニ關スル前記一、ノ次第二  
依リ其前作成セラレ居タル數量案ヲ急ニ變更シタル形跡

### 第二二二號(極祕)

往電第二二〇號ニ關シ

會商五ヶ月ニ亘リ何等ノ妥結ニ達セス終ニ中止ノ止ムナキ  
ニ到ラムトセルハ本使ノ深ク遺憾トスル處ナリ蘭側カ斯ク  
會商ニ見切リヲ附クルニ至リシ理由ハ左ノ通り推斷セラ  
ル

一、砂糖問題ニ付我方ノ强硬ナル反駁殊ニ生産制限及輸出制  
限ノ一蹴セラルルヤ我國ノ砂糖政策カ蘭印ノ考フルカ如  
キ簡單ナルモノニ非ス假令相當數量ノ買附ヲ得目前ノ滯  
貨ヲ捨賣シ一時ノ急ヲ救ハムトスルモ海外輸出ニ向ケラ  
ル以上之ヲ武器トシテ自己ノ市場ヲ侵サルニ過キス  
ト失望シ砂糖買附ニ再輸出禁止ヲ絶對必要條件トセハ彼  
等カ終ニ明<sup>(諸カ)</sup>ラメヲ附ケ今回ノ會商ニ對スル蘭印側唯一ノ  
希望ヲ放拋シタルニアリ

二、海運問題ニ就テモ折角私談ノ形式ニテ交渉ヲ開始シタル  
カ民間會商ニテハ蘭印側カ常ニ押サレ氣味ニテ到底期待  
スル結果ヲ齎サス政府間ノ交渉取極メニヨリ輸入問題ノ  
交換條件トシテ自己ニ有利ニ解決シ民間トハ形式的ニ之  
カ細目協議ヲ爲サシムルノ企圖ナリシカ之レモ今日迄ノ

アリ主義上ハ固ヨリ實際的見地ヨリモ到底妥協折衷ナト  
受入ル餘地ナキコト明ナリ

斯クノ如キ事由ニ因リ蘭側カ打切りノ態度方針ニ出テタ  
ル以上如何トモ手ノ盡スヘキ途ナク將又此ノ狀勢ニ就テ  
ハ曩ニ往電第二一二號ヲ以テ申進シタル通<sup>(畢カ)</sup>竟蘭印當局  
カ世界殊ニ極東ノ大勢ニ通セス日本及英領印度ノ自給政  
策ニヨリ既ニ破壊セラレタル爪哇糖ノ東洋ニ於ケル獨占  
優越ノ地位ヲ今向夢ミ居リ蘭印ノ戰時及戰後ノ好況並ニ  
從順ナル土民搾取ノ殖民政策ノ成功カ何時迄モ忘レラレ  
ス今尚自己陶醉ヨリ覺醒セサルニ基因ス今日ノ狀勢ハ屢  
次報告ノ如ク市場ノ不況土民生活ノ不安引イテ蘭人巨商  
ノ苦境歐洲諸國トノ「バータ」協定ノ思ハシカラサル  
コト等打重リ一朝ニシテ經濟立直シノ妙案モナカルヘク  
行詰ルハ必然ナリ併シ行詰ル處迄行カネハ覺醒セス見透  
シモツカス固執スルハ蘭印當局ノ特性ナルヲ以テ茲處暫  
ク靜觀シ其ノ不自然ナル政策カ結局自己ニ不利ナルコト  
ヲ體験シテ彼等ノ覺醒スルヲ俟ツテ更ニ會商ヲ再開スル  
ノ外ナルヘシト思考ス

唯會商中止ノ跡仕末ニ付二三心附ノ點申進ス

(1) 差當リ邦商ノ既得權擁護輸入制限令ノ緩和ニ付「モダス・ビビンデ」ニテモ協定セムト試ミタルモ冒頭往電末段ノ通り「ラ」ハ問題トモセス致シ方ナシ  
 (2) 邦商ノ地位ニ就テハ曩ニ營業特許令發布ニ先チ取換ハシタル公文ニヨリ小商人及小企業者並既存營業ニハ適用ナキコトヲ保證セラレタルヲ以テ之ニテ満足スル外ナシ  
 (3) 今後輸入制限令ヲ濫發スルヤ否ヤニ就テハ豫想シ難キモ「ウ」ノ時代ノ考ヘ方及空氣ハ今日大ニ變化セル事ハ推知ニ難カラス殊ニ晒サロンノ制限令カ却テ其ノ主働者タル「ツエンテ」及蘭商ヲ苦メ一般消費者ハ獨り土人ノミナラス蘭人迄モ不滿ヲ洩セル實情ニシテ日本品ナクシテハ立往カサル當地市場ナルニ付假令今後新制限令ヲ發布スルトシテモ極端ナル行動ニハ出テサルヘク又當地現在ノ不況ニ鑑ミ輸入量モ自然減退ノ趨勢ヲタトルヘキニ付本邦製造業者ニ取り餘リ大ナル打擊トハナラサルヘシ  
 (4) 萬一日本品ニ對シ不當ノ制限ヲ實行スル場合ニハ之ニ對シ報復的手段ヲ以テ對抗シ其ノ反省ヲ促スノ外ナキ

處「サロン」賣止、陶磁器積止、未晒積止ニ於テ當初ハ充分其威力ヲ發揮シタルモ近來「サロン」ノ拵賣陶磁器ハ制限令停止後直ニ組合ノ豫定數以上ノ賣込ヲ要求シ未晒モ賣止實行後間モナク僅數ヶ月ニ亘リ一定量ノ積出ヲ要求スル等ノ事實ニヨリ蘭印側殊ニ商人側ハ日本ノ結束力ヲ見縊リ初メ積止ヲモ輕視スルノ傾向見エ居ルニ付今後此ノ威力ヲ報復手段トシテ利用スルニハ一段ノ結束ト決心ヲ要ス  
 (5) 結局會商中止ニ依リ殊ニ「ライセンス」制ノ爲ニ打擊ヲ蒙ルハ邦人輸入商輸出商就中爪哇ニテ獨立經營セル中小資本ノ輸出入商ニシテ引イテ小賣商ナルモサナキタニ會商ノ前途ニツキ不安ノ念ニ驅ラレ居ル彼等ハ今後不況ト壓迫トノ兩面ヨリ甚大ナル打擊ヲ蒙リ得ヘク其際ノ對策往電第二一二號三、申進ノ通り事前ニ御講究置相成タシ  
 蘭へ轉電セリ

369 昭和9年11月12日 広田外務大臣より  
 長岡日蘭會商代表宛(電報)

ノ意向モ確メタル上(結局我輸出業者ヲシテ砂糖ヲ買ハシムルコトトナラハ蘭印側ニ於テ彼等輸出業者ノ特ニ賣ラント欲スルモノノ割當比率ヲ増大スルノ要アルヘキコト自明ノ理ナリ)確定案追電スヘキモ蘭側カ貴電第一九〇號ニ代ルヘキ何等妥協案ヲ提示スルニ非スンハ之以上關係各方面ヲ追求スル譯ニ行カサルニ付前記ノ次第適宜説明ノ上數字ニ關シテハ先方ヨリ右妥協案ヲ提出セシムル様御措置アリタシ尚本省目下ノ考ヘトシテハ蘭印側ニ於テ前記數量ニ満足セサル場合ニハ政府ニ於テ買付ヲ約シ得サル次ニモアリ全然別案トシテ將來各年ニ於ケル我カ砂糖買付量カ一九三三年ニ於ケル實績ニ止ル場合即チ現狀維持ノ場合ヲ豫想シテ邦品蘭印輸入數量及之レカ邦人ニ依ル取扱比率ヲ等シク現狀維持ノ基礎ニ依リ決定セシメ我方ノ砂糖買付カ右ヲ超過スル場合ハ其ノ購入者ニ對シ購入料ニ應シ特別輸入「ライセンス」(他人ニ讓渡シ得ヘキ)ヲ與フルコトトシ以テ砂糖買付ヲ刺戟スル様適當ノ方法ヲ講スルコト一策カト思考シ居レリ  
 三、海運問題ニ付貴電第二二九號ノ五、先方提案ヲ見タル上  
 何分ノ審議ヲ進ムルコトト致度

二、就テハ砂糖問題ニ付テハ商工省ト協力シ近ク我輸出業者  
 (本項ノミ極秘)

四、最近來栖局長和蘭公使ト雜談ノ際局長ハ事ノ性質上本邦

側ヨリ申出スヘキ筋合ナラサルモ別懇ナル友人トシテ全然個人的思付キヲ述ヘレハ輸入綿布ニ對シ蘭印側ハ僅カニ二割以下ノ關稅ヲ課シ居ルニ過キサルヲ以テ蘭印消費者ニ擔稅能力有ルニ於テハ關稅以外ニ國籍ニ依リテ差別ヲ設ケサル適度ノ輸入「ライセンス」ヲ徵收シ之ニ依リテ得タル収入ヲ以テ糖業ノ救濟ナリ砂糖輸入ノ促進ナリヲ計ルモ一策ナラスヤト述ヘ置キタル趣ナリ右御参考迄五、尙我最後案ハ上記ノ諸點御含ミノ上更ニ一應ノ御交渉ヲ試ミラレ愈々會商ヲ打切ルヘキヤ否ヤヲ決スヘキ機會ニ直面シタル際閣議ニ於テ決定ノ豫定ナリ

蘭ヘ轉電セリ

370

昭和9年11月15日

長岡日蘭会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

買付け砂糖再輸出および制限品目問題などへ  
の対応につき請訓

バタヴィア 11月15日後6時30分発  
本省 着

電一ト一致セサルハ再輸出問題ニ關スル條件ナルカ右ハ蘭側ノ最重要視スル點ニシテ穴勝無理ナラサルコト存ス仍テ全然私見トシテ市場民間協定案ヲ以テ先方ノ底意ヲ採リ稍乘氣ナル様見受ケラル處砂糖問題確定案御決定ノ際ハ本件ニ關シテモ的確ナル御指示ヲ仰キタシ(口)數量ニ就テハ先方ニ於テモ明年ヨリ一噸モ買付クル必要ナシトノ陳述ニヨリ日本政府ノ誠意及困難ナル立場ヲ了解スルト同時ニ驚キ且失望ノ色ヲ顯ハシ居リ果シテ三十三年度ノ買附量三ヶ年繼續ヲ以テ満足シ輸入問題ニ付我方ノ希望ヲ容ルルヤ甚大ノ疑問ナリ最後案ニ於テハ前記數量以上ノ買附量ニ付御考慮ヲ煩ハシタシ

二、(1)右ニ關聯シ輸入問題ニ就テハ當方提出ノ具體案ヲ放棄シタル次第ニハラサルモ雙方ノ主義理論ニ拘泥シテハ何時迄モ妥結ノ途ナク先方ノ提案ノ形式ニ從ヒツ、實質上當方ノ希望ニ近キ内容ニ到達セシメントノ趣旨ニ基キ

第二三四號(極祕)

往電第二二九號一、ノ四項目協議ニヨリ目的ヲ達セムト折角努力中ニシテ往電第二二三三號越田ト「ヘ」ノ協議本使ト「ラ」ノ會談モ右ノ目的ニ外ナラス制限品目表ノ立前力日本ハ右表以外ハ絕對自由ノ主義蘭側ハ右以外ノ商品ハ制限自由ナリトノ對立的主張ナルモ(口)ノ保障タニ獲得セハ結局實質ハ同様ナリト思考シ今ヤ重要輸入品ヲ可成品目表中ニ掲載セシメ多少ノ制限ハ甘受シテモ右等商品ノ大輸出入邦商ノ地位ヲ確保スルコト得策ナリト信ス他方中小輸出業者並之ト密接關係ヲ有スル小賣商保護ノ爲ニハ雜貨類ヲ出來得ル限り制限外ニ置カムトスル方針ニテ具體案攻究中ナルカ右ニ關シ何等今日迄御指示ナク前記方針ニテ進捗ヲ計リ差支ナキヤ就中制限品目表(蘭側提案)ニ付御詮議ノ結果至急御訓電ヲ乞フ

(口)次キニ割當數量ノ問題カ難關ナルカ漸ク蘭側モ割當比率ノ基準數量明示ニ付承諾セルモ要ハ「バーター」ノ目的達成ノ爲砂糖買附量ニ比例セシメントノ底意ナルハ推測ニ難カラス然ルニ冒頭貴電一、ニ依レハ我輸出業者ハ

砂糖買附ノ負擔ノ條件トシテ割當數量ノ増大ヲ固持シ本省御考慮中ノ別案ナルモノモ砂糖買附ト輸入數量制限ト

371 昭和9年11月20日

広田外務大臣より  
長岡日蘭会商代表宛(電報)

サロン積止め解除に対する輸出數量増加など

## 関係業者の意向について

本省 11月20日後発  
バタヴィア 11月20日後着

第一五一號

貴電第二二七號ニ關シ

御來示ニ基キ「サロン」積止メ解除方關係業者ニ懸念中ノ處關係業者モ積止メ解除ニハ同意ノ意向ヲ示スト共ニ第三次輸入制限令實施ニ當リテハ

一、總數量ノ決定ニ當リ一九三二年度ノ我蘭印向ケ「サロン」

輸出總量ヲ確保シ度キコト

二、制限品種別中 b-dノ如ク將來性アル種類ノ輸入數量ヲナルヘク多量確保シ度コト

三、在蘭印日本商社ノ輸入權ヲナルヘク一九三三年度ノ實績ニ依リ賦與セラレ度キコト

ノ希望ヲ申出テタリ右ハ既ニ貴代表ニ於テモ充分先方ニ申入レ濟ミノコトトモ存セラレ又關係業者モ右希望速急實現ヲ期待シ居ル次第ニハラサルモ右積止メ解除ノ口實ヲ見出ス爲ニハ何等カ我方ニ有利ナル條件獲得ノ必要アルヤニ思考セラルルニ付少クトモ冒頭貴電ノ一ノ後段及二ノ保障

カ往電第二三三號一、「ヘ」ノ陳述ニ鑑ミ目下當方カ準備ヲ急キ居ル右對案ノ要點左ノ通リナルニ付右豫メ御承認ヲ請フ

(イ)品種ニ付テハ往電第二二八號案四十三品種ニ現行制限品目(ビール及セメントヲ除ク)及往電第一八一號我方品種案中ニ掲記セル未晒綿布、雜綿布、陶磁器(衛生陶器以外ノモノ)、自轉車及部分品、織糸(人絹絲以外ノモノ)並ニ新ニ硝子製品、鐵合金及鐵製品類、「カンバス」靴、「ベニア」函、「タイヤー、チューブ」ヲ追加記載ス

(ロ)數量ニ就テハ(a)自由競争ノ觀念ヲ排撃シ明確ニ日本ニ對スル國別割當數量ヲ求ムルコト(b)各品種毎ニ右數量ヲ決定シ其ノ基準ハ主トシテ一九三二年ニ求ムルモ品種ニ依リテハ或ハ一九三三年又ハ一九三三及三二年兩年ノ平均ヲ採用モノアリ

尚比率ニ付テハ往電第一七一號先方比率案最高限度ニ付屢次ノ本使「ラ」間折衝ニ依リ目下蘭國政府ノ回訓ヲ待チ居ル次第ナルニ付先方ヨリノ何分ノ回答ヲ待チテ處理スル考へナリ

取付ケ方御配慮アリタク其ノ結果ヲ見テ解除セシムルコト

ト致度

蘭へ轉電セリ

メダン、スラハヤニ暗送アリ度

。。。。。。。。。

372 昭和9年11月20日 長岡日蘭会商代表より

広田外務大臣宛(電報)

輸入品種および数量に関するオランダ側提案

に対し品種の増加および国別割当数量を求める我が方対案の概要について

バタヴィア 11月20日後10時発

本省着

第一三七號(極祕)

往電第二三三號ニ關シ

本二十日午後越田ハ「ヘ」ト會談シ貴電第一五一號御來示ノ趣旨ヲ申入レタル後速ニ蘭側ニ於テモ改メテ砂糖ニ關スル新提案ノ提起アランコトヲ求ムルト共ニ日本側ヨリハ近ク往電第二二七號及第二二八號蘭側輸入提案ニ對スル對案ヲ提出スル運ヒニ至ルヘシトノ趣旨ヲ提議スルツモリナル

蘭へ轉電セリ

373 昭和9年11月22日 広田外務大臣より

長岡日蘭会商代表宛(電報)

オランダ側が砂糖再輸出制限を固執する場合には基準量以上の買付けに特別輸入ライセンス方式導入を代案として交渉方訓令

本省 11月22日後発  
バタヴィア 11月22日後着

第一五四號

貴電第二三五號ニ關シ

一、蘭側ハ砂糖再輸出禁止ヲ必須條件ナリト主張シ居ルモノ來砂糖買付ケハ貿易均衡策トシテハ買手ノ欲セサルモノヲ強ヒントスル點ニ於テ無理ナルノミナラス既ニ農民ノ手ヲ離レ居ル柵上ケ糖ノ買付ケカ少クトモ直接ニ本邦商品ノ顧客タル蘭印民衆ノ購買力ヲ増加セシムヘシトモ思考シ得ラレス往電第一四八號ノ通り自國產糖スラ輸出セサルヘカラサル日本カ蘭印糖ヲ買付ケントスルハ一二蘭側ノ窮狀ヲ推察シテノ措置ニシテ實ハ燃料國策ノ見地ヨ

リ曰下研究中ノ臺灣糖ノ一部ヲ無水「アルコール」トナ  
スコト(本件ハ「ガソリン」ノ割安、無水「アルコール」  
製造設備ノ缺除、原料高等ニテ多額ノ補助金及混用強制  
法制定等ヲ必要トシ急速ノ實現困難ナリ)ヲモ考慮ニ加  
ヘタルモノナルニ鑑ミ先方トシテモ再輸出問題ハ勿論本  
件全体トシテ歩寄ルヲ適當トスヘシ

二、支那市場ヲ南北ニ分ツタルモ其ノ境界ノ定メ方最初ノ  
買手カ轉賣セル場合ノ處分輸出國產糖トノ關係等種々困  
難ナル問題ヲ生シ實行殆ト不可能ナルヘク

三(2) 次キニ在暹羅公使發本大臣宛電報第一六三號ニ依レハ四  
英國商社ノ手ニ依リ爪哇糖ノ暹羅輸入行ハレ居ル趣ナル  
ノミナラス香港及同地經由廣東方面ヘノ輸入モ貴官御指  
摘ノ通英國商ノ取扱フ處ナリ然ラハ日本商ノ手ヲ經テ爪  
哇糖カ再輸出セラルコトニ關シ先方ニ於テ斯ク頑強ニ  
反對スヘキ表面ノ理由ナカルヘキ筈ナリ

四、先方ニ於テ強イテ砂糖再輸出禁止ヲ固執シ之レカ爲不幸  
會商不調ニ終リタリトセハ日本國內ノ輿論ハ勿論同一立  
場ニアル各國ハ何レモ我カ國主張ノ公正ナルヲ了解スヘ  
ク又蘭印側トシテ之ヲ實利ノ見地ヨリ見ルモ會商不成立

二、隨ツテ蘭印側ニ於テ過大ナル數量ノ買付ヲ要望シ又ハ砂  
糖再輸出禁止ヲ固執セントスルニ於テハ代案トシテ往電  
第一四七號ノ一、ヲ基礎トシ當方輸出業者ノ奮發次第  
テ右輸出業者ノ利益ヲ増進シ得ル仕組トシ關聯ノ基準點  
ニ關シテハ一應前記往電案ヲ討議ノ基礎トシ御交渉アリ  
タシ

六、尙序イテ乍ラ往電第一四七號所報棉業關係當業者トノ協  
議ハ其ノ後二回催シ問題解決ノ鍵カ彼等ノ手ニアルコ  
トヲ充分納得セシメ具体的數字算出方懲憲シ置キタリ  
蘭ヘ轉電セリ

374 昭和9年11月22日 長岡日蘭会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

神戸会商の比率による往航積荷実施との我が方  
船会社の意向に鑑みオランダ側當業者の神戸会  
商再開受諾促進方ヘルデルンに申入れについて

バタヴィア 11月22日後1時30分発

本省

着

第二三九號

往電第二三七號ニ關シ

二十日越田「ヘ」ト會談ス要領左ノ通り

一、越田ハ「ヘ」ニ對シ海運ニ關シ十九日貴下ヨリ海運業者  
私的會商ノ場所ニ付言及セラレタルカ日本當業者ハ本年  
初頭ノ神戸會商ノ繼續トシテ斷然同地ヲ主張シ居ルニ付  
今假リニ「バタヴィア」ヲ提議セラル、モ徒ニ問題ヲ紛  
糾シ會商ヲ遲延セシムルニ過キサルヲ以テ此際蘭側當業  
者ヲシテ速ニ神戸會商ノ再開ヲ受諾セシメラル、様配慮  
アリ度キ旨述ヘタル處「ヘ」ハ蘭側當業者カ神戸ニ赴ケ  
ハ日本側當業者ハ多勢ニシテ且共同的態度ニ出ツヘキコ  
ト必定ナルヲ以テ蘭側當業者ハ威壓セラル、ノ惧レアリ

ト愚知<sup>翁</sup>ヲコホセルニ付越田ハ日本當業者間ニ於テモ各社  
ノ利害關係複雜シ居リ曩ニモ現ニ比率問題決定ノ際種々  
ノ異論ノ爲容易ニ議纏ラサリシヲ政府斡旋ノ結果漸ク妥  
協出來シ様ニ記憶ス日本政府ハ今後民間會商開催ニ至ル  
トキハ妥結ニ到達ノ爲極力斡旋努力スル筈ナレハ前記ノ  
懸念ハ無用ナルヘシト種々説明シ次テ「ヘ」ハ假令神戸  
民間會商開催ニ至ルトモ大体ノ原則定リ居ラサレハ容易  
ニ纏ラサルヘシト云ヘルニ付越田ハ日本「マカッサル」  
及爪哇間ノ航路等ニ於テハ航海數運貨率積荷等ニ關シ既  
ニ原則成立シ居ル次第ナレハ別ニ原則ヲ定ムルノ必要モ  
ナカルヘク要ハ民間業者カ自由ニ之等原則ヲ決定シ得ヘ  
キ性質ノモノナルニ付政府カ干涉スヘキ筋合ニ非スト答  
ヘタル處「ヘ」ハ積荷比率問題ニ付依然J社ノ現有勢力  
ヲ三一%以上ナリト主張シ又日本郵船割込ミノ場合ノ保  
障ナキコトニ觸言セルニ付越田ハ種々應答シ要之ニ若シ  
増率ヲ得ンカ爲商議セントスル儀ナラハ寧ロ之ヲナサ、  
ルニ如カスJ社カ一層大ナル比率獲得ノ爲種々手段ヲ講  
シ居ル内情ニ付テハ日本當業者ハ充分之ヲ知悉シ憤慨シ  
居ル次第ニシテ又郵船割込ミ問題ノ如キモ神戸ニ於テ商

議ノ結果何トカ打開ノ途モ發見シ得ルヤニ思料セラル、旨力說シタル後實ハ本邦船會社ハ「プール」問題カJ社ノ不誠意ノ爲今日迄未解決ノ儘トナリ居ルニ忍耐シ切レス曩ニ神戸會商ニ於テ凡ボ纏リタル比率ニ依リ十二月一日ヨリ往航積荷「プール」ヲ實行セントシ若シJ社之ニ應セサルトキハ日本當業者間ノミニテ實施スヘキコトヲ近々J社ニ通告セントスル意図ナルカ如ク日本政府ハ「バタヴィア」會商圓滿進捗ノ爲斯ル手荒キ方法ヲ執ルコトニ對シ百方慰撫ニ努メツ、アルモ若シ當業者カ之ヲ敢行スル場合ニハ政府モ現行法規上之ヲ押フルコト能ハサルヘク結局自由競争ノ出現トナリ日本爪哇間ノ海運上一大混亂ヲ招來スルノ惧レモアルニ付速ニJ社ヲシテ神戸會商再開ヲ諾セシムルコト急務ナルヘシト云ヘルニ「ヘ」ハ頗ル驚愕ノ色ヲナシスル狀態ニタチ至ラハ蘭印側ニ於テモ特別立法ニ依リ自國海運ノ保護ヲ講スルノ要アルヘクスル非常手段ニ出ツルコトアルヘキヲ日本側ニ於テ知悉シ居ル儀ナリヤ又日本海運業者カスル極端ナル措置ニ出ツル場合日本政府及對蘭印輸出關係業者ハ對蘭印貿易ニ及ホスヘキ非常ナル影響ヲ顧念シ何等取締リ又

ハ反対運動ヲナシ得サルモノナリヤト反問セルニ付越田ハ日本政府ハ會商目下ノ情勢ニ鑑ミ極力宥メツ、アルモ若シ當業者カ斷然タル態度ニ出ツル場合強制スルノ手段モナカルヘク又對蘭印輸出業者トシテモ其ノ實害ナキ限り團結シテ反対運動ヲ起スコトモナク場合ニ依リテハ反ツテ同情的聲援ヲナスコトモアルヘシト思ハル要之本官ハ蘭側當業者カ神戸會商ニ應スル否ヤヲ本月廿四、五日頃迄ニ聞知致度ト云ヘルニ「ヘ」ハ右ノ如キ「ショート、ノーティス」ノ通牒ヲ發セントスル日本當業者ノ態度ハ意外トスル處ニシテ突然蘭側ニ對シ「ディクテート」セントスルモノナルカ兎ニ角至急會議ヲ開キ蘭側ノ態度ヲ決定スルコト、スヘシト答ヘタリ

二、右私的交渉終了後越田ハ砂糖問題ニ關シ屢々説明シタル通リ日本政府ハ關係業者ト協議ノ必要上蘭側ノ砂糖提案ヲ待チ居ル次第ヲ述ヘ此ノ際至急新提案ノ提起ナキ限り本問題ハ日本政府ニ於テ協議不可能ナリト云ヘルニ對シ「ヘ」ハ例ニ依リ日本側カ再輸出禁止ノ必須條件ヲ受諾スルヤ否ヤヲ知ルニ非サレハ提案モ無益ナリト答ヘタルニ付越田ハ今日ニ於テハ會議ノ急速進行ノ爲雙方カ努力

シツ、アル折柄ナレハ蘭側ヨリ試案トシテ輸出禁止ノ希望條件ヲ附シテ提案セラレテハ如何又數量ニ付テハ四、五十萬噸ト云フカ如キ法外ナルモノハ問題外ナルニ付「リーズナブル」ノモノナルコトヲ要スト云ヘルニ「ヘ」ハ目下雙方共急速妥結ヲ計リツ、アル際ナレハ一應代表部トモ協議スヘシト答ヘタリ

三、最後ニ越田ハ冒頭往電末段ノ日本商ノ比率ニ關シ蘭國政府ヨリ回訓ヲ受領セリヤ否ヤヲ確メタル處「ヘ」ハ未タ入手ニ至ラサルモ數日中ニハ接到シ得ヘシト答ヘタルヲ以テ越田ハ右取扱比率問題ハ日本側ニ於テ重要視シ居ルモノ、一ナレハ回訓到着次第何分ノ儀通知アリタシト附言セリ

蘭へ轉電セリ

375 昭和9年11月22日

長岡日蘭会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

サロン輸入總量増加の可能性および暫定的輸入制限令公布の事情などにつき報告

別電 十月二十二日発長岡日蘭会商代表より広田

外務大臣宛第二四一号  
貴電第一五一號ニ關シ  
第一四〇號

本省  
着  
バタヴィア 11月22日後9時45分発

一、總數量ヲ一九三二年程度ニスルコトハ何レ會商ニ於テ交渉スヘキモ往電第二三八號ニノ數量中自由割當量ハ大体右ヲ標準トシ居ルノミナラス別電第二四一號ノ次第モアリ御承知相成度

二、Bノ數量ヲ增加スルコトハ交渉ノ餘地アルカト存スルモ經濟省ニテハDハ領内及本國工業保護上ノ必要ヨリ出テ居ルモノナリト強調シ居ル由ナレハ之カ增加ト本邦品ノ爲ニ留保スルコトニハ相當困難ヲ期待ス豫メ御承知置ヲ乞フ

三、日本商社ノ輸入權ヲ一九三三年ノ實績ニヨルコトニ就キ「サロン」ニ限ラス各商品ニ就テ今日迄屢次交渉ニ努メ居ル次第ハ既ニ御承知ノ通リナルカ之カ達成至難ノコト

ハ特ニ御賢察ヲ請フ

四、往電第三二七號一ノ後段ニ關シテハ邦商ヨリ一九三三年ノ輸入實績ヲ證明スヘキ書類ト許可申請書(特別許可量ノ分配方ニ關シテハ邦商ノ一九三三年ニ於ケル輸入實績ヲ基準トシテ按分スルコトニ經濟省ト話合濟)ノ出揃フヲ待ツテ商務局長カ姉齒ノ立合ヲ以テ許可書下附ノ手續ヲ了スルコト、相成居ル次第ニテ保障ヲ取付クルマテモノキコトナルニ付御承知相成度シ

五、往電第三二七號ノニニ關シテハ前記別電御參照乞フ別電ト共ニ蘭、スラバヤ、メダンニ轉電セリ

(別電)

バタヴィア 11月22日後10時発  
本省 着

第二四一號  
今二十二日姉齒ヲシテ「ホ」ヲ往訪セシメ得タル情報左ノ通リ

「曩ニ「サロン」制限令ハ殘リ一ヶ月分ト新條令ニ基ク六ヶ月分トニ關シ同時ニ發表ストノコトナリシカ今回一ヶ

三、今回ノ制限ニ關シ日本人商業協會等ニ宛テタル商務局ノ通牒ニヨレハ一九二九年三月分ノ各種「サロン」輸入實績丈ケヲ告スルコト、ナリ居ルカ歐洲人商業協會ニ對シテモ右ト同様ノ報告ヲ求メ居ルヤト質ネタルニ「ホ」ハ然リト答ヘタルニ付姉齒ハ曩ニ打合セタルカ如ク日本商ニ對スル特別許可書ノ分ニ對シテハ一九三三年ノ輸入實績丈ケヲ報告スルコト、ナリ居ルカト念ヲ押シタルニ「ホ」ハ其通り實行ノ筈ト確言シタリ

三、曩ニ約束セル通り日本商ニハ鐵鍋同様今回ノ「サロン」許可總量ノ一割五歩ヲ割當ツル方針ニ變更ナカルヘシト

言ヘルニ「ホ」ハ全然變更ナシト答ヘタリ  
四、最後ニ「ホ」ハ當地蘭商カ在日支店等ヨリ接受セル電報ニヨレハ約一週間前既ニ賣止モ解除サレ買付ヲ開始セル趣ニテ御互ニ欣快ニ堪エスト述ヘタリト

~~~~~

376 昭和9年11月24日 長岡日蘭会商代表より
廣田外務大臣宛(電報)

一九三四年十五万噸、協定期間内三十万噸の
砂糖買付および十万噸以上の輸出制限とのオ
ランダ側提案について

バタヴィア 11月24日前1時発

本省 着

第二四五號
往電第二四四號冒頭ニ關シ

「廿三日ノ越田「ヘ」會談ノ際海運問題終了後「ヘ」ハ砂糖ニ關シ次ノ提案ヲ爲セリ

(A)日本政府ニ於テ左記數量ノ爪哇糖ノ買付ケ方日本糖業者ニ勸奨セラレンコトヲ期待ス

(イ)一九三四四年少クトモ十五萬「メトリック・トン」

月丈ケトセル事情ニ就キ質ネタルニ「ホ」ハ新條令ヲ國民參議會ニカケ其ノ通過ノ後之ニ基ク新制限令ヲ公布スルコト、ナレハ甚手間取ルヲ以テ差當リ一ヶ月トセルカ十二月ニ入り新條令ヲ公布スヘク之ニ基ク「サロン」制限政府令ハ六ヶ月間有效ノモノトナル筈ト答ヘタルニ付姉齒ハ今回公布ノ一ヶ月分ノ各種「サロン」輸入許可數量ニ準シテ次回ノ六ヶ月分ノ許可數量ヲ決定スル積リナリヤト質ネタルトコロ「ホ」ハ次回ノ六ヶ月分ハ A十萬 B十一萬トスルコト、ナルヘシ

二、今回ノ制限ニ關シ日本人商業協會等ニ宛テタル商務局ノ通牒ニヨレハ一九二九年三月分ノ各種「サロン」輸入實績丈ケヲ告スルコト、ナリ居ルカト念ヲ押シタルニ「ホ」ハ其通り實行ノ筈ト確言シタリ

三、曩ニ約束セル通り日本商ニハ鐵鍋同様今回ノ「サロン」許可總量ノ一割五歩ヲ割當ツル方針ニ變更ナカルヘシト

二、右蘭側提案ニ對シ越田ハ一九三四年ニ於ケル爪哇糖買付ハ大体十一、二萬噸ニシテ本年ハ剩ス所一ヶ月ニ過キサレハ前記(イ)ノ項ハ思ヒ止メラレ度シ又毎年三十萬噸ノ買付ニ付テハ日本カ現ニ來年ヨリ二十萬噸ノ過剰生産ヲ見込居ルニ鑑ミ過大ト思ハルニ付今一層減量ヲ必要ナリト思考スト述ヘタル處「ヘ」ハ今年度分トシテハ餘分ノ買付ハ三、四萬噸ニ過キサルモ之レニテモ甚タ「アピリシエート」スヘク又今後毎年三十萬噸ハ日蘭印間ノ貿易均衡ヲ考慮セハ決シテ多量ニハ非ルヘク一應日本政府ノ意向ヲ確カメ方希望スト述ヘタリ

依テ越田ハ輸出制限ニ關スル保障ニ付テハ日本側ニ於テ受諾困難ナルヘシトテ貴電第一五四號及第一五五號等記載ノ事項ヲ詳細説明シタル上本件ハ甚々重大ナルニ付日本政府へ轉達前首席代表トモ協議ノ上二十六日更ニ意見開陳スヘシト答ヘ置ケリ

蘭へ轉電セリ

七 諸外国との通商問題

377 昭和9年11月24日

広田外務大臣より
長岡日蘭会商代表宛(電報)

品種・数量に関する我が方提案につき訓令

第一五七號(極秘)

貴電第二三七號ニ關シ

(イ)ニ付テハ往電第一五三號^(二)參照アリ度尤モ既存制限品種中ノ「セメント」ハ除外シ差支ヘナキモ麥酒ハ出來得ル限り追加セラレ度シ

(ロ)(ア)ニ付テハ國別割當數量ヲ求ムルコトハ主義上我方當初ヨリノ主張ニ無盾^(争カ)スルコトトナルノミナラス我國以外ノ諸國ニ對シテハ蘭印側ニ於テハ差當り明確ナル割當數量ヲ決定スルコト未タ困難ナルヘシト推測セラレ自然諸外國ニ對スル割當ニ餘裕ヲ殘シ置カントノ考ヨリ我方ニ對スル割當量ヲ過少ニ決定スル懸念アリ之レニ反シ自由競争ノ歡念^(觀カ)ニ從ヘハ邦品ノ喰込ミ得ル餘地大ナルカ故ニ我方ニ取り有利

ナルヘキヤニ思考セラル

(ロ)(イ)ニ付テハ前記往電(二)ニ於テモ觸レ置キタル通り五十六種制限令案ニ於ケル輸入許可數量ヲ大体一九三三年度ノ輸入實績ニ近キモノト了解セラルルニ付各品種數量決定ノ基準トシテ一九三三年ヲ取ルコトニ今更先方カ反對スル理由ナキ様思考セラル依ツテ我方トシテハ一九三三年ヨリ切出シ如何ニシテモ先方ノ同意ヲ得サル場合ハ同年ト一九三二年ニトノ平均ヲトルコト致度シ基準ヲ主トシテ一九三二年ニトノ平均ヲトルコト致度シ

尙邦商ノ取扱比率ニ付蘭印案ハ邦商取扱數量中ニ和蘭品ヲモ含メ居ルモノトセハ邦商ノ日本品取扱數量ハ極メテ少率トナルヘキニ付我方トシテ同意シ難キニ付此ノ點特ニ念ヲ押サルル様致度

蘭へ轉電セリ

378 昭和9年11月27日 広田外務大臣より
長岡日蘭会商代表宛(電報)

海運問題民間協議開催のためのオランダ側提
示条件への対応につき訓令

文字通り傍聴者ナルコトヲ篤ト明ニシ置キ度シ

(ロ)(シ)ニ關シテハ本邦側當業者ノ威壓抑止幹旋ニ關スル越

第一五八號(至急)
貴電第二四二號及第二四四號ニ關シ
當業者ハ今ニモ最後的通牒ヲJ社ニ突付ケントシ居リ此種當業者ノ行動ハ面白カラサルニ付政府ニ於テ引續キ極力慰撫ニ努メ居レルモ抑壓スルノ手段ナキコト屢次電報ノ通りナルカ萬一J社ニ通告セル際ト雖政府トシテハ出來得ル丈ヶ今次ノ非公式話合ヲ圓滿解決シ度所存ナル旨此ノ際篤ト申入レ置カレ度
尤モ蘭印側カ左記説明ニ納得シ神戸會商再開方ニ同意スルニ於テハ前記當業者側ノ最後的通牒ノ有無ニ拘ラス事態ヲ悪化セシムルコトナク話合ハ圓滿ニ進歩スヘキ儀ニ付至急越田總領事ヨリ右ニ對スル先方ノ回答ヲ求メラレ御回電アリタシ

蘭へ轉電セリ

379 昭和9年11月29日 長岡日蘭会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

海運問題に関する神戸當業者会商開催にオラ

ンダ側同意について

(イ)先方提議b項ニ關シ公式「オブザーバー」ノ參列ハ我方從來ノ主張ニ背馳スルモノナルヲ以テ主義上之ヲ容認スルコト能ハサルモ互讓ノ精神ヨリ蘭側「オブザーバー」ノ參列ハ之ヲ認めルコトニ我方當業者ヲ說得スヘシ但シ

一、海運問題ニ關シ越田ハ十九、二十六及二十八日ノ三日ニ

瓦リ蘭側ト會見シ貴電第一三四號及第一五八號ノ趣旨ヲ

縷々説明シ神戸民間會商ノ開催受諾決定方ヲ求メ來リタ

ル處本二十九日朝越田「へ」會談ノ際「へ」ハ左ノ通り

回答セリ

(一)蘭側ハ神戸ニ於テ海運業者ノ會商ヲ開催スルコトニ同

意ス

(二)蘭側ハ「オブザーバー」ヲ右會商ニ參列セシムヘク但シ此ノ「オブザーバー」ハ單ナル傍聴者タルヘク討議

等ニ容喙セサルヘシ

(三)日蘭兩政府ハ海運業者間ニ於テ成立シタル結果ヲ確認スヘク右確認ハ兩政府カ各自國ノ當業者ニ對シ夫々之ヲ行ヒ兩政府ハ相互ニ其ノ確認事項ヲ通知スヘシ

(四)神戸民間會商ノ成功ヲ期スル爲日本總領事ハ日本當業者間ニ對スル日本政府ノ斡旋ヲ保障シ又蘭側ハ自國當業者ニ對シ同様斡旋スヘシ

三、神戸民間會商開催問題ハ右ノ通り一先ツ解決シタル處本日ノ會談ニ於ケル彼我討議ノ内容ニ付テハ追テ電報スヘキモ右不取敢

日本總領事及蘭印官憲協議之ヲ決定スヘシ

(一)日本商人カ前記ニ依リ決定セラレタル數量ノ範圍内ニ於テ商品ヲ輸入スル場合ハ輸入ヲ困難ナラシムルカ如キ各種條件ヲ附セラルルコトナキモノトス

(二)日本商人ハ前記(イ)ニ依リ決定セラレタル數量ノ範圍内ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ譲渡スルコトヲ得ルモノトス

二、尙近ク日本側ヨリ提出スヘキ總括的最後案ノ内容ヲ爲スモノ左ノ通り

(1)「カバーリング・ノート」(輸入及輸出ニ關スル日本側最後提案)右ニハ「茲ニ提出スヘキ輸入及輸出ニ關スル總括的提案ハ不可分且最終的ノモノナリ」トノ趣旨ヲ記載ス

(2)Annex A(品種及數量案)之ニハ往電第二四八號(往電第二四九號及往電第二六一號訂正並ニ往電第二五七號追加ヲ含ム)品種及數量案ヲ記載シ且「フート・ノート」トシテ(一)往電第二五一號一、綿布類ノ移讓制及(二)右往電二、(イ)及(ロ)ノ麥酒及「セメント」ノ保障ニ關スル提議ヲ夫々記載ス

蘭へ轉電セリ

380 昭和9年12月1日 長岡日蘭會商代表より

広田外務大臣宛(電報)

日本商人の蘭印における輸入比率に関する我が方最終提案について

バタヴィア 12月1日前11時50分発

本省

第一六三號(極祕)

往電第一五二號一、末段ニ關シ

當方ニテ作成セル日本商人ノ輸入比率ニ關スル我方提案左記一、ノ通リナルニ付右御承認ヲ請フ尚之ヲ立案セルニ至レル詳細ハ別ニ電報スヘシ

(一)後掲二、(二)Annex Aニヨリ取極メラレタル各日本商品ヲ日本商人カ輸入シ得ル數量ハ該表記載ノ當該各商品ノ數量ニ對スル割合ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ割合ハ一九三三年ニ於ケル當該日本商品ノ蘭印輸入數量ニ對スル日本商人ノ輸入シタル數量ノ割合トス
前項ノ數量及割合ノ算出ニ關スル細目ハ在「バタヴィア」

(二)Annex B(日本商人ノ輸入比率案)右ニハ前記一、比率案ヲ記載ス

(1)Annex C(一般的保障條項案)右ニハ第一案トシテ「本協定所定ノ協定制限商品以外ノ一切ノ商品ニ對シテハ本協定期間中蘭印政府ハ何等ノ輸入禁止若ハ制限又ハ右等ニ關聯スル一切ノ措置ヲ採ラサルヘキコトヲ約ス」ノ趣旨ヲ記載ス

(2)Annex D(輸出ニ關スル提案)右ニハ

(一)日本政府ハ當業者ニ對シ本協定期間(二年)中爪哇糖五十萬噸購入方勸奨スヘシ

(二)他ノ蘭印產品ニ關スル當業者ノ買付方勸奨ニ付テモ日本政府ハ能フ限り好意的考慮ヲ加フヘシ

(3)十月二十日附拙信機密合第三七號蘭印物資輸出上ノ障害除去ニ關スル我方提案(Export from the N.E.I. to Japan)中ヘIn order that the export from the N.E.I. to Japan may be increased ト全文

ノ三項ヲ夫々記載ス
蘭へ轉電セリ

我が方砂糖當業者的事情に鑑み三年五十万噸

再輸出制限なしで交渉方指示について

本 省 12月4日後発
バタヴィア 12月4日後着
來栖ヨリ木村へ

第一六一號(極秘)
一、關係省及當業者等ノ煮ヘキラサル態度ニ鑑ミ眞ノ最後案ハ貴方ニ於テ今一應先方ト御折衝ノ上當方ニ突付ケラレタル上決定スルノ外ナシト思考ス
二、砂糖業者ハ關稅引下及綿業者等ノ獨自輸入内地投賣ヲ恐レ居ルモ臺灣總督府ノ臺灣統治上ノ重大問題ナリト爲ス
議論ヲ矢表ニ立テ拓務省ヲ代辦者ニ立テ居ル事情ナリ
三、砂糖關稅引下ハ御承知ノ閣議決定モアリ(砂糖業者モ薄々嗅付キ居ル模様)少クトモ三割五分附加稅撤廢ハ會商關係トハ別ニ問題トナリ居ルコト御承知ノ通ニテ大藏當局モイサト成レハ考慮ノ底意ナルカ如シ

四、三井三菱等モ製糖業ニ投資シ居ル關係上痛シ痒シノ地位

382 昭和9年12月5日 長岡日蘭会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

ニアルモ物産ノ田島商事ノ加藤ハ極メテ内密ニ總額二十萬噸ナラハ再輸出ニテ捌キ得ル見込ナル旨小生迄申出テアリ尤モ品質ヲ注意シ及「ニバス」ノ實際賣值ノ最低ニ均霑ノ要アリ

五、綿業者其他大阪方面輸出業者ニ對シテハ最近若松下阪懇談ノ印象ニ依レハ三四百萬圓ハ砂糖輸入損失補填ノ爲捻出シ得ル見込但シ綿布始メ各品目ノ輸入最高限取極ヲ嫌カリ居ルト共ニ往電第一六一號ノ二ノ事情ニテ取扱比率增加ヲ熱望シ居レリ彼等ハ近々上京公式ニ返答スヘシ

六、臨時議會終了(開期兩三日延期今週一杯位ノ見込)迄ハ各省當局ハ勿論小生モ政府委員ニテ協議困難右ノ事情御含ノ上一、ノ趣旨ニテ可然御措置アリ度砂糖ハ既ニ拓務省承知ノ三年五十萬噸ニテ切り出シ適當ノ處ニテ御請訓アリ度ク再輸出制限ハ絕對ニ駄目先方カ本邦内地消費增加ヲ飽迄主張セハ三、ノ事情御含ノ上先方案トシテ關稅引下ケニ引張ツテ來ラレ度

~~~~~

オランダ側態度に鑑み會商中止のほかなきを  
もって我が方總括案提示につき請訓

別電 十二月五日發長岡日蘭会商代表より広田外務

大臣宛第二六七号

會商中止の場合の善後措置などに關する越田・

ヘルデルン会談について

バタヴィア 12月5日後3時発

本省 着

第二六六號(至急、極秘)

十一月廿九日神戸民間會商ニ同意セシ以來會商ニ關スル蘭印側ノ情勢急ニ變化シタル兆候アリ殊ニ蘭側代表ノ重鎮タルヘハ急ニ歸國ノ準備ヲナセル由ナルヲ以テ十二月一、三、四日連日越田ヲシテヘト會談内情探究セシメタル處  
(一)蘭印側ニ於テハ日本側ノ最後案ナルモノモ結局砂糖買付ニ伴フ絶對條件ト主張スル再輸出制限ヲ拒否スル事明白ニシテ輸入問題ニ付テモ多數ノ品目増加ト輸入量、邦商比率トニ於テ蘭側ノ受諾シ得サルモノナリトノ見透ノ下内々會商決裂ノ準備ヲナセル事別電第二六七號ニ依り御了解ノ事ト信ス他方未晒問題ニ付經濟省ハ再ヒ數量三

三年程度邦商比率二割今後六ヶ月乃至一年ニ亘ル新制限令發布ニ付日本ノ當業者側ノ積止解除ノ能否ヲ聞合セ方我領事館ニ申入レ萬一之ヲ肯セサレハ蘭商ヲシテ高價ニ不拘本國ヨリ代用品ヲ輸入スヘント恫嚇的態度ヲ示セルカ我方ハ本問題カ會商ニ依リ數週間内ニ決スヘキ事項ナルヲ以テ夫レ迄待テト回答セシムル筈ナルモ右ハ蘭印側カ會商決裂ノ場合ノ後始末ノ準備ノ一例ト推案セラル  
(二)然ルニコラインノ直屬タル代表ヘノ談話ヲ綜合スレハ少クトモ蘭本國政府ハ一旦バタヴィア會商ハ打切ルトモ來春ニハ海牙ニテ再開シ今日迄ノ討議對案ヲ基礎トシ更ニ双方互讓セハ解決ノ途アルヘシトノ見込ナルカ如ク將又バタヴィアニテハ巨商連ノ裏面運動ヤ經濟省屬僚一派ノ頑迷トノ爲ニ互讓ニ好都合ナル空氣ヲ亂スノミナリトノ考ヘラシク一方海運問題モ神戸會商ニ依リ何時頃解決ノ見込附クヤモ不明ナルモ今日通商問題ニ付急キ決定スル事ハ蘭側ヨリ見レハ不得策ナリ海運問題ノ成行ト通商問題ノ成行トヲ相關のニ考慮シツツ進捗ヲ計ルノ下心ナルヤニ推測セラル從テ年末ニ差懸リ新年明ケ迄ハ何レノ途休會ノ外ナキヲ以テ先ツ日本ノ提案ヲ見テ之ニ對案ヲ提

出シタル上ニテ一應會商中止ト爲ス計畫ナリト思ハル

(三)以上ノ情勢ニ鑑ミ今日迄六ヶ月ノ努力ノ結果ヲ完成シ得

サルハ遺憾ナルモ我方ニ於テモ寧口蘭本國思惑ノ通り此ノ際バタヴィア會商ヲ中止シ海牙其他ノ場所ニテ新ナル

氣分ト空氣ノ裡ニ再開スル事却テ會商ノ目的ヲ達成スルノ捷徑ナリト思考ス果シテ然ラハ砂糖問題中ノ再輸出條

件ノ爲蘭側カ我提案ヲ拒斥スル事明白ナルニ不拘此ノ際本省ニテモ御考慮中ノ眞ノ最後案ヲ提出スルハ不得策ニシテ寧口之ハ會商再開ノ際ニ最後ノ讓歩トシテ持出シ妥

協ニ利用スル方得策ナルヘク貴電第一六二號ノ次第モアリ眞ノ最後案御決定モ遲延スヘク旁々當地ニテハ往電第

二四八號ヲ以テ請訓セル輸入品種及數量案第二五一號ノ附帶條件第二六三號ノ比率案ト貴電第一四七號ノ御趣旨ニテ砂糖買付量無條件五十萬噸案トヲ相關不可分ノ一體

トシ尙之ニ同貴電二別案ノ如ク砂糖買付量ノ遞増ニ伴フ輸入特別ライセンスノ遞増ヲ追加スル趣旨ニテ立案シ我

方ノ提案トシテ差出シ蘭側カ豫想通り拒斥シタル上ハ一旦會商中止トシ來春再開ヲ仄カスコムミニケ又ハ宣言ヲ爲スノ外ナシト思考ス

(四)結局往電第二二一號ヲ以テ申進メタル通り會商中止後ノ空氣ヲ惡化セシメサル工作ヲ要スルニ付蘭本國ノ考ヘヲ助成シテ會商再開迄ノ措置トシテ出來得ル限り我方ニ有利ニ殊ニ蘭印側カ準備シテ待チ構ヘ居ル新制限令ニ付一種ノ保障ヲ取付クルノ方式ヲ考慮スル事望マシク此ノ點ニ付ヘカモダスピベンデニ關シ越田ニ語レル語調ハ往電第二二〇號末段ラノ如キ鼻息ニハ非ス又新制限令ト雖モ差當リハ未晒、陶磁器位ニ留ルニ非スヤト思ハレ又數量ハ多分急ニ減セサルヘキカ邦商比率問題ニ付最高二割ヲ頑強ニ固持スル事豫測ニ難カラス之モダスピベンデ作成ノ大難關ニシテ此ノ條件ヲ受ケ入ルルニ於テハ會商再開ノ際我方ノ地歩ヲ著シク惡化スルニ付如何ニシテモ先方カ最高二割ヲ固持シテ讓ラサル場合ニハ寧口目下ノ紳士協定ヲ延長シ再開迄新制限令發布ノ際ハ事前ニ當方ト打合スル事ニ取極ムル方得策ナルカ如ク思考セラルソハ兎ニ角前掲(二)提案ニ關シ至急御承認ヲ請フ  
別電ト共ニ蘭ヘ轉電セリ

(別電)

バタヴィア 12月5日後4時45分発  
本 省 着  
第二六七號

三日昨四日ノ越田ヘ私的會談ヲ綜合セル要點左ノ通り

一、ヘヨリ近ク日本側ヨリ提出サルヘキ輸出及輸入ニ關スル提案ハ何時入手シ得ルヤトノ問ニ對シ越田ハ右提案ハ兩首席代表會見ノ際提出セラルヘシト答ヘタル後蘭代表部ハ神戸民間會商ノ經過如何ニ不拘數日中ニ右提案諾否ノ確答ヲナシ得ルヤト質問セルニヘハ然リト確言シタル後右提案中ニハ砂糖買付事項アリヤ又輸出制限必須條件ハ如何ト尋ネタルニ付越田ハ砂糖買付事項ヲ包含シ居ルモ必須條件ハ日本政府ノ絶對受諾シ得サル所ナリト答ヘタルニヘハ然ラハ右提案ハアクセプタブルニ非スト即言セルニ付越田ハ免モ角蘭本國政府ノ意向ヲ承知シ度シト述ヘ置ケリ

二、ヘハ兩首席代表詰合ノ上本會商中止トナリタル場合短期間ニ海牙又ハ其ノ他ニ於テ再開シ得ルヤト問ヘルニ付越田ハ本會商中止ノ場合ハ日本代表部ハ當地ヲ引揚歸朝ノ上ハ日本政府ニ報告スルヲ要スヘク日本政府ハ其ノ上ナ

ラテハ再開スルヤ否ヤヲ決定スル事能ハサルヘシト思考スル處蘭側カ海牙再開ヲ主張スル正當ノ理由アリヤト尋ネタルニヘハ最初本會商開催ニ關スル交渉カ海牙ニ於テ行ハレタル事蘭側ハ海運會商ヲ神戸ニ開催スル事ニ讓歩セル事ヲ述ヘタルヲ以テ越田ハ可然之ニ應酬シタル後假令海牙ニ移ストスルモ日本側ハ砂糖輸出制限條件ヲ受諾セサル事明瞭ナルヲ以テ蘭側カ之ノ點讓歩スルノ覺悟ナキ限り何等ノ進展ヲ見サルヘキカ或ハ環境ノ變化ニ依リ妥結ニ到達スルノ可能性アリヤト問ヘルニヘハバタヴィアニ於テハ新聞其他ニ於テ種々揣摩憶測ヲ猛ウシ反ツチ會商ノ進捗上有害ナルニ付海牙ニ移セハ機密保持ニモ頗ル有利ナルノミナラス今日迄既ニ兩代表部ニ於テ具體的數字的調查ヲナシ基礎出來居レハ蘭政府海牙日本公使間ノ直接會商ハ反ツテ手續簡單トナリ案外迅速ニ拂り得ヘシト思ハルト答ヘタリ

三、越田ハバタヴィア會商中止トナリタルニ反シ他方神戸會商妥結ニ到達シ得タリトセハ右會商ノ結果ニ付蘭政府ハ承認ヲ能フヘキヤト問ヘルニヘハ私見ニ依レハ蘭側トシテハ海運協定成立セサル限り通商協定(バタヴィア會商

ノ結果タル協定ハ發效セシメサル意向ナルカ海運協定成立セハ蘭側ノ主張スル基本原則採用セラルル限り之ヲ發效セシメ差支ナシト思考スト答ヘタリ

四、越田ハ蘭側カ日本側ノ提案ヲ拒絶セル場合ハ事實上之ヲ以テ本會商ハ中止スル事トナルヘキカ之力爲近ク折角開カレントスル神戸會商ハ如何ニ成ルヘキヤ幾分ノ懸念ナキ能ハサル旨ヲ述ヘタル處へハ右會商ハ其ノ儘進行セシメ差支ナカルヘシト即答セルヲ以テ越田ハ本會商中止ノ場合蘭印側ハ若干ノ新經濟措置ヲ實施セントスヘク右措置ハ日本製造家輸出業者在蘭印邦商ヲエキサイトセシメ延ヒテハ神戸會商ニモ累ヲ及ホスノ惧アルノミナラス第二次會商開催ヲモ困難ナラシムルニ至ルヘシト述ヘタルニ對シヘハ蘭印側トシテハ既ニ若干ノ新措置公布ノ準備成レルモ今日迄延期セシメ居ル次第ナレハ之レ以上ノ延期ハ不可能ナルヘシ尤モ右新措置ハ今日迄蘭側ヨリ既ニ提起済ノ提案中ニ示セル基準ニ據ルヘク右ハ日本側ノ利益ヲモ考慮シ居ル次第ナレハ日本商人ヲ刺戟スル事ナカルヘキモ右危險ヲ尠ナカラシムル爲會商中止期間ヲ可成短クスル事望マシク又右期間中ヲレギュレートスル方法

五、ハ米、伊等トノ通商事務關係處理ノ爲本國政府ヨリ屢々歸朝ヲ促シ來レル次第モアリ來週末迄ニハ當地ヲ出發歸國シ度キ心組ナルニ付一日モ早ク日本提案ヲ入手シタシト述ヘタルニ付越田ハ右歸朝理由ノ外ニ何カ歸朝ヲ急カルル理由内密ニ承知出來サルヤト尋ネタルニヘハ極メテ内密ノ話ナルカト前置シコライン植相及其ノ左右ノ者ヨリ蘭印ノ高官ニ達シタル情報ニ依レハ蘭政府ハバタヴィア會商ハ之レ以上遷延セシメス又一層迅速ナル方法ニ依思ハルト告ケ置ケリ

リ第二次會商ヲ行ヒ度シトノ意向ナルカ如シト答ヘタリ六、ヘハ兩首席代表會見シ妥結不可能ノ場合ニハ日蘭兩國民ヲシテ無用ノ誤解ヲ避ケシムル爲メコムミニケ例ヘハ私案ニ依レハ兩國親善ニ關スル適當ノ措辭ヲ取入レタル上今日迄兩代表部ヨリ夫々提案ヲナシタルカ未タ双方ノ意見ニ懸隔アル事從ツテ兩代表部ハ本國政府ノ決定ニ委スベク今後ノ商議ハ外交の手段ニ依リ行ハルヘシトノ意味ヲ記載セルモノヲ發表スル事必要ト信スト云ヘルニ付越田ハ此ノコムミニケノ後段ハ特ニ重要ナルヘキニ付發表前日本政府ノ承認ヲ得ルヲ要スルヲ以テ其ノ私案ノ當方内示ヲ得度キ旨述ヘタル處へハ右ハ全ク私案ナレハ

ラトモ相談スヘキ旨ヲ答ヘ其ノ後ヘハ兩首席代表ノ會見ニ先立チ右コムミニケノ案文ヲ當方ニ内示スル事ハ宛モ本會商ノ終了ヲ豫期スルカ如キ感ヲ與ヘ面白カラサル旨答ヘタリ

七、越田ハニ對シ先月十三日以降ノ越田ヘ會談ノ内容タル

輸出入ニ關スル問題及海運問題ニ關スル共同報告書一兩

日中二作製署名ノ上各首席代表ニ提出スヘク其ノ上ニテ前記一ノ通り兩首席代表會見シ日本代表ヨリ提案ヲ取

ヲ發見シ得レハ結構ト思考スル旨答ヘタルニ付越田ハ右ハ何ヲ意味スルヤト突込ミタルニヘModus Vivendiノ事ナルカ私見ニ依レハ蘭印カ新措置ニ對スル保障ヲ爲スニ對シ日本側カ輸出増進ヲ約スル事必要ナリト信スト云ヘルニ付越田ハ例ヘハ砂糖若干ヲ買付クルカ如キ事ヲ約スル事ハ到底困難ナルヘキモ蘭側カ日本側ニ於テ輸出増進方ヲ勧奨スヘシト云フ程度ニテ満足セハ或ハ不可能ニハ非ラサルヘク又當座ノ思ヒ付ニ過キサルモ日本側カ輸出ヲ統制スル事場合ニ依リテハ積止メ禁止ヲナササル様勸奨スル事ヲ約スル程度ナラハ考慮ノ餘地アルヤニモ思ハルト告ケ置ケリ

六、ハ米、伊等トノ通商事務關係處理ノ爲本國政府ヨリ屢々歸朝ヲ促シ來レル次第モアリ來週末迄ニハ當地ヲ出發歸國シ度キ心組ナルニ付一日モ早ク日本提案ヲ入手シタシト述ヘタルニ付越田ハ右歸朝理由ノ外ニ何カ歸朝ヲ急カルル理由内密ニ承知出來サルヤト尋ネタルニヘハ極メテ内密ノ話ナルカト前置シコライン植相及其ノ左右ノ者ヨリ蘭印ノ高官ニ達シタル情報ニ依レハ蘭政府ハバタヴィア會商ハ之レ以上遷延セシメス又一層迅速ナル方法ニ依思ハルト告ケ置ケリ

七、交シ右ニ對スル蘭側ノ回答否定的ナル時ハ兩代表部ハ夫々本國政府ニ最後ノ決定ヲ伺フ段取りリトナル處ヘノ歸朝ハ會商不調ヲ見越シ居ル様察セラレルカ如何ト質シタルニヘハ日本側提案ノ内容大體想像ニ難カラス即チ前記一、ノ通り砂糖買付ノ附帶條件ノ拒否並ニ輸入ニ付テハ多數品目ノ增加又日本商人ノ輸入比率ノ増率ノ要求等豫見シ得ヘク蘭側トシテハ右ハ受諾シ得サルニ付右ニ對スル蘭側對案ヲ提出ノ上本會商ヲ中止スルノ外ナカルヘシト思考スト述ヘタリ

383 昭和9年12月11日 広田外務大臣より  
長岡日蘭会商代表宛(電報)

丁社より海運問題に關する神戸當業者会商に  
対する基本原則提示について

別電 十二月十一日発広田外務大臣より長岡日蘭会商代表宛第一七三号

右基本原則

本省 12月11日後発

バタヴィア 12月11日後着

十日「ハーネバ」ハ突如本邦側四社ニ對シ別電第171號  
ハ基本原則ニ對シ本邦會社側カ又ノ諾ベキ明確ナル聲明  
トハ問題以迄リナスコトヲ條件シシテ、社ハ神丘會商ニ入  
ルノ用意アルロムヲ通告シ來リタル處右通知シテスル措置  
振田ト神業者ニ於テ協議中ナリ右不取敢

別電ト共リ蘭く轉電ヤリ

## (示 電)

本 省 12月11日後發  
バタムバト 12月11日後着

據 1711號

1. In so far as cargo traffic between Japan and the Netherlands India and vice versa is concerned an agreement will be concluded between the Japanese shipping companies concerned, viz., Ishihara Sangyo Kaiun, G. K., Nanyo Yusen Kaisha, Nippon Yusen Kaisha, and Osaka Shosen Kaisha as one party and the Java China-

agreement of the Companies concerned.

4. Unanimous agreement shall be required for determining all Matters of principle, policy, and importance in connection with the agreement herein provided for, including such matters as alteration in the agreement, revisions and alterations of freight tariffs and other charges, all matters of importance which may generally influence traffic between Japan and the Netherlands India and vice versa, the possible admission of new members to these pool agreements etc., and all steps to be taken with respect to competition of other steamer companies.
  5. Endeavours shall be made to attain an agreement with respect to tramp trade.
- ~~~~~

務大臣宛第1181號

右總括提案口頭説明要領

本 省 12月11日後3時15分發  
着

第181號

本十1日午後本使印と會談ス(往電第171號趙田く會談  
ハ歐ノ談合に依リ趙田く及イークノアルケ回席ス)要領左  
一通ニ

「本使印ニシテノ對シ貴電第168號及第169號御來示  
修出テ加くタル日本側總括提案ヲ手交シタル上別電第1  
八1號ノ如キ説明ヲ加くタル處ヲハ111質問ノ上向  
右提案篤ト研究シ數日中リハ回答シ得くハト思考スル血  
述くタル後口今他ノ手續問題ニ付御詔シ度キ事アルカ如  
何レシタルニ付本使ハ右ハ多分今後ノ會商措置ニ關スル  
セハユ既ハル處一般ノ慣例ニ從くハ當方ヨリ提案ヲ出  
ヤルニ付テハ先ハ右ニ對スル回答ヲ接受スルヲ要スベク  
其他ノ問題ノ交渉ハ其ノ後ニ讓ラルキヤハナリト思考  
ベヌ指摘セルニシテ之ヲ首肯シ右問題ニ付何等言及セサ  
リキ(察ヘル處從來趙田く間ノ會談ニ於テカ屢々洩シ

Japan lijn as the other party. In so far as the so called transit cargo is concerned an agreement will be concluded between the above mentioned companies as one party and the K.P.M. as the other party.

2. The agreements mentioned in paragraph hereof shall continue of full force and validity during the life of the supplementary trade treaty to be concluded between Japan and the Netherlands.

3. (a) Except as herein after provided the companies agree to bind themselves not to enter for loading and or unloading cargo any ports of Netherlands India except Macassar and Java parts. Provided that (1) the Java-China-Japan lijn and the Nippon Yusen Kaisha may call at Menado, (2) the Java-China-Japan lijn and the Nanyo Yusen Kaisha may call at Palembang, (3) all conference lines may call at Belawan-Deli, and (4) only the Java-China-Japan lijn may call at Balikpapan and Oosthaven.

3. (b) The number of sailings shall be fixed unanimous

居ル會商中止又再開豫約並ニコムミニケニ關スル問題ト思考セラル從來累次ノ御電報モアリ先方ノ出鼻ヲ押ヘ置キタルモ何レ數日中ニ本問題ハ必スヤ提起セラルヘント推斷ス就テハ往電第二二六六號(コムミニケ及四モダス・ヴィヴェンディニ關シ豫メ御研究ノ上早目ニ御回電ヲ乞フ)

三、次テラハ輸入制限ニ關スル一般法ニ於テ歐洲人組合加入ノ條件ハ之ヲ廢止スル事トセル旨述ヘタル後未晒問題ニ言及セルヲ以テ本使ハ本件ハホーフストラーテント姉トノ間ニ話合ヒ行ハレ居ル問題ナルニ付姉齒ニ至急ホト面會スル様申傳フヘシト述ヘ置ケリ

蘭ヘ轉電セリ

(別電)

バタヴィア 12月11日後9時発  
本省 着

我方提案口頭説明ノ要領左ノ通り

兩代表部委員ノ第一回報告並ニ十一月八日貴下トノ意見交

換ヲ考慮シ茲ニ一提案ヲ貴下ニ提供ス尙本覺書ハ不可分ノ一体ヲ爲スモノニシテ其ノ一部ヲ受容レ一部ヲ拒否スル事ヲ期待スルモノニ非ス若シ本提案ヲ討議ノ基礎トセラレント欲スルニ於テハ總ヘテノ條項ヲ總括的ニ同時ニ考慮セラレ度シ尙茲ニ本提案ヲ構成スル根本觀念ハ貴我共ニ互讓安協ノ精神ヲ以テ相手方ノ提案ヲ受諾攻究スル事ナリト附言セムトス

簡單ニ我方提案ノ具體的説明ヲ試ムヘシ

(イ)既發制限令ノ目標タル商品ニ關シヘハ委員會ニ於テ越田ノ提議ニ對シサロント晒トハ考慮ノ餘地アルモ麥酒トセメントハ既ニ國產充分ナルヲ以テ討議ノ餘地ナキ旨答ヘラレタルカ右ノ點ハ本會商ノ始メニ於テ日本側カナシタル宣言ヲ遵守シ右蘭側ノ提案ニ基キ立案セリ

(ロ)重要輸入日本商品ニ關シテハ既ニ貴下ニ於テ之ヲ考慮スルニ異存ナカルヘシト答ヘラレ委員會ニ於テモ意見ヲ交換シタルカ遂ニ結論ニ到達セサリシモ茲ニ右重要商品ノ品目ヲ更メテ表記シ提案スル次第ナリ

(ハ)所謂自由競争ニ委セラル商品ノ實數的基礎ナクシテハ其ノ保留セラル割合ハ何等保障トナラス仍テ何等カ其

ノ解決案ヲ研究スヘキ事ヲ曩ニ提議シ置キタルカヘ委員ハ短カキ期間例ヘハ六ヶ月乃至一ヶ年ナラハ其ノ基準實數ヲ定ムルコト不可能ニ非スト述ヘラレタルカ斯クテハ

本協定期間内ニ少クトモ二三回日本品ノ輸入數量ハ變更ヲ免カレス而モ砂糖買付問題ニ付テハ貴方ニ於テ同様ノ變更ヲ受諾セラレサルヘキヲ以テ右ノ提案ハ遺憾ナカラ受諾シ難シトノ結論ニ到着セリ本來公平ノ見地ヨリ云ヘハ一九三三年ニ於ケル日本蘭印間ノ輸出入共之ヲ維持スル事即チ現狀維持力原則タルヘシト思考ス然シナカラ蘭側代表ノ希望ヲ考慮シ一方砂糖ノ輸出量ニ於テハ同年度ヨリ二萬噸以上ノ增加買付ヲ保障シ他方輸入日本品ノ量ヲ大體同年度ノ二割減ニ定メ之ヲ提案セル次第ナリ

(二)邦商取扱比率ニ關シテハ通商條約ノ精神ヨリスルモ彼等ノ既得權ハ嚴格ニ尊重セラルヘキモノニテ我方ニ於テ同年ノ比率ヲ維持セサルヲ得ス然シ其適用セラルヘキ商品ノ總量ニ於テ既ニ減少セルヲ以テ邦商ノ實際取扱量ハ夫レ丈ヶ減少スル次第ナリ此ノ點ハ貴方ニ於テモ満足セラルヘシト思考ス

(イ)保障條項ニ關シテハ若シ本提案ノ形式カ貴方ニ於テ受諾

微意ニ他ナラス

終リニ臨ミ本使ハヘ教授カ近ク出發セラルルヲ遺憾トスルト同時ニ本提案事項ニ付越田ハヘ教授ニ代ハルヘキ人ト何時ニテモ商議スルノ用意アル旨ヲ茲ニ附言ス

蘭ヘ轉電セリ  
~~~~~

一括トスルコト)

四正式會商成立ノ際ハ其ノ決定ニ從フコト

但シ前記二ノ商社割當比率ハ政府當局ノ盡力ニ依頼シ日本兩當局ノ取極メニ從フコト

尚希望條項トシテ

~~~~~

385 昭和9年12月15日 広田外務大臣より

長岡日蘭会商代表宛(電報)

未晒綿布積止めの解除条件として邦商割當比率を五〇%とするなど我が方當業者決定について

本 省 12月15日後発  
バタヴィア 12月15日後着

第一八四號

往電第一八〇號ニ關シ

甲、當業者協議ノ結果左ノ決定ヲ見タリ

蘭印政府ニ於テ左記四條件ヲ承認スル場合ハ未晒ノ積止メヲ解除スヘン

一、輸出數量ハ一九三〇年ノ實數ニ依ルコト

二、日本商ニ對スル割當比率ハ五〇%トスルコト

三、品種別割當テヲ設ケサルコト(統計番號別トセス未晒

a、輸入數量ニ關シテハ一ヶ年ノ總量ヲ定メ毎二ヶ月ニ區別シテ輸入セシムル様制限ヲ規定セシムルコト(曰本商社ノ取扱比率小ナル場合ニ一ヶ年トスルトキハ日本商社ノ分ノミ先ツ輸入セラレ後蘭商ニ牛耳ラルル惧メアルニ付此ノ危險ヲ防ク爲)

b、糸數ノ制限ニ關シテハ統計番號一五二九及一五三〇

「付テハ各一本宛増加セシムルコト

」<sup>脱</sup>当事者ノ意向右ノ次第(ナルニ付)テハ難問題タル商社割當比率ニ付一應五〇%ヲ主張シ居ルモ右ハ政府ノ交渉ニ委ネ居ルヲ以テ已ムヲ得サレバ二割五分ニテモ致方ナキ儀ナルモ我方ニ取り最モ重要ナル條件ナルニ付出來得ル限り有利ナル比率確保方御交渉相成度

又三及a、b、ハ我方カ「キヤ」ノ代用品ノ輸出ヲ差控フル關係上何等弊害ナキモノト思考セラルルニ付是非ト

モ實現スル様御努力相成度シ  
右交渉ノ結果ヲ俟チ措置スルコト致度

~~~~~

386 昭和9年12月15日 長岡日蘭会商代表より

広田外務大臣宛(電報)

ト社による民間会商基本条件提示書の件

ハダ便即局に抗議について

バタヴィア 12月15日後1時30分発

本 省 着

第一九五號

十四日越田ヨリ經濟長官ハーテニ會見申込ミタル處議會關係ニテ多忙ノ爲ウエーヤ代表代ツテ會見ス(イントブルグ同席)要領左ノ通

一、越田ヨリ最近神戸民間會商ニ關聯シテ起リタル出來事ニ關シ貴電第一七七號ニノ趣旨ヲ敷衍シテ説明シタル後斯ル不幸ナル出來事ノ發生ヲ避ケムカ爲十一月廿九日ヘトノ會談ノ際蘭側提案ノ提出方ニ付テモ篤ト談合ヲ遂ケタル(往電第一六一號)モノナル事ヲ告ケ且ツ十一月十日附海運ニ關スル越田ヘ共同報告中ニモ

With a view to avoiding any misunderstanding Japanese Consul General stated, in connection with above explanation by Prof. van Gelderen that Netherlands Government were free to instruct Netherlands Indian Shipping representatives what to propose at private negotiations, but agenda and procedure of negotiations would necessarily have to be agreed upon by participating members of both sides.

ト記述シアルモノナルコトヲ指摘シタル

「ウハ蘭側民間代表カ如何ナル狀況ノ下ニ該案ヲ提出シタルヤニ關シテハ詳報ニ接セサルモ神戸會商ハ公式ノ國際會議トハ異ナルニ付正式ニ開會セルヤ否ヤノ如キ形式ハ大シテ重要ナラサルベク日本當業者ニ於テ蘭側提出ノ基本案ノ拒絶ハバタヴィア會商ノ決裂ヲ意味スルモノナル事ヲ知リツツ爲シタルハ責任重大ナリト反復力説セルニ付越田ハ日本當業者ニ於テ會商開否ノ條件トシテ期限附強迫的通牒ヲ拒絶シタルハ提案ノ内容其ノ者ノ如何ニ非シテ其ノ形式及時期ヲ無視セル點ニアリ如何ナル會議

ニ於テモ開會以前ニ斯ル最後的通告ヲナスハ其ノ例ニ乏シク日本當業者カスル仕打ニ憤慨スルハ當然ナルヘシト辯駁シタルニウハアノ場合日本側カ拒絕ノ結果ノ重大ナルニ鑑ミ提案ノ撤回若ハ回答ノ留保ヲ申出テタルニ於テハ局面ハ幾分異ナリタルナルヘシト云ヘルニ付越田ハ斯ル非禮ノ通告ヲ受ケタル以上日本當業者トシテハ直ニ拒絶スルノ外ナカリシコトト信スト答ヘタリ

三、越田ハ十三日附ラ氏ヨリノ書面中ニ會商決裂ノ責ヲ日本當業者ニ歸シ居ルモ右ハ以テノ外ニテ責ハ全然蘭側ニア

リ本件ニ關シ蘭子新聞モ日本側ノ責任ヲ云々シツツアルカ若シスル言論ヲ續クルニ於テハ本官ハ日本當業者ノ爲今日迄ノ關係書類ヲ發表シ輿論ノ判断ヲ待ツ事トスヘシト云ヘルニウハ蘭側新聞論調ハ夫レ程ニモ非ルニ付右ノ方法ニ出ツル事ハ待タレ度シト答ヘタリ越田ハ語ヲ繼キ我代表部内ニ於テハ蘭側今回ノ理不盡ナル仕打ハ會商決裂ノ口實ヲ得ンカ爲ナサレタルヤニ想像スル向モアル位ナリト云ヘルニウハスル事ハ絕對ニナシト斷言セリ

四、越田ハ長月日ノ談合ノ結果折角民間會商ノ段取りトナリタル際斯ル出來事ノ爲頓挫スルハ双方ノ爲遺憾ナルカ日

見ニ於テ言及セラルル事トナルヘシト述ヘタリ

蘭へ轉電セリ

387 昭和9年12月15日 長岡日蘭会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

新サロン輸入制限令の公布実施について

バタヴィア 12月15日後1時30分発
本 省 着

第一九六號

往電第二三八號ニ關シ

サロンノ輸入制限ニ關シ新タニ條令(法令第六七八號)及右條令ニ基ク政府令(法令第六七九號)公布十四日ヨリ實施サル條令ハ經濟長官ニ對シ原產地證明ノ提出ニ關スル規則制

定及輸入港指定ノ權能ヲ與ヘ居ル處右ハ非常時輸入制限條令(法令一九三三年第三四九號)ヲ踏襲セルモノナリ

政府令中從來ノ夫ト異ナル主要點左ノ通り

一、有效期間本月十四日ヨリ一九三五年六月十三日迄

二、許可數量 a十萬(單位コルゼ以下同シ)b十一萬、c三千

d六千e千二百f二三百g六千碼h百三十一萬五千碼

三、輸入業者ニ對スル輸入許可比率ニ就テハ例ノ八割五分及一割五分云々ノ規定ヲ廢シ「經濟長官ハ輸入業者ト認メタルモノニ對シ専門委員會ト協議ノ上各輸入業者ノ利益ニ對シ妥當ナル割合ナリト判断スル數量ヲ許可スル」旨

ニ變更ス

四、和蘭ニ對スル割當量、前記二ノbハ四萬九千五百fハ九

十dハ全部

スラバヤ、メダンニ轉電シ蘭へ暗送セリ

~~~~~

388 昭和9年12月15日 長岡日蘭会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

我が方總括提案に対するオランダ側回答覺書

の内示について

一、覺書冒頭ニ於テ「蘭代表部ハ十一日提案アリタル日本提

本政府ニ於テハ今尚多方斡旋ヲ續ケ居ルモノト思考ス就テハ貴下ヨリラ氏ヘ本官トノ會談ノ顛末ヲ徹底スル様報ノ用意携帶セル説明覺書(本省來電第一七七號二ノ要領)及十一月廿九日ノ會談要領英譯ノ寫ヲ得タシト云ヘルニ付之ヲ手交シタル處本件ニ關シテハ來ル月曜日長岡ラ會見ニ於テ言及セラルル事トナルヘシト述ヘタリ

蘭へ轉電セリ

~~~~~

案ヲ慎重ニ研究シ輸入及輸出問題ヲ分離シテ協定スル事

ヲ求ムル意向ニ非サル事ニ付テハ日本代表部ト全然意見
ヲ回シウスルモ右ハ單ニ日本提案ノ形式的問題ニ關スル

ニ過キス然シ乍ラ右提案ノ内容ニ關スル限り蘭代表部ハ

bitterlyリ失望セリ日本提案ハ蘭代表部ノ承諾シ得カル

所ナリ」
ニ述べ次ニ今次神丘ニ於ケルト社ノ基本條項案

提出カ日本海運業者ノ拒絕ニ遭クル點ヲ引用シタル後曰

本提案ヲ承諾ベル能ハナル理由ヘシ大記ノ大體ヲ擧ク

1) The Netherlands Delegation are compelled to

state that in case the importation of Japanese goods
should be governed by the principles laid down in

Annex A of the Japanese memorandum, they would
^(therefore)

not be a sufficient equivalence between the amount of
Japanese imports and the amount of the Netherlands

Indian export to Japan.

2) moreover the Netherlands Delegation object on
principle to the desideratum of the Japanese Dele-

gation that quantities instead of percentages should be
fixed.

the Japanese Delegation that this wording is suscepti-

ble to further consideration.

「次テ右反對諸點ニ關スル詳細ナル註釋ヲ記載シ居レルカ
要點左ノ通り

(イ)蘭側ハ當初ヨリ口頭及文書ヲ以テ交渉ノ根本的基礎
(fundamental base of the negotiations)ヘ一ベバ

ハバ・オア・トニー・ズヘ不健全ナル進展ナル事並ニ右
ベハノスヘ回復ハ兩當事者ニ取り満足タルヘキ協定ノ
主張條件トシテ考ヘラサルヘカラサル事ヲ累次強調
セリ

(ロ)蘭代表部ハ蘭印物産ノ買付ニ關スル日本提案記載ノ提
議カ日本代表部ニ於テハ著シクルイスターイ・セ・ハ
ルバランス・オア・トニー・ズ改善ノ必要ニ關シ蘭代表
部ノ懷ク意見ト根本的ニ異ナル意見ヲ有スル事ヲ明ニ
セルヲ遺憾ヘバ

第一、 Annex D111-1 総的ヘコマーケト記載ノ題ル
「「Iih-copra, damar, tapioca, sago, rattan等ノ物產
ノ問題ヲ取除キ居レリ蘭側ハ日本側ヨリ右物產ノ數字
的offerヲナベキ事ヲ度々要求セルカ日本案ハ些少

3) Furthermore, decisive objections exist against
Note 1 of Annex A., concerning the transferability of
the import quantity of cotton piece-goods.

4) The Netherlands Delegation is deeply disappoint-
ed that the stipulation which it made as condition sine
qua non concerning the limiting of re-exportation out
of Japan of goods exported from the Netherlands
Indies have been entirely ignored in the Japanese
proposals.

5) The proposal set forth in Section 1 of Annex B.
is unacceptable to the Netherlands Delegation, since
the system that is therein recommended for determin-
ing the shares to be granted to various importers
does not sufficiently meet the ends which are being
striven at by the importers license-system.

6) The wording of the guarantee clause as stated in
Annex C. is entirely unacceptable to the Netherlands
Delegation; in the meanwhile they have taken
cognisance of the verbal statement of the President of

將來商議ノ基礎タルクキ點ヲ提議シ附リベ

第一、砂糖ノ購入ニ關スル日本側提議ハ蘭側ノ提議セ
ルセノヨリ遙ニ少ナリ協定全期間中ニ五十萬噸リトハ
バランス・オア・トニー・ズヘreasonable improvement
ト招致スルヲ得サルハミナラス蘭側カ締約必須條件ト
シテ明ニ擧ケタル日本砂糖輸出ノ制限ニ付一語セ而及
ハ居ラバ日本ヨリノ砂糖再輸出ノ制限ニ關スル保障ニ
付テハ度々絶對必須條件ナル事ヲ強調シ居ルヲ以テ茲
ニ再ヒ指摘スルノ必要ナキモ若シ爪哇糖ノ現存極東市
場ニ於テ日本側ノ無制限ナル競争ノ可能性アリトセバ
一切ノ砂糖購入ノ提議ハ爪哇糖業ニトリ無價值タルく
キヲ明言ス右保障ナキ限り爪哇糖業ノ現状ニ單ニ不利
ト齋スニ過キス要之蘭代表部ハ“conditio sine qua
non”カ全然拒絕セラシタリトノ結論以外ニ到達スル
事能ハベ

乙向Annex A111-1ハヘ一般的反対アリ

第一、日本提案リ於テ日本ニ許サルヘキ輸入ノ右提案
中ニ示サルル輸出ノproportionヘ承諾スル能ベ(尤
モ蘭代表部ハ一丸1111年ノ基準ヨリ)割減ニテ計算セ

ラントル日本ノ輸入ニ付テ不満足ナカラモ今後商議ノ
餘地アリト考フ)

第一一、日本側ハ蘭側ノ提起セルカ如キ輸入ノ確定バ
セント一ホノ代リニ商品ノ確定數量ノ自由輸入ニ對ス
ル保障ヲ求メ居ルコトニ主義上反対ベ

①綿布輸入制限ハ各細別ニ對シ別箇ニ之ヲ適用スル意向
ナルリ² Annex A ～Note 1～移讓制ハ之ヲ認メ難シ
日本商人ノ輸入比率ニ關スル日本提案ハ若シ之ヲ採用
セハハイセハス制ノ目的ヲ達シ得サルヲ以テ受諾シ難
シ尤モ蘭側ハ曩ニ提案セシモノヨリモ遙ニ日本ニ取り
有利ナルハイセンス制ノ實施ヲ保證スルノ用意アリ之
ニ依レハ日本商人ノ比率ハ各品種ニ付一九三三年ノ總
輸入數量ニ對スル日本商人輸入實績ノ割合ノ最高ニ割
五分(25%)過トナルヘシ然シ此ノ保障ハ他ノ諸問題ニ
付妥結ヲ見タル時ニノミ與ヘ得ベシ

三、尚海運問題ニ關シテハ日本船會社側ハ神戸會商ニ於テ五
原則ノ討議ヲ拒絶シタル爲蘭政府ハ海運問題ニ關スル滿
足ナル協定ニ達シ得ラルくハメヘCertainty³ニ持タサル
ニ至リタルカ蘭政府ニ取リテハ海運問題ノ満足ナル協定

question in the affirmative, it can communicate directly with the Japanese Government over what manner of further negotiations appears to offer the most hope of eventually arriving at the agreement so earnestly desired by both parties.

389 昭和九年12月17日 島國日蘭会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

オランダ側案文に我が方意向を取入れた会商
休会の宣言案(了承方請訓)

別電 十二月十七日発長岡日蘭会商代表より広田外

務大臣宛第三〇一印

右休会宣言案

第II〇一號(件急)
本省 着
ベタヴィア 12月17日後3時15分発

別電第二〇一號ハ當方ヨリ種々說得ノ上漸ク右案ニテ本國
政府ニ請訓スル事ニ同意セシメタル次第ナルカ蘭側ハ會見

前ヨリ會商打切ノ決意ヲ以テ豫メ宣言案文迄モ用意シ居リ

ハ通商協定ニ達スル必須條件ナルヲ以テ此ノ條件ノ満足
ヲ差當リ實現不能ニ陷ラシメタルハ右日本船會社側ノ態
度ナリト言ハサルヘカラベ
四、過去數ヶ月ニ亘リ日蘭双方ニ於テ妥結ニ到達セントノ努
力ヲ以テ種々ノ讓歩ヲ爲サンタルカ

That in spite of these mutual concessions in an effort to arrive at an agreement such deep differences of opinion should still remain on important points, brings the Netherlands Delegation^(Delegation) to the reluctant conviction that at present no further good can be expected to come from a continuation of the deliberations between the two Delegations.

They feel themselves bound, therefore, at this juncture to lay the Japanese proposals and the announcement of the Japanese shipping companies before the Netherlands Government, which will have to decide if any further interest is felt from the Netherlands side in continuing the negotiations.

If the Netherlands Government should answer this

其ノ第一項ニシテハ

「兩首席代表ハ共ニ曰トノ情勢ニ於テ交渉ノ繼續ハ乍遺憾實際的價値ナキカ如シトノ見解ニ一致ス但シ右ノ決意ハ何等兩國ニ存スル良好ナル關係ヲ阻害スルモノニ非ナル事ヲ確信スルモノナリ」

ト起案シ居リタルカ右ノ打切ト解セラルル文句ハ之ヲ削除セシメ貴電第一六六號及第一七一號ノ御趣旨ヲ體シ飽ク迄會商繼續ノ形式ヲ保存シ度ク或ハ神戸海運會商ト本會商ト密接ナル聯關アル事ヲ仄カスノ厭ハアレトモ「右民間會商ノ進行ヲ注視スル事ニ一致シ」ト輕ク蘭側ノ主張ヲ受入レス其ノ事務ヲモ續行スル事ヲ明白ニシタルモノニシテ我方ニ於テモ代表部ノ組織ハ縮少スルトモ依然貴大臣御趣旨ノ通り越田姉歛居残リテ何時ニテモ交渉ヲ繼續シ得ル取計ヒ置キタリ右ニテ貴大臣ノ御内意モ充分達成シ内外ニ對シテモ決裂又ハ中止等ヨリ起ル非難モ脱レ得ベク將又會商ノ眞ノ再開迄ノ措置ニ就テモ蘭側ハ會商妥結不可能ヲ理由トシテ勝手ナル措置殊ニ從來會商妥結迄ノ便法トシテ定メタル暫定措置ヲモ變更スルノ口實ヲ與ヘサル様成シ得タリ

ト信ス右ノ次第ニテ豫メ請訓ノ暇ナク本日會談先方ノ提案
ヲ機會ニ修正意見ヲ押付ケ納得セシメタルモノナリ以上本
使ノ微衷御諒察ノ上至急右宣言案御承認ノ回電ヲハ

別電ト共ニ蘭へ轉電セリ

(別 電)

ベタヴィア 12月17日後2時30分
本 省 着

第11〇1號

Les Présidents des Délégations constatent d'un commun accord que les négociations entamées à Batavia, tout en ayant contribué à préciser les points de vue des parties négociantes et à supprimer certains malentendus, n'ont pas encore abouti à un résultat définitif.

Etant donné que la conférence entre les compagnies de navigation des deux pays est sur le point de se réunir à Kobé, les Délégations se sont tombées d'accord de suivre les marches des travaux de cette conférence.

En attendant, la conférence de Batavia renvoie ses

ト信ス右ノ次第ニテ豫メ請訓ノ暇ナク本日會談先方ノ提案
ヲ機會ニ修正意見ヲ押付ケ納得セシメタルモノナリ以上本
使ノ微衷御諒察ノ上至急右宣言案御承認ノ回電ヲハ
別電ト共ニ蘭へ轉電セリ

travaux en vue déclarer la situation pour recommander le dernier règlement.
(déclarer⁹)

編注 十一月十七日発長岡日蘭会商代表より広田外務大臣宛電報第11〇111即ちも「le dernier règlement」
〔le règlement définitif〕ハ既定わねだ。
~~~~~

390 昭和9年12月17日 長岡日蘭会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)  
本 省 着

第11〇四號

往電第11九七號ニ關シ

我が方總括提案に対するオランダ側回答書  
および海運問題に関するト社基本条件など  
ハコトのハノハノト代表との会談にて  
ト

ベタヴィア 12月17日後11時発

本 省 着

往電第11九七號ニ關シ

本十七日前本使ハト會談(越田、イーハンブルグ回席)  
要領左ノ通  
1. 本使ハ貴方覺書(冒頭往電及第11九八號參照)リ關シ重要

ナルリマークヲ爲シ度シト前置キシ同覺書ノ最終ノ項  
(往電第一九八號四、英文末項)ノ起草者ハ或ハ其ノ重要  
性ニ想到セサリンモノカトモ存スルカ同項ハ我代表部ノ  
名譽上到底之ヲ受諾シ得サルモノナリトハヘルニトハ怪  
訝ナル面持ヲ爲シタルヲ以テ本使ハ同項ハ我代表部ノ存  
在ヲ全然無視スルモノリシテ越田及本使ハ日本國ノ全權  
委員トシテ會商全般ノ權限ヲ有シ居ル事ハ御承知ノ通ナ  
ルカ同項ハ貴方ノ一方的意思ニテ蘭國政府カ今後ノ處置  
ニ付日本政府ト直接コムニコケートスル旨通告セルモノ  
ニシテ換言スヘ最早日本代表部ニ用無シ早々歸國アリ  
タシト解シ得ヘクスクノ如キハ我代表部ノ名譽ト權威ニ  
鑑ミ到底受諾シ得サルニ付同項ヲ削除スル事至當ナリト  
申出テタルニトハ頗ル驚キ且意外ノ面持ニテ同項ハ斯ク  
ノ如キ意思ニテ起稿セラレタルモノニ非サルノミナラス  
毛頭日本代表部ヲ輕侮スル意思ナシト辯解シタル後スナ  
オニ同項削除ニ異議ナキ旨ヲ答ヘ本件解決セリ

「本使ヨリ貴方覺書ヲ一讀シ甚夕失望セリ即チ同覺書ハ我  
方總括提案ニ對スル單ナル批評ニ止マリ輸入商比率問題  
ヲ除キテハ一ノ具體的對案ナシ我方ニテハ互讓ノ精神ニ

基キ作成セル具體的提案ヲ爲シタルヲ以テ貴方ニテモ亦  
右ニ對シ具體的對案ヲ提出アル事ト豫期シ居タルニ貴方  
覺書ハ單ニ抽象的議論ニ止マリ而モ其ノ結論ヘハトsuch  
deep differences of opinion should still remain on  
important points(往電第一九八號四、英文第一項中)ム  
述く右ニ基礎ヘルトat present no further good can be  
expectedハニヤナルconviction ハ貴代表部ハ得ラシ事  
ヲ推論シ居ルカ如何ニシテ貴方カスクノ如キ決定ニ到達  
セラレタルヤノ根據ニ付説明ナシ本使カ貴方覺書ヲ通覽  
シ得タル印象ハ今後尙交渉ノ余地充分有ルモノノ如クナ  
ルカ此ノ機會ニ於テ本使ハ蘭代表部ハ比率二割ヲ二割五  
分ニ引上ケル以外從來ノ提案ヲ固執シ何等ノ讓歩ノ余地  
ナシトノ見解ヲ有スルヤ Yes No ヘ明白ナル回答ヲ得度  
シトハヘルニトハ若シ Yes No ヘ回答ヲ求メラルニ於  
テハ蘭代表部トシテハノート答フルノ外ナキ處本件ニ關  
シテハ日本側提案及之ニ對スル蘭側回答ヲ本國政府ニ送  
リ其ノ考慮ヲ求メツツアリ私見ニ依レハ必シモ絶望シ  
タル譯ニハ非サルモニノ重大問題横ハレリ即チ(砂糖)  
海運問題(日本側提案中ノ新規ノ事項ナリト述ヘタルヲ

以テ本使ハ右新規事項ハ何ヲ指サルルヤト問ヘルニ蘭側回答覺書第二頁記載ノ全部(往電第二九八號一、中ノ英文一乃至六ヲ意味ス)ナリト云ヘルニ付本使ハ然ラス右ノ内新規ノモノハ單ニ綿布移讓制(前記括弧内英文三、)ニ關スル事項ノミニテ之ニ付テハ協議ノ余地アリト述ヘタルニラハ言ヲ左右ニシ主要問題ハ砂糖殊ニ其ノ再輸出條件ナルカ此ノ外ニモ蘭印物產ノ買付問題アリト云ヘルニ付本使ハ貴方ニテハ再輸出條件ニ付絕對的態度ヲ執リ居ルモ本件ハ砂糖買付者タル日本商人ト賣込者タル蘭印商人間ニ賣買ノ際必要ナル條件ヲ取極メレハ解決スル事ニテ左シタル難事ニハ非サルヘク其ノ他ノ物產購入ニ付テモ御希望アラハ早速當業者間ニ話ヲ進メシムル事トセハ何等力解決ニ到達シ得ヘシト思ハル旨述ヘタル處ラハ何レニセヨ今日ノ事態ニテハ双方ノ歩ミ寄リ容易ナラス貸スニ時ヲ以テセハ例ヘハ六ヶ月モ經過セハ自ラ双方ノ意見モ成熟スヘク解決必シモ難事ニアルマシク此ノ點自分ハ悲觀シ居ラスト述ヘタル後

三、船舶問題ニ入り右ニ對シ本使ヨリ神戸ニ於ケルJ社ノ遣口ハ甚タ不可解ニシテ又右ニ關スル貴方ノ書翰(往電二

八七號)モ諒解ニ苦シム處ナルカ右ハ十四日越田ウエヤ會見ノ際越田ヨリノ詳細陳述(往電第二九五號參照)ニヨリ萬事冰解セラレシ事ト思ヒ居タルニ貴方覺書中ニモ尙Japanese shipping companies have refused to discuss the five points to be mentioned in the announcement of the Japanese shipping companiesハ會商ノ運命ヲ決スヘキ一要素トシテ掲載シアリ如何ニモ諒解シ難キ處ナリJ社來電トシテ貴方書翰ニモ掲載<sup>(カ)</sup>アル如ク日本船會社側ハ所謂基本五ヶ條ヲ拒絶セルニハ非スシテ右ノ檢討ハ會商ニ於テ之ヲ爲スヘク其ノ以前ニ斯クノ如キ問題ノ商議ニ入ルヲ拒絶セル迄ナレハ單ニ手續上ノ問題ニ過キス問題ノ根本ヲ拒絶セルカ如キ態容ニテ論議セラレ居ルハ誤解モ甚シト縷々説明シタル處ラハJ社ノ取りタル手續カ如何ニモ拙劣ナル事ヲ認ムト同時ニ蘭印政府ニ於テモ神戸會商開始ノ爲充分ノ斡旋ヲナスヘケレハ日本政府ニ於テモ同様ノ斡旋方希望ス尤モ右ハ蘭代表部限リノ意見ニシテ自分ハ此ノラインニテ政府ニ進言シ度キニ付日本

政府ニモ可然申入レラレ度ク尙オブザバーヲ列席セシムル事ハ見合スル事トセリト述ヘタルニ付本使之ヲ快諾セリ

四、ラヨリ當地ニ於ケル會商ト神戸會商ノ關係ニ付一言シ度シト前置キ右ノ通兩國政府ノ好意的斡旋ニ依リ神戸會商進行ノ場合其ノ模様ヲ或る程度迄見極メサルニ於テハバタヴィア會商ヲ此ノ上繼續スルトモ或ハ無意味トナルヲ惧ル尤モ之ハ會商當初ヨリ蘭側主張ノ如ク海運問題輸出入問題ハ分離シ得サルモノナレハ兎モ角神戸會商ノ見極メツク迄バタヴィア會商ハ之ヲ延期シ度尤モ之ハバタヴィア會商延期ニ關スル半面ノ理由ヲ述ヘタルニ過キスバタヴィア會商延期ノ眞ノ理由ハ目下ノ處砂糖問題其ノ他ニ關スル難關ヲ打破シ得ル名案存在セサルニアリト述ヘタルニ付本使ハ神戸會商ノ結果カ成功的ナル時ハバタヴィア會商再開ノ意見アリヤト云ヘルニラハ私見ニテハ可能ト信スルモ本國政府ノ意向ハ之ヲ知ラス從テ之カ決定ハ本國政府ニ委スルノ外ナカルヘシト答ヘタリ依テ本使ヨリバタヴィア會商再開ノ場合今後ノ問題ハ計數其ノ他純技術的事項ナルニ付外交的商議ニ依リテ之ヲ解決セント

スルハ事情ニ適セサルヘク從テ海牙ニ於テ再開スル事ハ武富公使ニモ困難アルヘシト云ヘルニラハ自分モ過般ヘルテレンヨリ海牙說ヲ聞キタル時貴見同様ノ意見ヲ述ヘシ事アルカヘカ越田ニ述ヘシ事ハ總テ同人限リノ事ニテ自分ハ毛頭與リ知ラスト幾分不滿ノ意ヲ洩ラシ居タリ本身ハ會商開催地ニ付蘭國政府ハ當初海牙ヲ又日本政府ハ東京ヲ主張セルイキサツアリ結局双方妥協ノ上當地ニ開催スル事ニ決定セルモノナレハ再開ノ場合ニハ矢張リバタヴィアコソ適當ノ場所ナルヘシト云ヘルニラハ同感ノ意ヲ表シ居リタリ依テ本使ハ然ラハ凡ソ双方ノ意見モ判明セル次第ナルニ付今後ノ處理ニ關シ考案ヲ立ツル事トシ度シト申出テタル處ラハ實ハ其ノ案ハ當方ニ用意シアリトテ第一項トシテ往電第三〇二號第一項並ニ第二項トシテ往電第三〇一號前段括弧内ノ文句ヲ記載セル案ヲ示セルニ付本使ハ右第二項ハ好マシカラス幸ヒ先刻ノ御意見ニテヒントヲ得タルニ付之ヲ取入ルル事トシテハ如何トテ第二項ニ代ル往電第三〇二號第一項及第三項ヲ起草提示セル處ラモ之ニ異存ナク双方速ニ本國政府ニ請訓スル事ニ打合セヨ遂ケタリ就テハ往電第三〇一號具申ノ通

御承認ヲ得度ク蘭側覺書ニ對シテハ單ニ今後休止狀態ヲ  
續クル事故別ニ回答覺書ヲ發送スルニモ及ハサヘク先方  
亦之ヲ期待シ居ラス

蘭へ轉電セリ

391 昭和9年12月18日 広田外務大臣より  
長岡日蘭会商代表宛(電報)

サロン積止め解除の決定について

本 省 12月18日後発  
バタヴィア 12月18日後着

第一八七號

往電第一八〇號ニ關シ

「サロン」ハ廿一日積止メ解除ニ決定セリ

廣田外務大臣より  
長岡日蘭会商代表宛(電報)

392 昭和9年12月22日

代表帰国に際し両國代表部による折衝継続の  
旨蘭印總督などに説明方訓令

一、貴代表御出發前自然總督等ニ御面會ノ節貴官ハ一先ツ報  
告ノ爲歸國スルモ兩國代表部ハ依然存續ノコトニモアリ  
帝國政府トシテハ本會商開催ノ目的ヲ達成スル爲今後ト  
雖モ自ラ友好的精神ヲ以テ最善ノ努力ヲ致ス覺悟ナルカ  
蘭側ニ於テモ同様ナルヘシト確信スル旨本大臣ヨリノ傳  
言トシテ可然申入レ相成度

二、今後兩代表部カ依然存續スルコトヲ先方モ同意シ居ル以  
上各種制限措置ニ付蘭印側ニ於テ必スシモ極端ナル措置  
ニ出ツヘシトハ豫想セサルモ矢張リ此ノ際貴電第三〇七  
號措置ノ紳士協定ニ付未タ先方ヨリ確定的回答ナキニ於  
テハ御歸朝前此ノ點ヲ明確ナラシメ置ク様御配慮ノ程希  
望ス

三、當方面新聞中ニハ貴地發電トシテ貴官引上ケニ際シ何等  
友好的「コンミニケ」スラ發セラレス云々ト報導<sup>(音)</sup>シ居  
ルモノモアリ會商今後ノ關係ニ付憂慮ノ向モ存スルニ付

テハ貴代表ハ本國政府へ報告懇談ノ爲歸國スルモ兩國代  
表部ハ依然「バタヴィア」ニ於テ接衝ヲ繼續スルモノナ  
ルコトヲ可然方式ニテ發表シ置カルル様致度  
四、尚冒頭貴電後段ニ鑑ミ此ノ際ナルヘク越田ノ接衝相手ヲ  
明確ニシ置ク要アルヤニ存ス

五、貴電第三一四號ニ付テハ本邦ヨリ出張セルモノハ全部此  
ノ際一先ツ歸朝セシムルコトトシ(小林囑託ヲ含ム尙今  
後ノ必要アラハ當分早間ヲ殘留セシメラレ差支ヘナシ)  
殘餘ノ貴地方面部員ヲ以テ代表部ヲ構成シ置カレ度シ  
蘭へ轉電セリ

\* 事項編注  
本事項採録文書中、外務本省よりの往電で発・受信日とも記載のあるものおよび現地代表部からの来電で発電日のみ記載のものは、日蘭会商代表団持ち帰りの手書き写文書から採録したものである。

貴電第三一三號ニ關シ  
第一九四號

本 省 12月22日後発  
バタヴィア 12月22日後着